

**家事や育児等と仕事との
両立に関する意識調査
〈報告書〉**

平成22年3月

仙 台 市

目 次

I 調査の概要	1
II 回答者の属性	3
III 調査結果の要約	7
IV 調査結果の分析	19

「男女共同参画に関する意識について」

問1. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方	19
問2. 各分野における男女の地位について	21
問3. 男性が家事や育児等を行うことについて	30
問3①. (男性が家事や育児等を) “行うべき” とする理由	32
問4. 家事や育児等の実施状況	34
問5. 生計、家事や育児等に関する配偶者との分担割合について【理想と現実】	36
問6. 家事や育児等に参加・分担していくために必要なこと	39

「就業と『ワーク・ライフ・バランス』について」

問7. 仕事に就いているかどうか	41
問8. 就業形態	43
問9. 1日の労働時間	45
問10. 仕事と日常生活の優先度合いについて【理想と現実】	48
問11. 今後の就業意向	51
問11①. 仕事に就いていない理由	53
問11②. 仕事に就きたいと思わない理由	54
問12. 「ワーク・ライフ・バランス」の認知度	55
問13. 自分が希望する時間の使い方ができているかどうか	58
問14①. 「ワーク・ライフ・バランス」実現のために重要だと思うこと【企業・職場】	62
問14②. 「ワーク・ライフ・バランス」実現のために重要だと思うこと【政府・自治体】	64
問15. 「ワーク・ライフ・バランス」実現のために実施していること等(自由記述)	66

「女性の就労について」

問16. 女性が職業をもつことについて……………	68
問17. 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけとした退職経験の有無……………	70
問17①. 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに勤め先を辞めた理由……………	75
問18. 仕事と家庭の両立のために必要だと思うこと……………	78

「各種休業制度について」

問19. 「育児休業制度」・「介護休業制度」の認知度及び利用経験について……………	80
問20. 「育児休業制度」・「介護休業制度」の男性利用者が少ない理由……………	83

V 資料編 ……………	85
男女共同参画についてのご意見・ご要望(巻末 自由意見)……………	85
アンケート調査票……………	88

I 調査の概要

① 調査の目的

仙台市では、平成21年に策定した「男女共同参画せんだいプラン[2009-2010]」に基づき、男女共同参画に向けた取組みを推進しており、その中の重点課題のひとつである「子育て・介護・地域活動等と仕事との両立の支援」、「労働の分野における男女共同参画の推進」では、その取組みに、男性の家事参加、女性の就業や就業継続支援、ワーク・ライフ・バランスの推進などを掲げている。

本調査は、男女共同参画に関する市民の方々の意識を把握するとともに、育児期の女性の労働力率が低い要因を分析し、女性の就業や就業継続支援の施策を検討するための基礎資料を得ることを目的に実施した。

② 調査の項目

- (1) 男女共同参画に関する意識について
- (2) 就業と「ワーク・ライフ・バランス」について
- (3) 女性の就労について
- (4) 各種休業制度について

③ 調査の設計と回収結果

「家事や育児等と仕事との両立に関する意識調査」	
調査対象	仙台市内に居住する20歳以上の男女2,500人
調査方法	郵送による配布・回収（督促はがき1回送付）
調査期間	平成22年2月12日（金）～2月26日（金）
企画実施	仙台市 企画市民局 市民生活部 男女共同参画課
調査機関	株式会社ソノベ

	標本数	回収数	回収率
全体	2,500	1,053	42.1%
男性	1,250	464	37.1%
女性	1,250	555	44.4%

（性別不明 34）

④ 本報告書の見方

- 本調査の集計・分析には、基本的に単純集計、クロス集計を用いている。
- 比率等については、小数点以下第2位を四捨五入して算出・表記しているため、単数回答設問であっても、合計が必ずしも100.0%にならない場合がある。
- 図表中の n (number of cases) とは、その設問項目における回答者数であり、回答比率における100%に相当する。
- クロス集計では、表・グラフの側面にある設問（性別・年代など）に無回答であった方の人数は記載していない。そのため、nの値を合計しても全体のnの値とは等しくならない。
- 各設問におけるクロス集計結果で、サンプル数が少なく定量的分析に耐えないと思われる項目については、分析の記述を避けている場合がある。
- 報告書中で、内閣府及び本市の実施調査の同様設問との比較を行っている箇所があるが、選択肢の文面、表現、数量などが本調査とは異なっているケースもあるため、その内容についてはあくまで「参考」としていただきたい。

《参考にした調査の一覧》

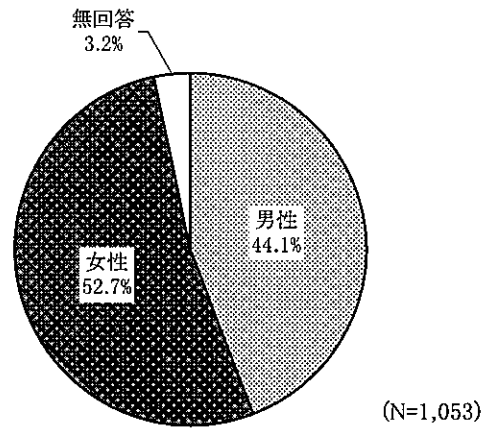
「男女のライフスタイルに関する意識調査」（内閣府男女共同参画局・平成21年）

「家事時間等に関する市民意識及び実態調査」（仙台市男女共同参画課・平成17年）

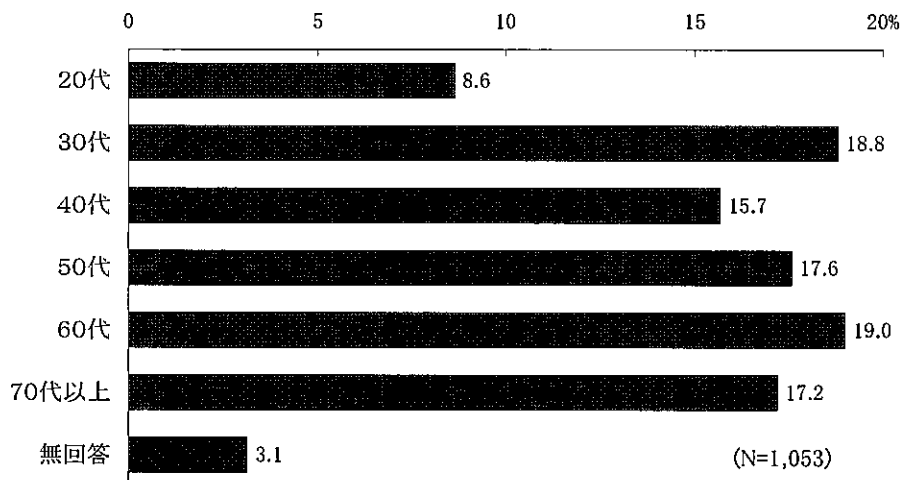
「男女共同参画社会に関する市民意識調査」（仙台市男女共同参画課・平成13年）

II 回答者の属性

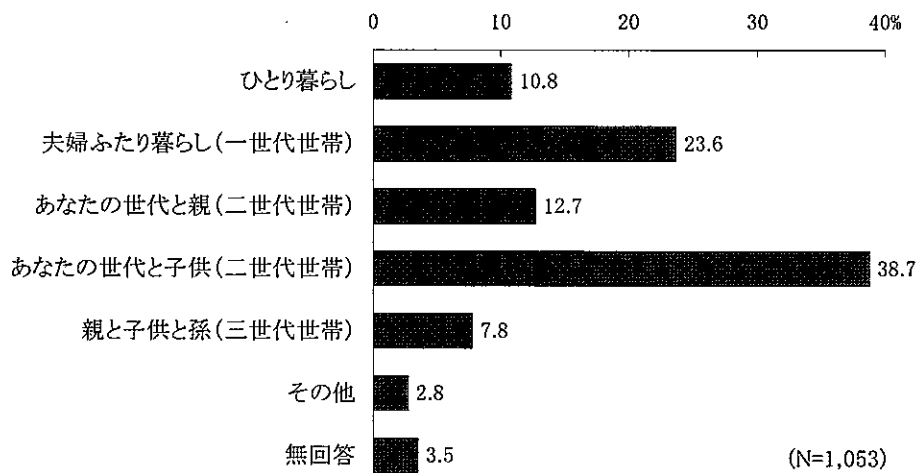
F1. あなたの性別をお答えください。(〇は1つ)



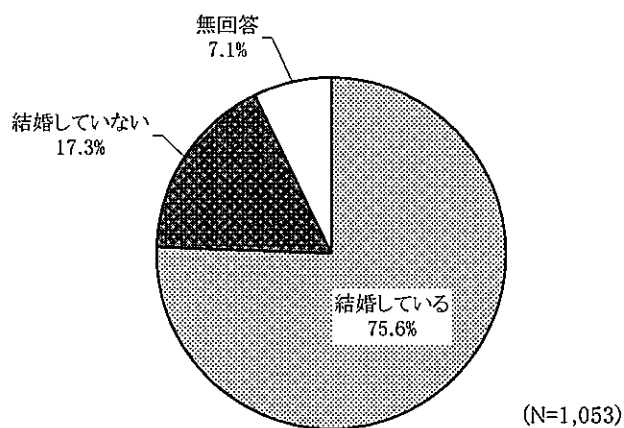
F2. あなたの年代をお答えください。(〇は1つ)



F3. 現在同居されている家族の構成をお答えください。(〇は1つ)

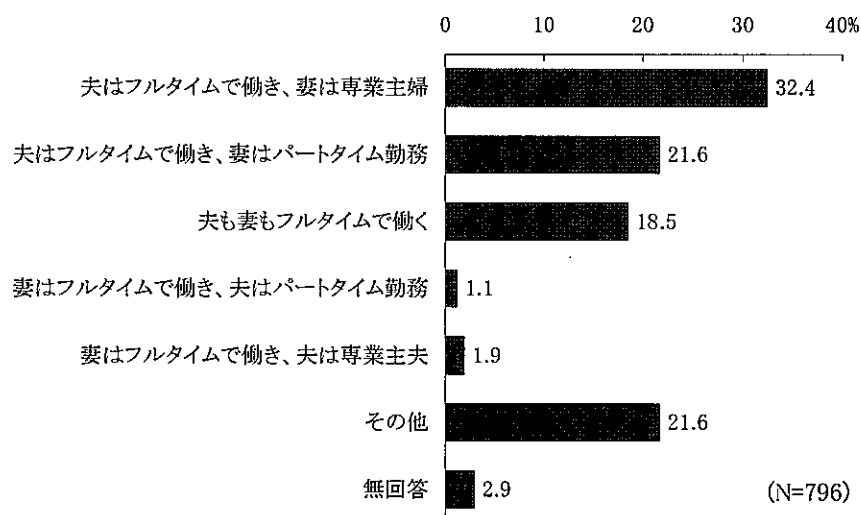


F4. 結婚の有無についてお答えください。(〇は1つ)

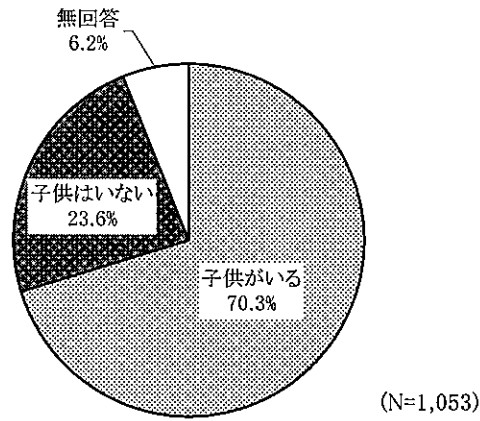


F4で「1. 結婚している」とお答えの方にだけおたずねします。

F4①. 「勤務形態」について、あなたのご家庭ではどのようになっていますか。(〇は1つ)

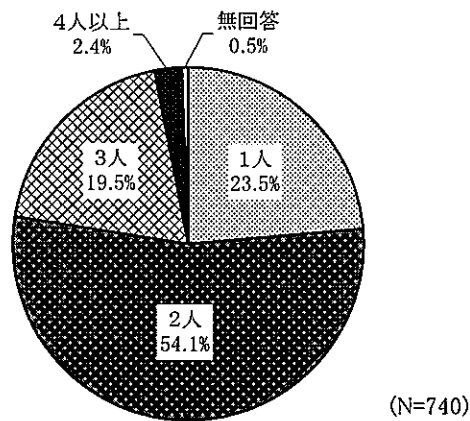


F5. お子さまの有無についてお答えください。(〇は1つ)

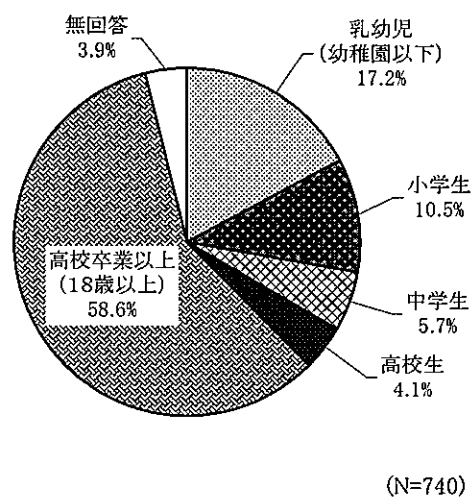


F5で「1. 子供がいる」とお答えの方にだけおたずねします。

F5①. お子さまの人数をお答えください。(〇は1つ)



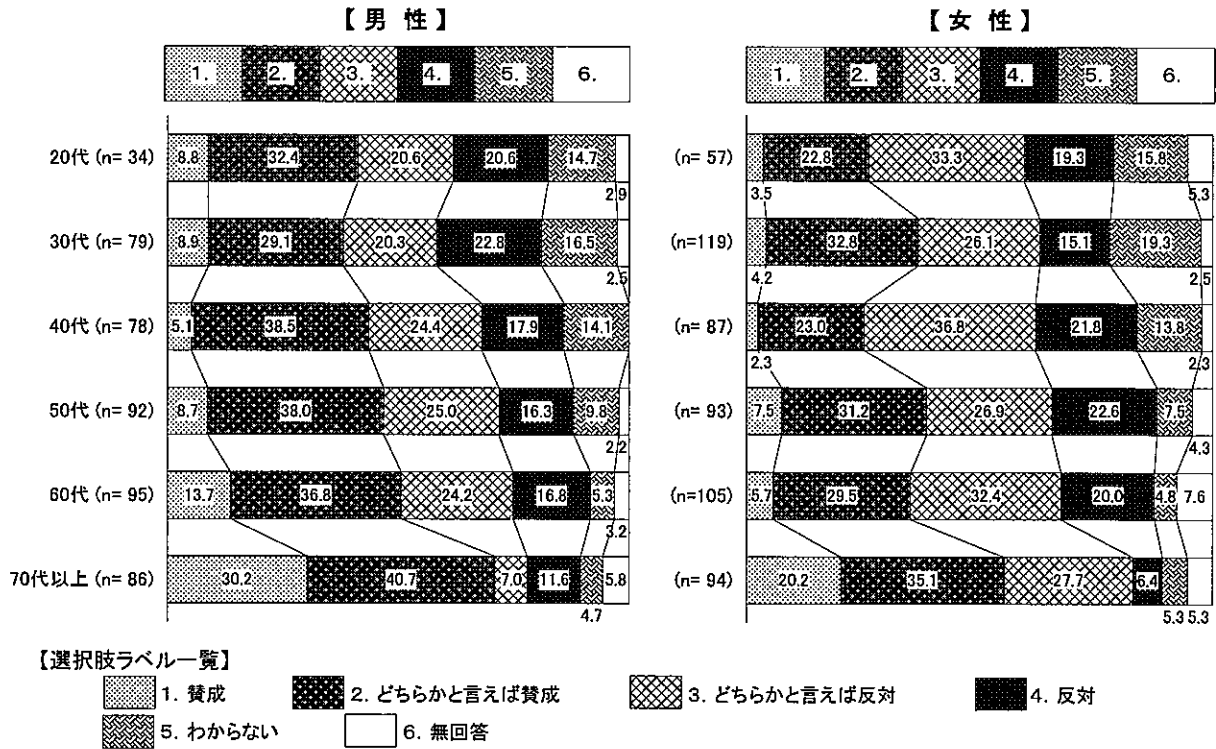
F5②. 一番下のお子さまの年代をお答えください。(〇は1つ)



Ⅲ 調査結果の要約

問1. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について(単数回答)

“反対”は女性の方で多く、20代・40代では5割を超える。
 一方、高年齢層では“賛成”が高い傾向が見られ、男性70代以上では約7割に達する。

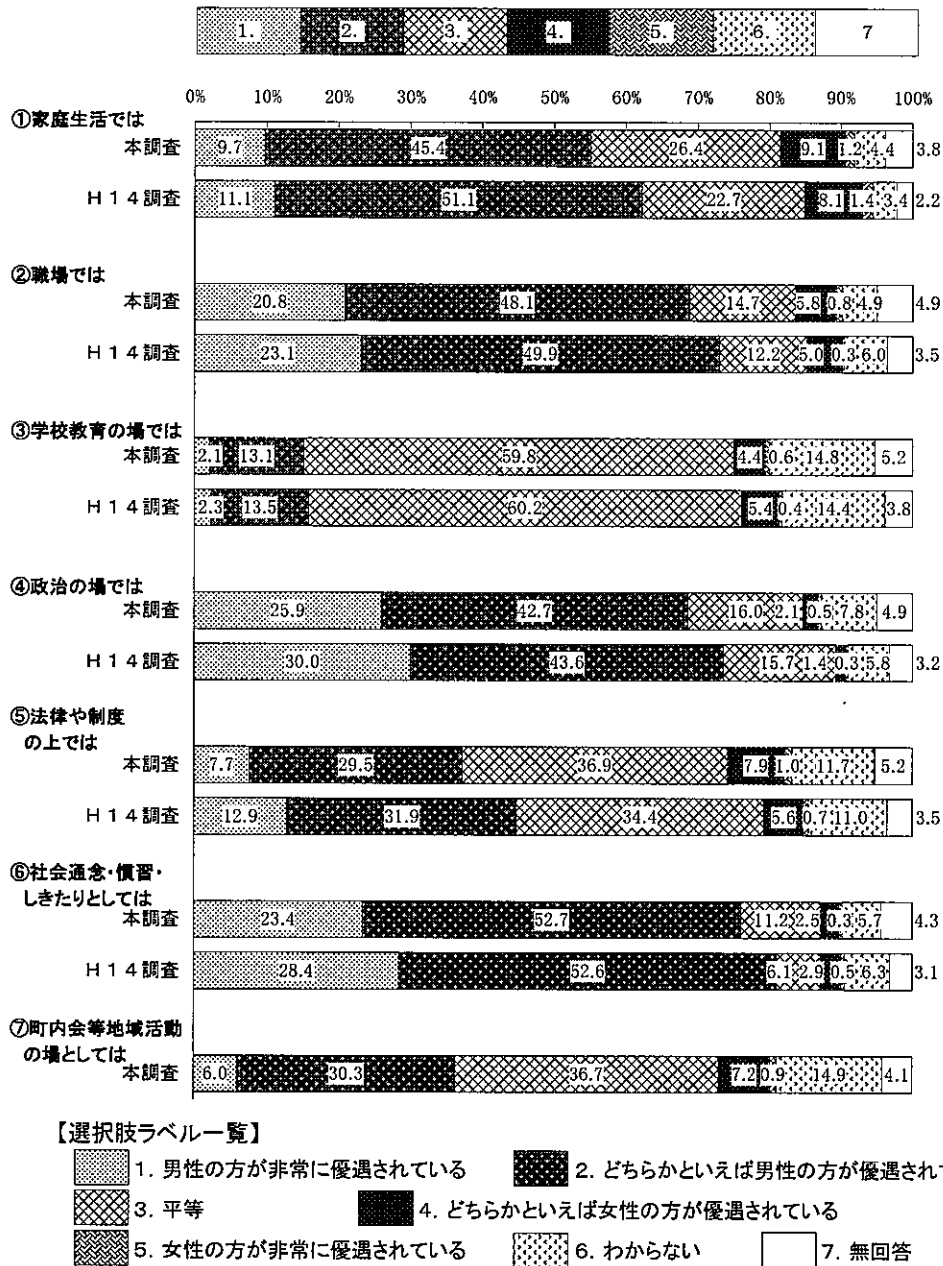


男性よりも女性の方で“反対”（「反対」＋「どちらかと言えば反対」）の割合が高く、特に女性の20代・40代では5割を超えている。

全体的に、男女とも年代が上がるほど“賛成”（「賛成」＋「どちらかと言えば賛成」）の割合が高くなる傾向にあり、男性の70代以上では約7割（計70.9%）にも上っている。

問2. 各分野における男女の地位について(それぞれ単数回答)

家庭生活、職場、政治の場、社会通念・慣習・しきたりは“男性の方が優遇”の割合が高い。
 一方、学校教育の場では「平等」が約6割に達している。
 H14調査と比較すると、“男性の方が優遇されている”の割合は全般的に減少傾向にある。



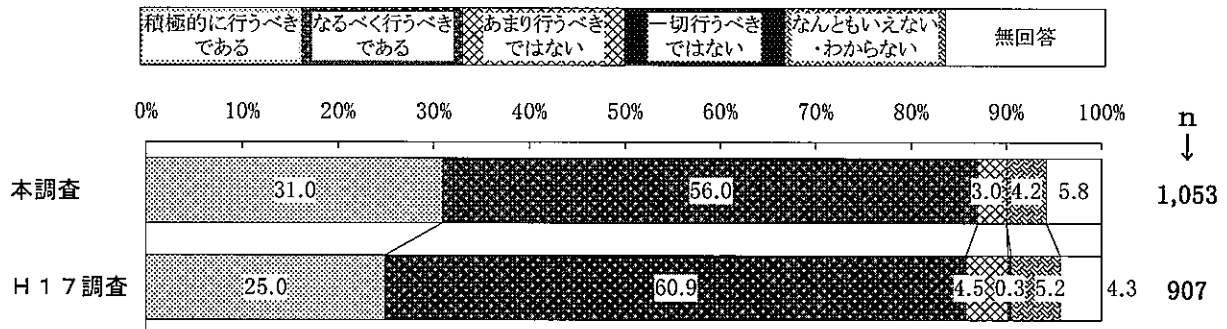
※「⑦町内会等地域活動の場としては」の設問は、本調査で新たに設定した設問のため、本調査の結果のみ掲載している

「家庭生活」、「職場」、「政治」、「社会通念・慣習・しきたり」では“男性優位”である様子が伺えるが、「学校教育」では多数の方が“平等”と考えていることが分かる。

本市が平成14年に実施した『男女共同参画に関する市民意識調査』の結果と比較すると、“男性の方が優遇されている”の割合が減少傾向にあり、“女性の方が優遇されている”が若干ではあるが増加傾向にある。

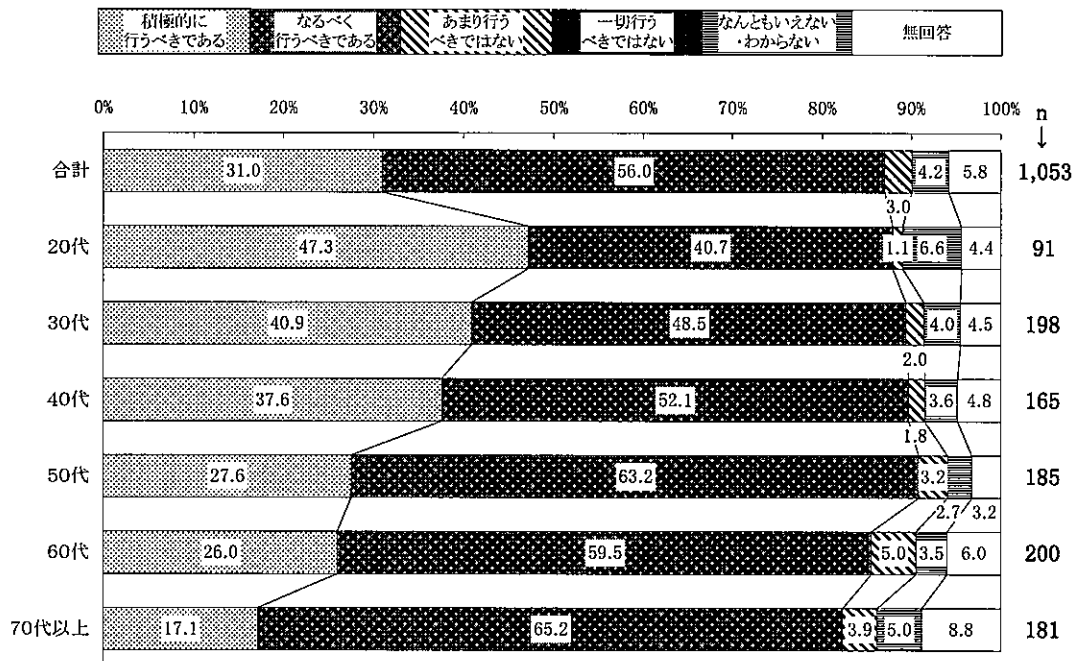
問3. 男性が家事や育児等を行うことについて(単数回答)

“行うべきである”が9割近くを占めており、若い年代ほどその傾向が強い。
H17調査と比較すると、若干ながら意識の変化が見られる。



“行うべきである”(「積極的に行うべきである」+「なるべく行うべきである」)が9割近く(計87.0%)にも達しており、否定的な意見はごくわずかとなっている。

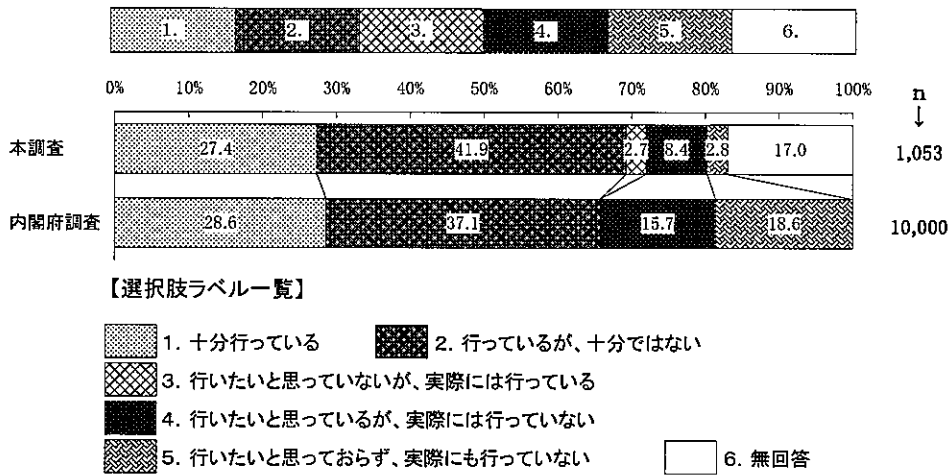
本市が平成17年に実施した『家事時間等に関する市民意識および実態調査』の結果と比較すると、“行うべきである”が微増、逆に“行うべきではない”が微減となっていることから、若干ではあるが、家事や育児等に対する意識の変化を見ることができる。



年代別に見ると、若い年代ほど「積極的に行うべきである」とする割合が高くなっている。20代では5割近く(47.3%)にも達していて、70代以上の3倍近い割合となっている。

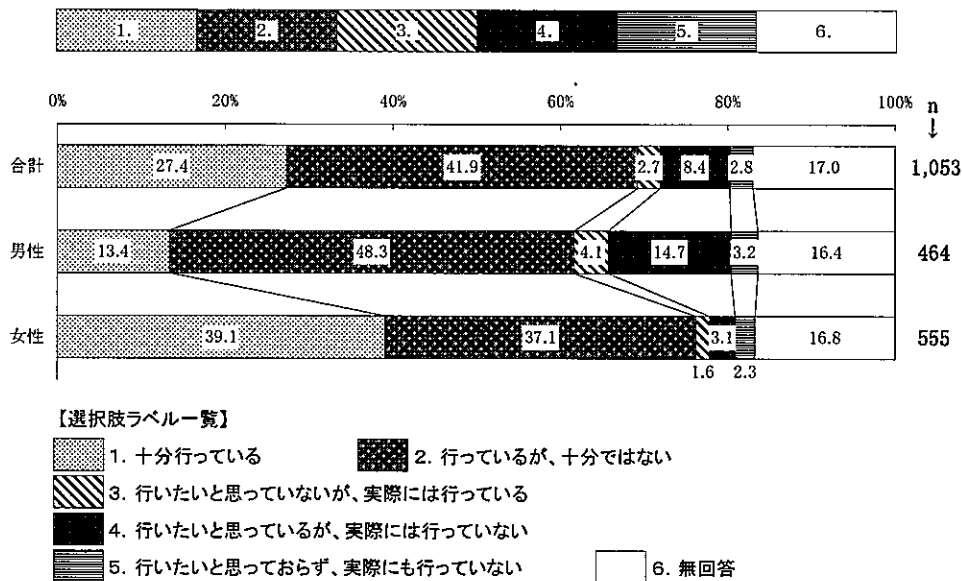
問4. 家事や育児等の実施状況(単数回答)

家事や育児等を“行っている”方は7割を超えるが、男性の方では“十分ではない”とする割合が高くなっている。



現状で“行っている”（「十分行っている」＋「行っているが、十分ではない」＋「行いたいと思っていないが、実際には行っている」）の割合が7割を超えている（計72.0%）。

内閣府が平成21年に実施した『男女のライフスタイルに関する意識調査』の結果と比較すると、一部選択肢が異なるため単純な比較はできないが、本調査では“行っていない”（「行いたいと思っておらず、実際にも行っていない」＋「行いたいと思っているが、実際には行っていない」）の割合が、内閣府調査の1/3以下（内閣府調査計34.3%⇒本調査計11.2%）となっている。



男女別に見ると、男性では6割超の方（計65.8%）が“行っている”と回答しているものの、「十分行っている」は1割程度（13.4%）と少なく、多くは“十分ではない”と考えていることが分かる。

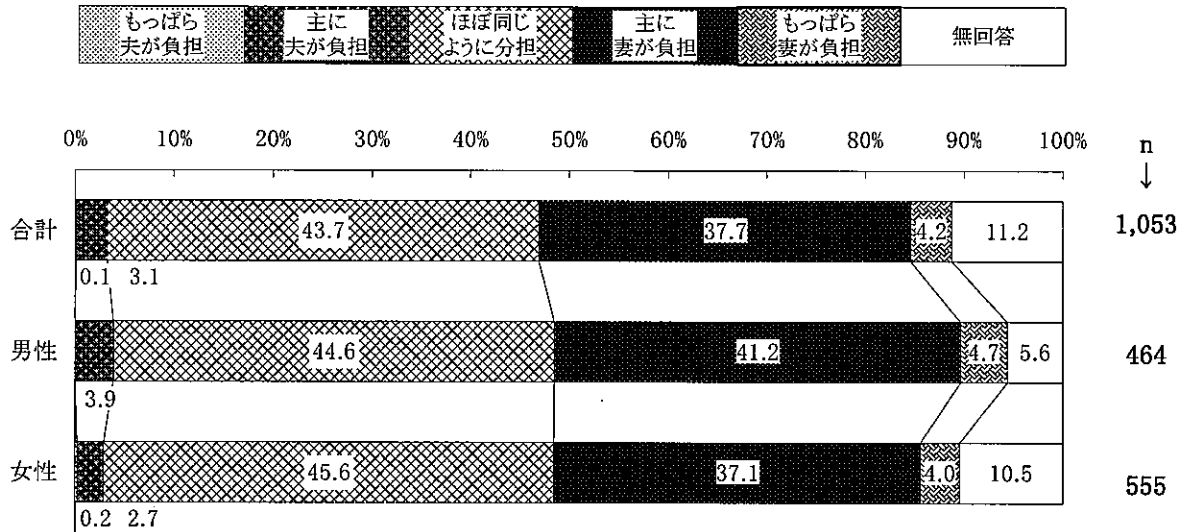
一方女性では、約4割の方（39.1%）が「十分行っている」と回答しているが、“十分ではない”とする方も同等程度（37.1%）となっている。

問5. 生計、家事や育児等に関する配偶者との分担割合について【理想と現実】

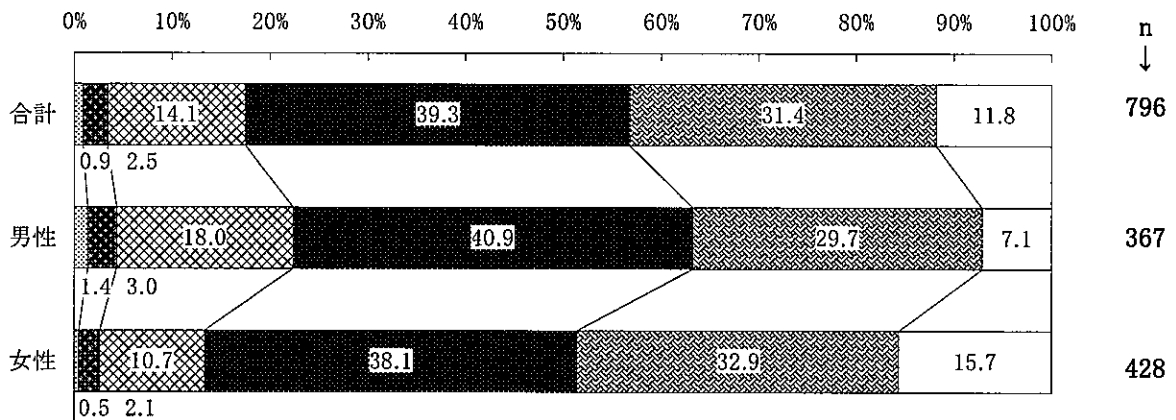
2. 家事や育児等を行う

『理想』は「ほぼ同じように負担」か「妻が負担」だが、『現実』には多くが「妻が負担」と回答している。『理想』と『現実』のギャップがはっきり現れる形となっている。

①『理想』



②『現実』



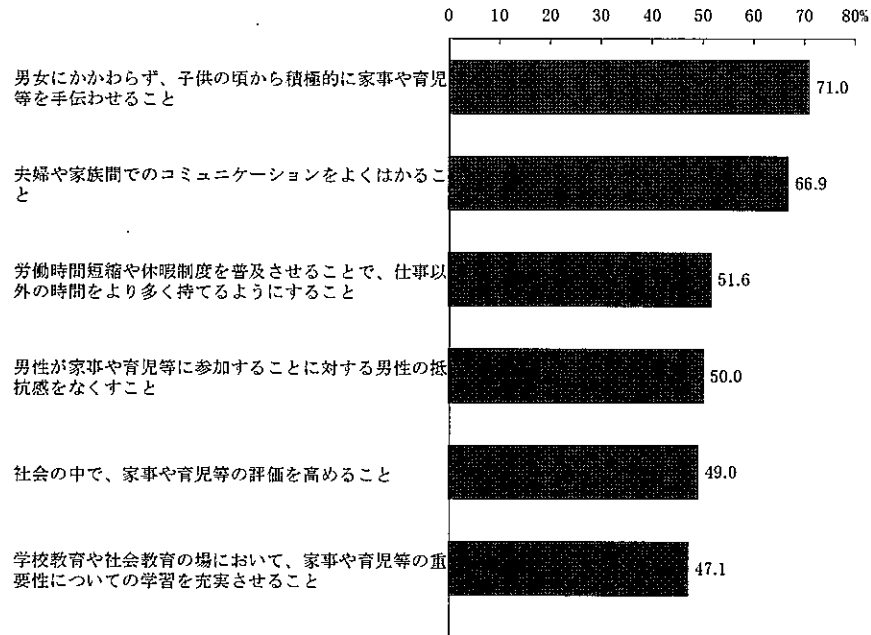
『理想』と『現実』のギャップが、非常に分かりやすい形で出ており、男女とも「ほぼ同じように分担」か“妻が負担”（「もっぱら妻が負担」＋「主に妻が負担」）を『理想』としているが、『現実』には非常に多くの方が“妻が負担”としている。

女性においては、『理想』と『現実』を比較すると、「ほぼ同じように分担」が減少し、「もっぱら妻が負担」が増加している。家事や育児等の分野における『理想』と『現実』の差が大きくなっていることが分かる。

問6. 家事や育児等に参加・分担していくために必要なこと(複数回答)

「男女にかかわらず、子供の頃から積極的に家事や育児を手伝わせること」、
「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が重要との認識がうかがえる。

問6結果・上位6項目



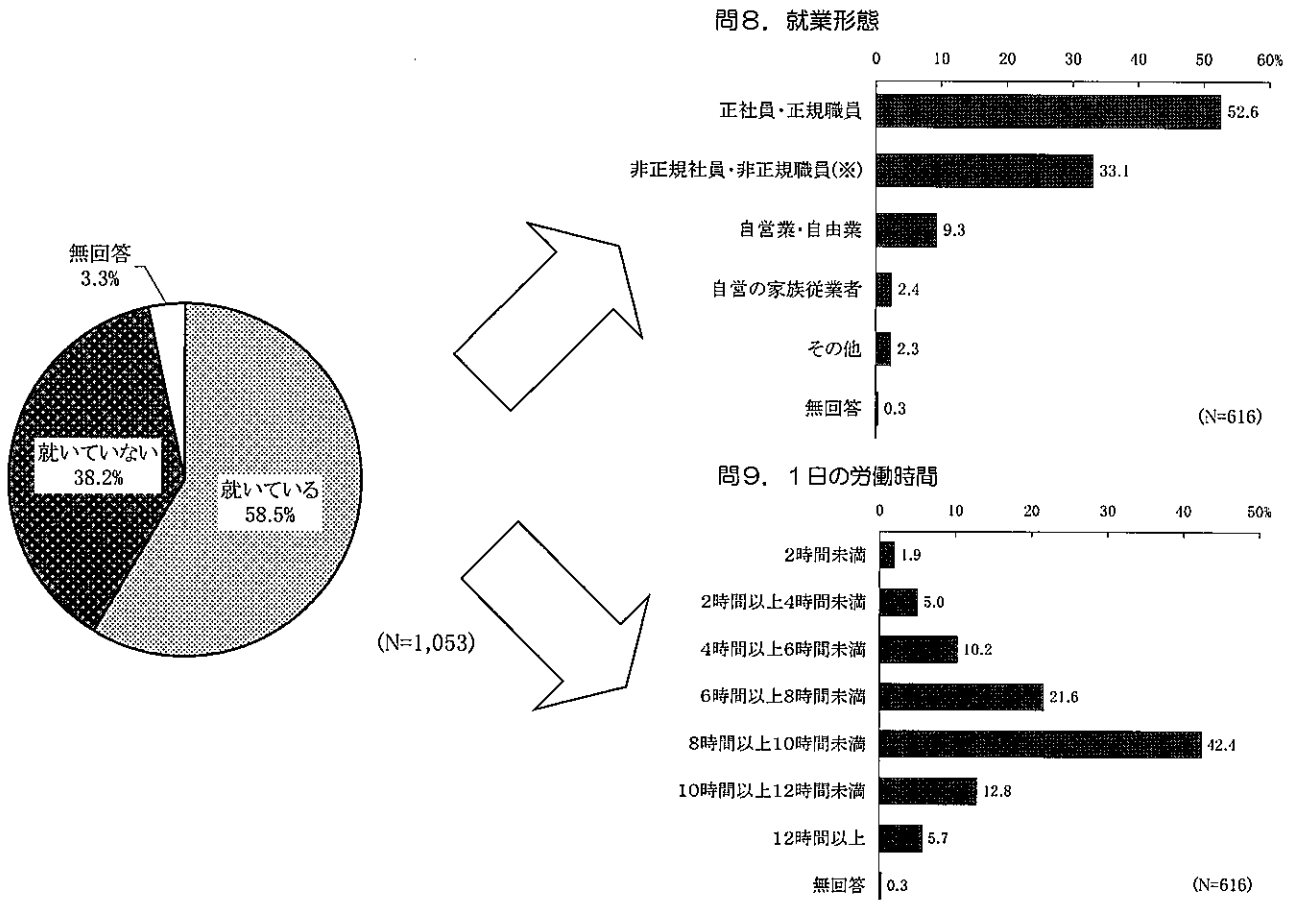
「男女にかかわらず、子供の頃から積極的に家事や育児を手伝わせること」が最も多く約7割(71.0%)で、次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が6割超(66.9%)で続く。

“子供の頃から積極的に手伝わせる”、“コミュニケーションをよくはかる”ということが重要であるとの認識がうかがえる結果となった。

問7. 仕事に就いているかどうか(単数回答)

問8. 就業形態(単数回答)・問9. 1日の労働時間(単数回答)

仕事に就いている方は約6割となっている。
 就業形態は、正社員・正規職員が半数強、非正規社員・非正規職員が3割強であり、
 1日の労働時間は“8時間以上”が約6割を占め、“10時間以上”の方も2割弱存在する。



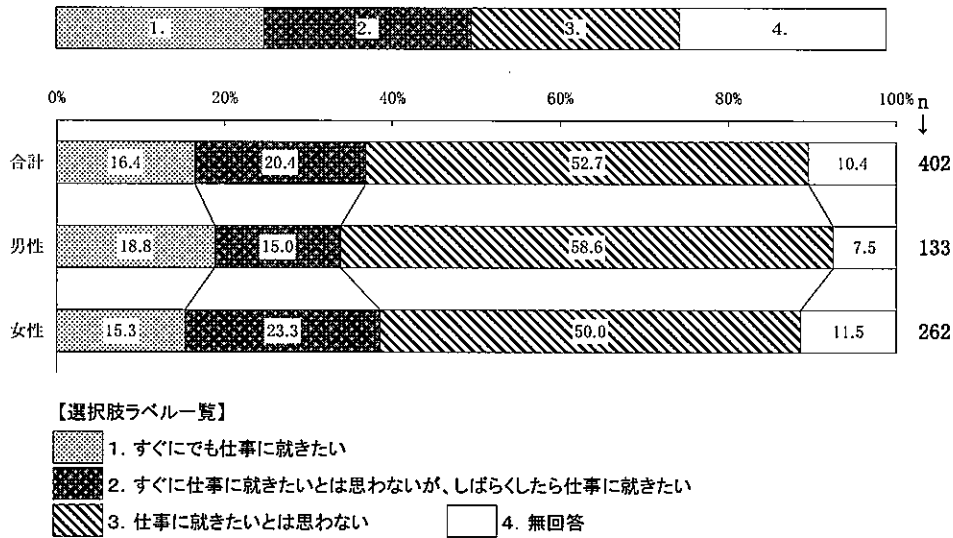
現状で仕事に就いている方は約6割(58.5%)。その方々の『就業形態』(問8)は、「正社員・正規職員」が半数強(52.6%)、「非正規社員・非正規職員」が3割強(33.1%)となっている。また、『1日の労働時間』(問9)では、“8時間以上”(「8時間以上10時間未満」+「10時間以上12時間未満」+「12時間以上」)が全体の約6割(計60.9%)を占めており、“10時間以上”(「10時間以上12時間未満」+「12時間以上」)の方も2割弱(計18.5%)存在する。

※問8. 就業形態の『非正規社員・非正規職員』

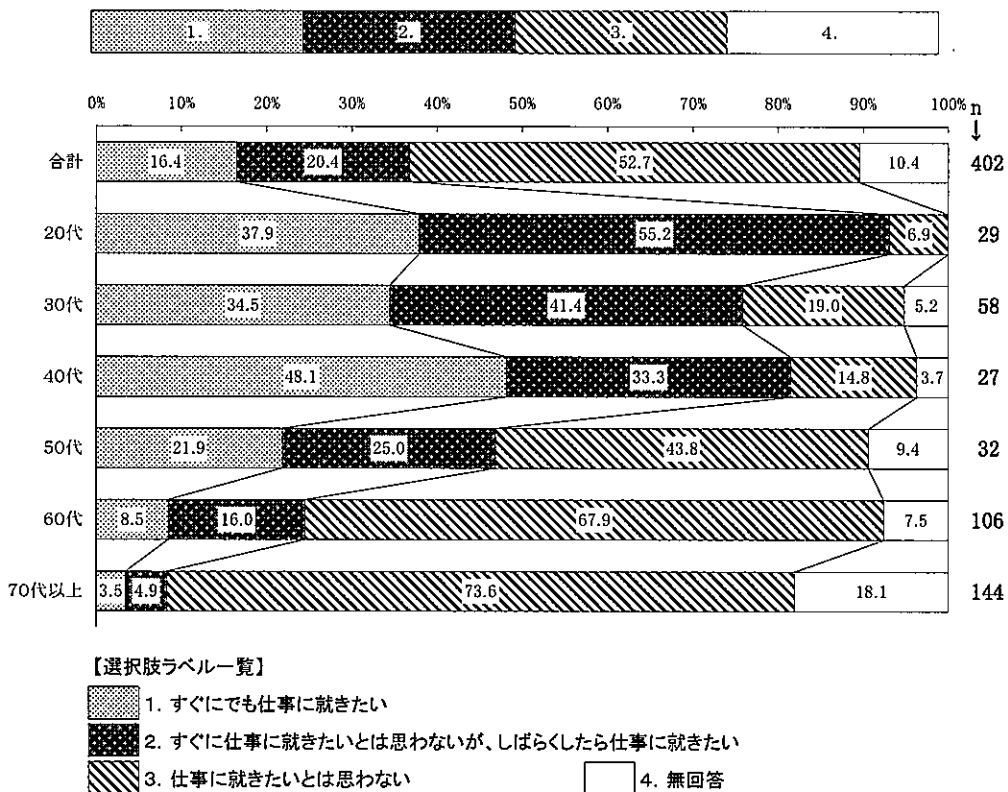
⇒契約社員・嘱託職員等、派遣社員、パート・アルバイト、内職の割合を合計したものである

問11. 今後の就業意向(単数回答)

仕事に就いていない方々のうち、40代以下は「すぐにでも仕事に就きたい」の割合が高くなっている。



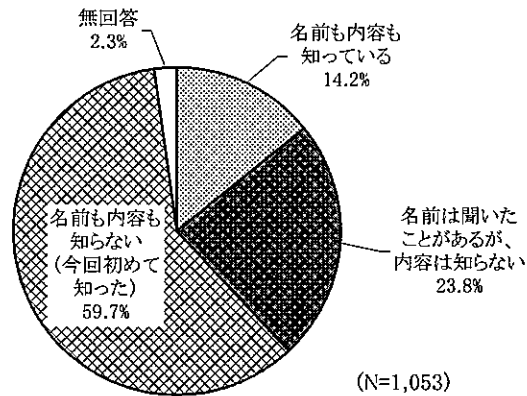
男女別で見ると、「仕事に就きたいとは思わない」は男性の方が高く、6割近く（58.6%）にも上っている。これは男性の年代構成上、60代以上の高年齢層が多いことに起因するものである。



年代別で見ると、40代以下の年代で「すぐにでも仕事に就きたい」の割合が高い。また、「すぐに仕事に就きたいとは思わないが、しばらくしたら仕事に就きたい」も、若い年代ほど高くなっている。

問12. 「ワーク・ライフ・バランス」の認知度(単数回答)

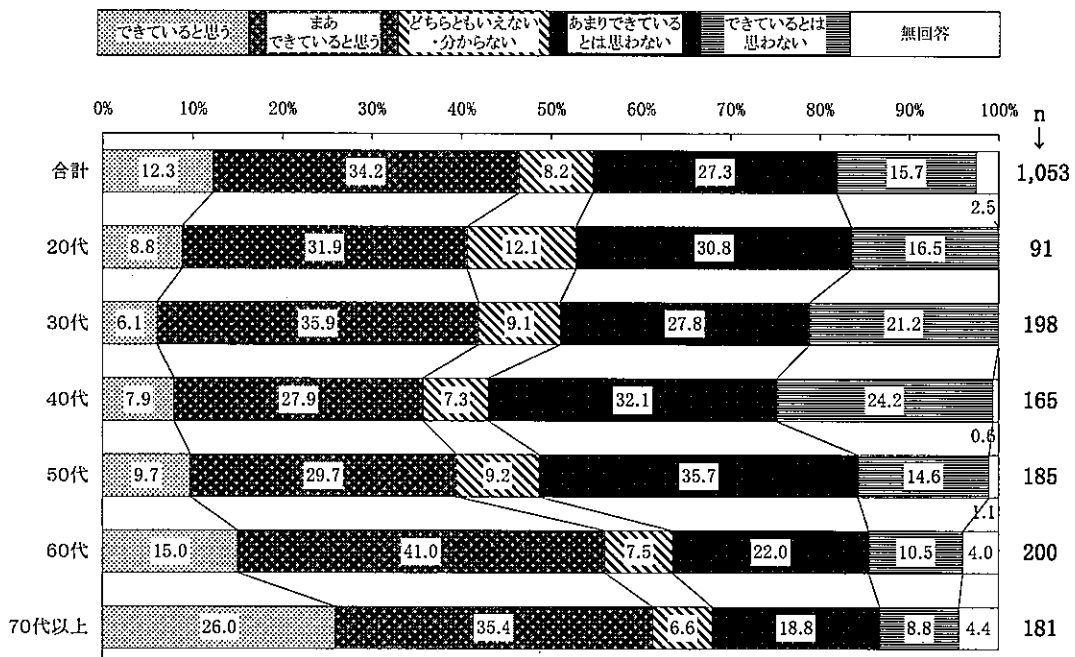
「ワーク・ライフ・バランス」の認知度は4割程度にとどまる。



“認知層”（「名前も内容も知っている」＋「名前はあるが、内容は知らない」）は4割程度（計38.0%）にとどまり、“非認知層”（「名前も内容も知らない(今回初めて知った)」）が約6割（59.7%）に上っている。

問13. 自分が希望する時間の使い方ができているかどうか(単数回答)

自分が希望する時間の使い方が“できていると思う”方は、60代以上の層で多く、それより下の年代層では、“できているとは思わない”が半数、あるいはそれ以上となっている。



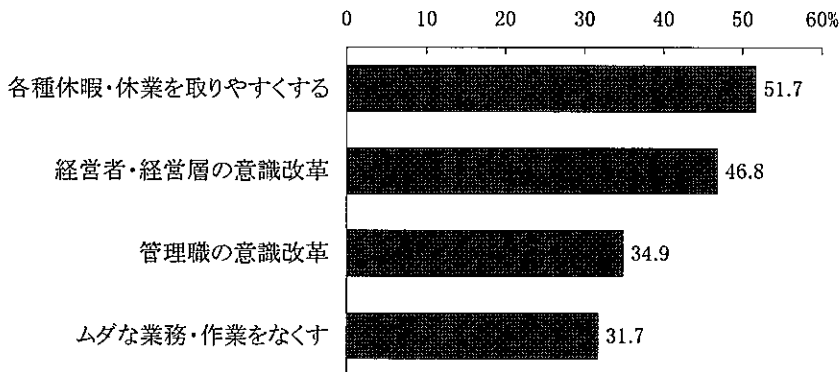
年代別に見ると、60代以上の年代では“できていると思う”（「できていると思う」＋「まあできていると思う」）が6割前後となっているが、それより下の年代では“できているとは思わない”（「できているとは思わない」＋「あまりできているとは思わない」）が半数、あるいはそれ以上の割合となっている。

問14. 「ワーク・ライフ・バランス」実現のために重要だと思うこと

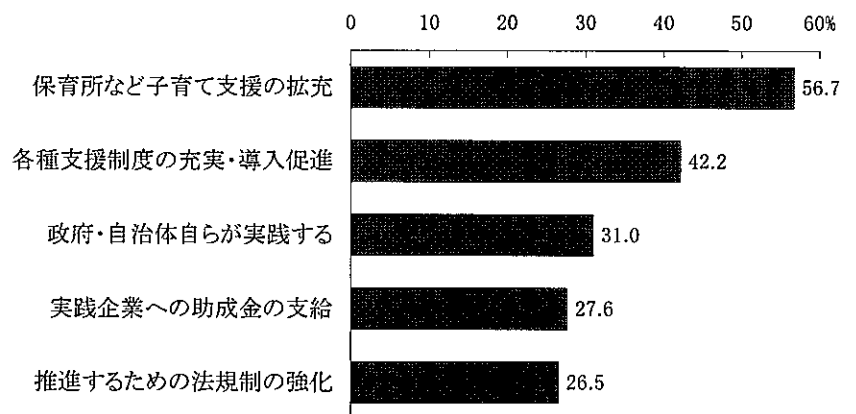
- ①『企業・職場』で必要だと思うこと(複数回答)
- ②『政府・自治体』で必要だと思うこと(複数回答)

『企業・職場』では、“休暇・休業制度の充実”、“上層部の意識改革”を重視する傾向がある。
一方『政府・自治体』では、“保育所など子育て支援の拡充”、“各種支援制度の充実”を望む傾向がある。

問14①結果・上位4項目



問14②結果・上位5項目

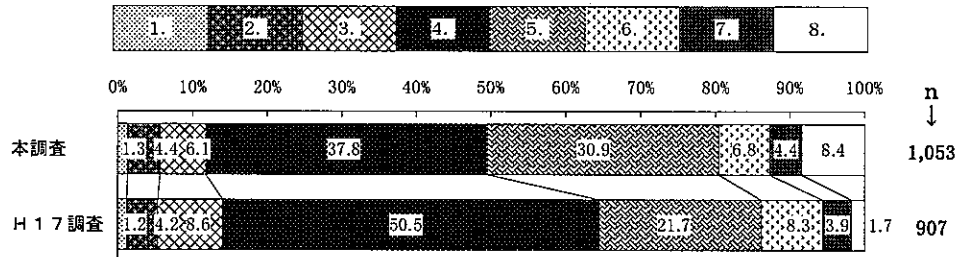


『企業・職場』で必要だと思うものについては、「各種休暇・休業を取りやすくする」が5割強(51.7%)で最も高く、次いで「経営者・経営層の意識改革」が4割超(48.6%)となっている。業務の効率化等に関する項目よりも、抜本的な解決が望める“休暇・休業制度を取りやすくする”、“上層部の意識改革”が上位を占める結果となった。

一方『政府・自治体』で必要だと思うものについては、「保育所など子育て支援の拡充」が5割超(56.7%)で最も高く、次いで「各種支援制度の充実・導入促進」が4割強(42.2%)となっており、生活に直接関わる項目が上位を占めている。

問16. 女性が職業をもつことについて(単数回答)

割合としては“中途再就職型”が最多となっている。しかし、過去調査と比較すると“就業継続型”が増加し、女性が職業を持つこと、持ち続けることについての意識や理解が高まっていることがうかがえる。



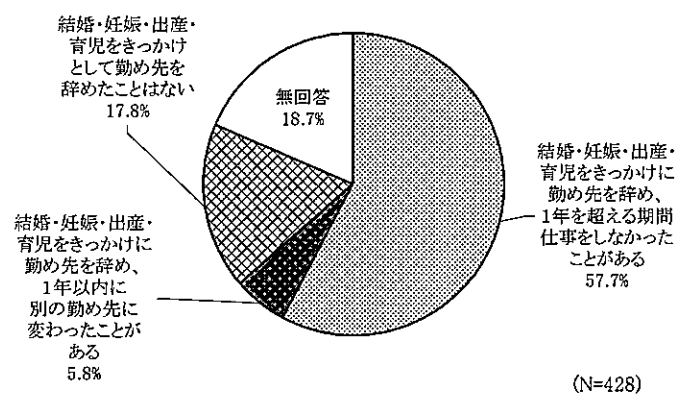
【選択肢ラベル一覧】

- 1. 女性は職業をもたない方がよい
- 2. 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 3. 子供ができるまでは、職業をもつ方がよい
- 4. 子供ができれば職業をやめ、子供が大きくなったら再び職業をもつ方がよい(中途再就職型)
- 5. 子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい(就業継続型)
- 6. その他
- 7. わからない
- 8. 無回答

“中途再就職型”が4割弱(37.8%)で最多となっている。しかし本市が平成17年に実施した『家事時間等に関する市民意識及び実態調査』の結果と比較すると、本調査では、H17調査にあった“中途再就職型”と“就業継続型”との差がかなり縮まり、“就業継続型”の増加も認められることから、現在の経済情勢もあり、女性が働くこと・働き続けることについての意識や理解が、より高まっていることがうかがえる。

問17. 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけとした退職経験の有無(単数回答)

既婚女性における結婚等をきっかけにした“退職経験あり”の割合は6割を超える。

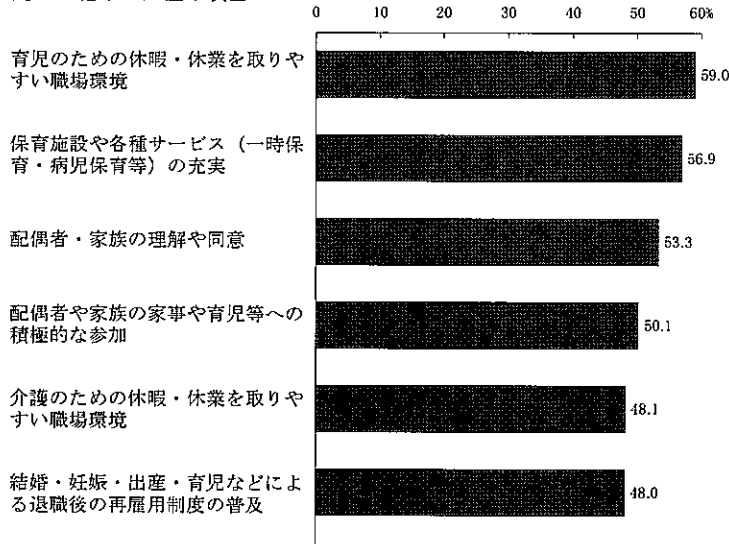


結婚等をきっかけとする“退職経験あり”(「1年を超える期間仕事をしなかった」+「1年以内に別の勤め先に変わった」)とする方が6割を超えている(計63.5%)。一方で、“退職経験なし”とする方も18%程度存在する。

問18. 仕事と家庭の両立のために必要だと思うこと(複数回答)

仕事と家庭の両立のために必要だと思うことは、「育児のための休暇・休業を取りやすい職場環境」が約6割で最多となっている。

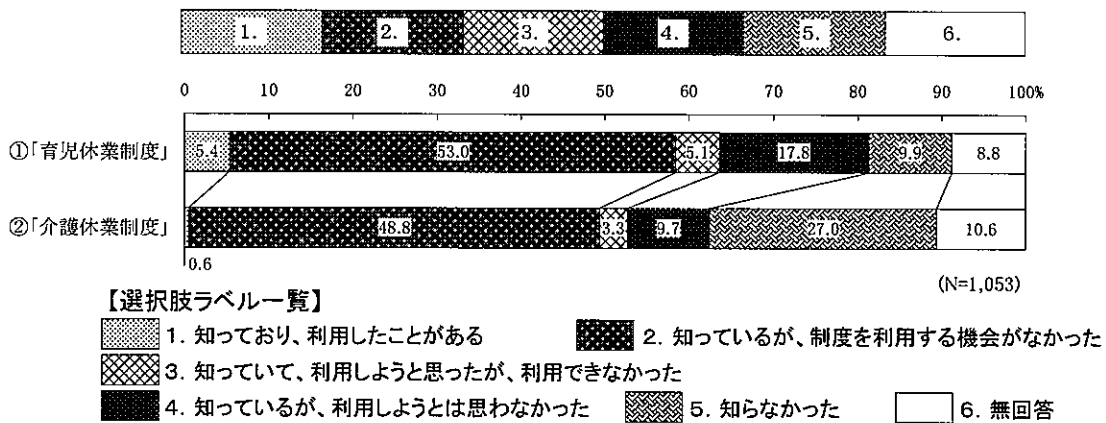
問18結果・上位6項目



「育児のための休暇・休業を取りやすい職場環境」が約6割（59.0%）で最多。しかし全ての項目にまんべんなく回答が集まっており、差はあまり出ていない。

問19. 「育児休業制度」・「介護休業制度」の認知度及び利用経験(それぞれ単数回答)

『育児休業制度』の認知度は8割強、『介護休業制度』の認知度は6割強だが、いずれも“利用したことがある”方は非常に少ない。



『育児休業制度』の“認知度”（「知らなかった」と「無回答」以外の合計）は8割強（計81.3%）。ただし、“利用したことがある”方の割合は5%ほどにとどまっている。

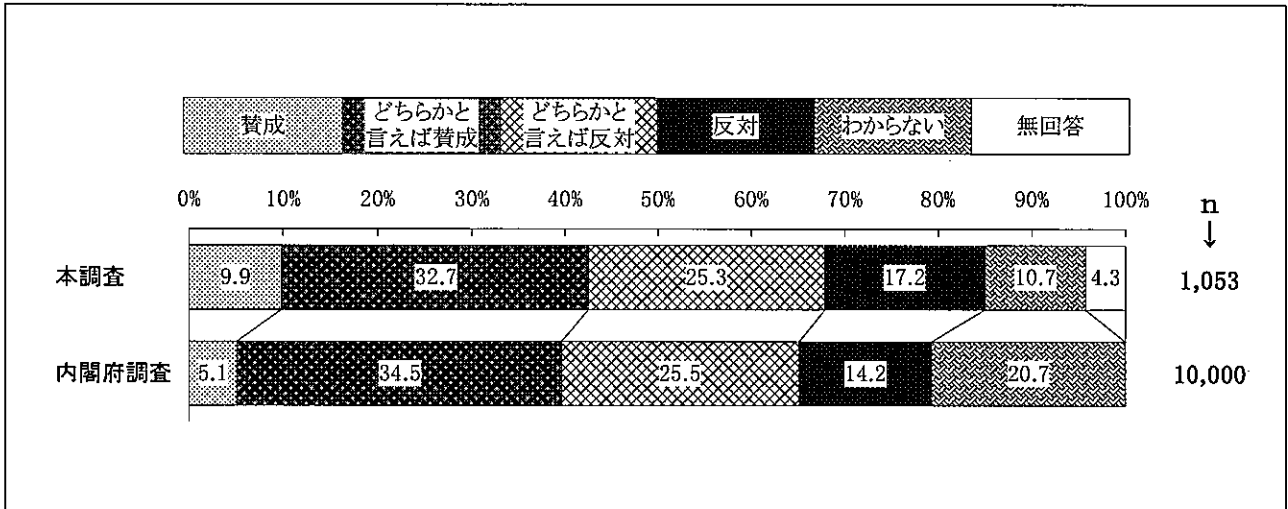
『介護休業制度』については、“認知度”は6割強（計62.4%）だが、“利用したことがある”はわずか1%にも満たない（計6人・0.6%）

なお、両休業制度で“男性利用者が少ない理由”（問20）を尋ねたところ、「職場・同僚に迷惑をかけるから」、「育児や介護は女性の役割であるという認識が強いから」が5割を超える結果となっている。

IV 調査結果の分析

● 問1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方（単数回答）

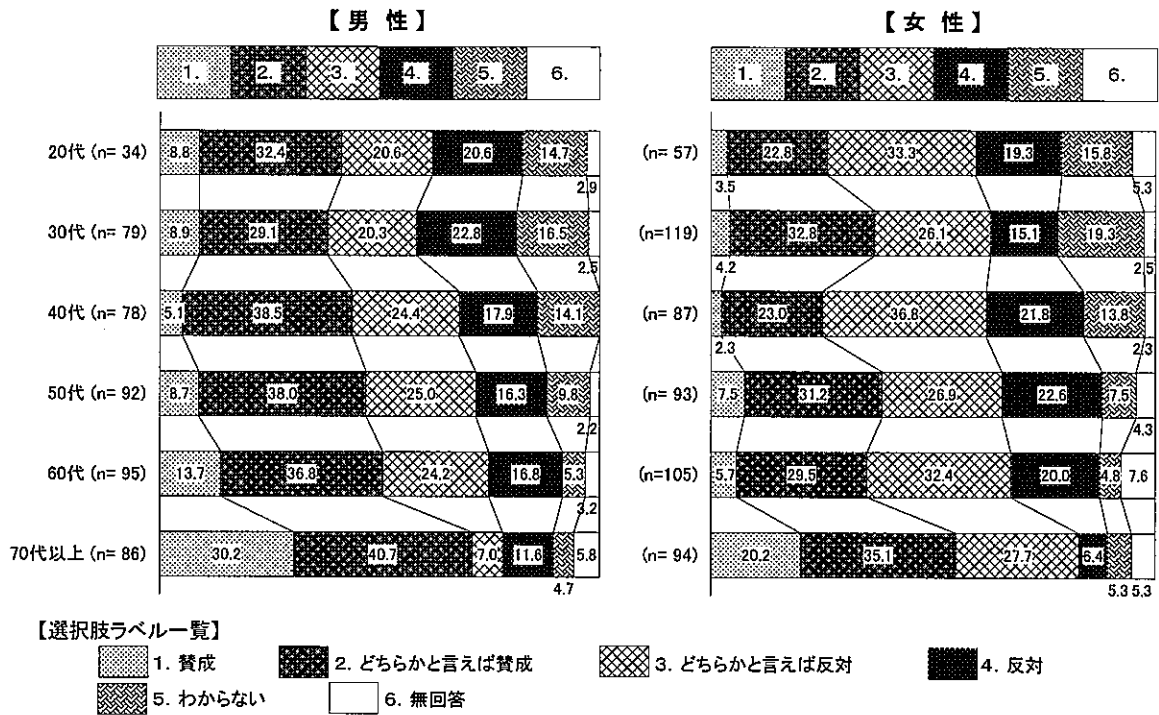
問1. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった考え方について、あなたはどのように思いますか。
 (〇は1つ)



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についてうかがった設問である。

- “賛成”（「賛成」＋「どちらかと言えば賛成」＝計 42.6%）、“反対”（「反対」＋「どちらかと言えば反対」＝計 42.5%）はほぼ同比率となっている。
- 内閣府が平成21年に実施した『男女のライフスタイルに関する意識調査』の結果（問11）と比較すると、内閣府調査、本調査ともに“賛成”と“反対”が拮抗している状況は同じであるが、本調査における割合が、内閣府調査に比べて双方共高くなっていることが分かる。
- 割合こそ小さいが、本調査の「賛成」の割合は内閣府調査の約2倍となっている（9.9%）。

◆性別・年代×問1

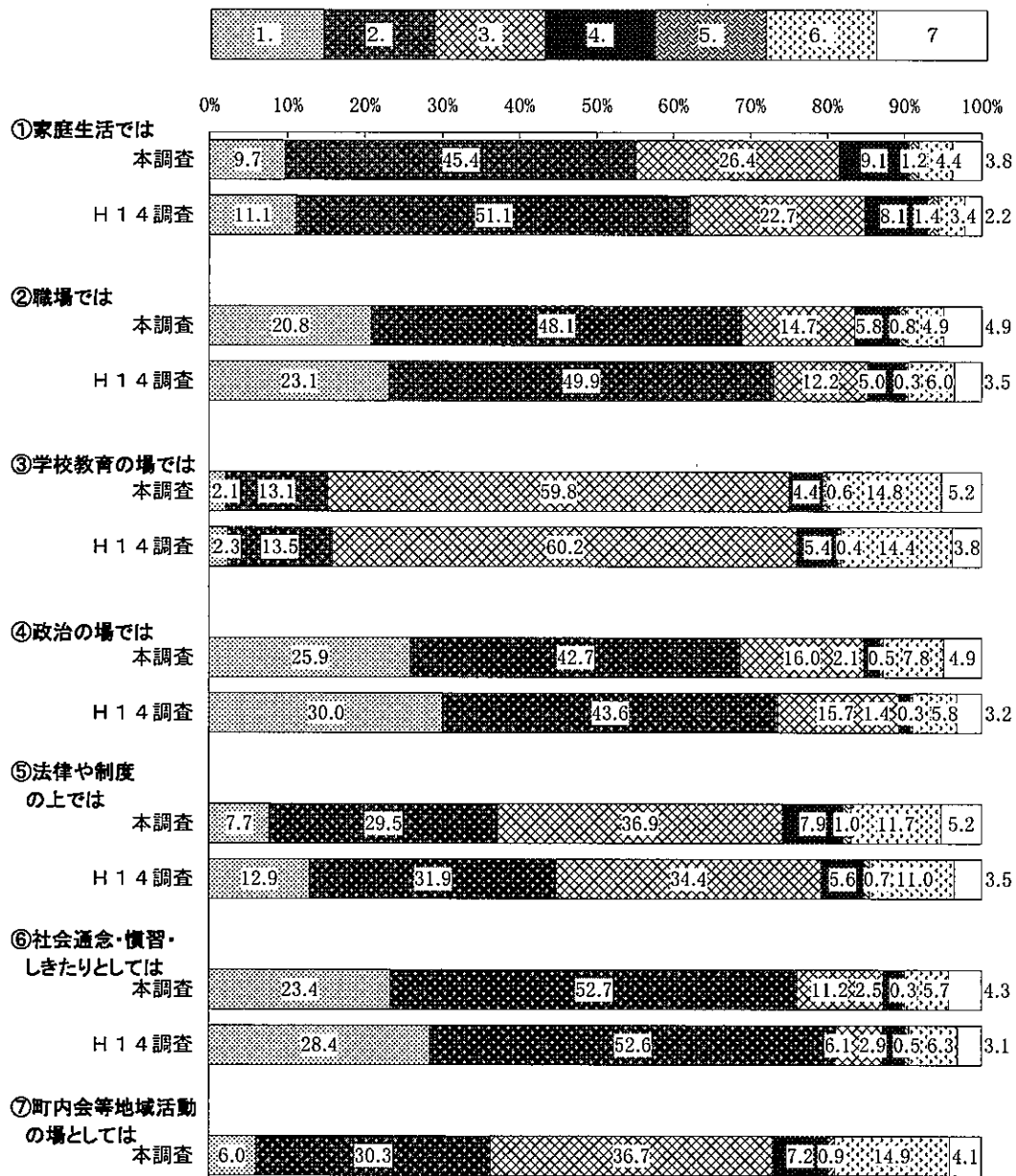


- 男性よりも女性の方で“反対”（「反対」＋「どちらかと言えば反対」）の割合が高く、特に女性の20代・40代では5割を超えている。
- 全体的に、男女とも年代が上がるほど“賛成”（「賛成」＋「どちらかと言えば賛成」）の割合が高くなる傾向にあり、男性の70代以上では、約7割（計70.9%）にも上っている。

●問2 各分野における男女の地位について（それぞれ単数回答）

問2. あなたは次のような分野で、男女の地位が平等になっていると思いますか。

下記①～⑦の各項目についてそれぞれお答えください。（それぞれ〇は1つ）



【選択肢ラベル一覧】

- 1. 男性の方が非常に優遇されている
- 2. どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 3. 平等
- 4. どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 5. 女性の方が非常に優遇されている
- 6. わからない
- 7. 無回答

〈いずれも、本調査 n = 1,053・H14調査 n = 1,360〉

注) 「⑦町内会等地域活動の場としては」の設問は、本調査で新たに設定した設問のため、本調査の結果のみ掲載している

各分野における男女の地位についてうかがった設問である。

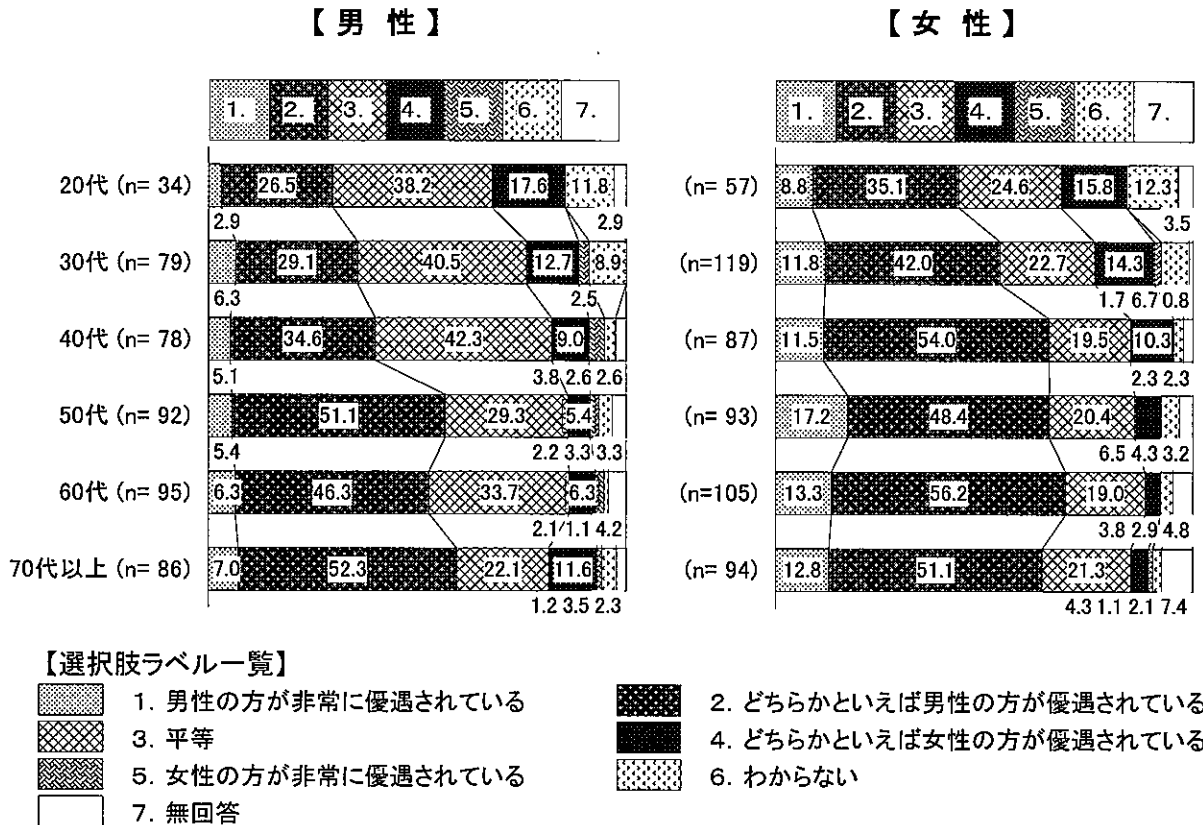
○②職場、④政治の場、⑥社会通念・慣習・しきたりの3分野は、“男性の方が優遇されている”（「非常に優遇」＋「どちらかと言えば優遇」）が6割を大きく超えており、特に⑥社会通念・慣習・しきたりでは、3/4ほど（計76.1%）にも上っている。

○一方、③学校教育の場では、「平等」が約6割（59.8%）と高くなっており、男女共同参画が進んでいる分野であることが推測される。

○本市が平成14年度に実施した『男女共同参画に関する市民意識調査』の結果（問2）と比較すると、全ての項目（①～⑥）において、本調査の“男性の方が優遇されている”の割合が低くなっており、“女性の方が優遇されている”の割合が高くなっている。

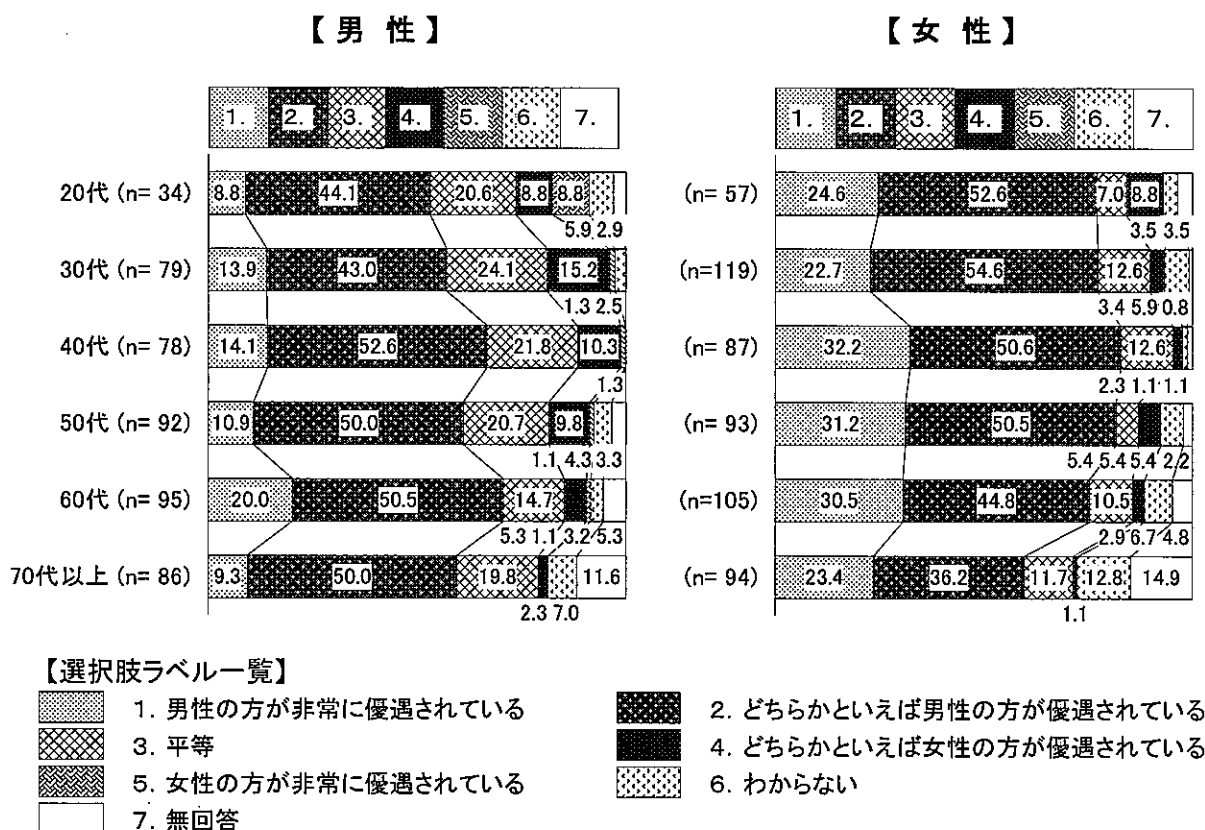
※平成14年度実施の調査では、各設問（①～⑥）における文言が本調査とは一部異なっているほか、「町内会等地域活動の場としては」の設問を新たに設定したため、単純な比較はできない。上記比較結果はあくまで「参考」としていただきたい。

◆性別・年代×問2①(家庭生活では)



- “男性の方が優遇されている”（「非常に優遇されている」＋「どちらかといえば優遇されている」）は、男女とも年代が上がるほど高くなる傾向にあり、特に女性の40代以上では6割を超えている。
- 一方、“女性の方が優遇されている”（「非常に優遇されている」＋「どちらかといえば優遇されている」）は、男女とも若い年代ほど高くなる傾向にあり、20代・30代では15%を超えている。

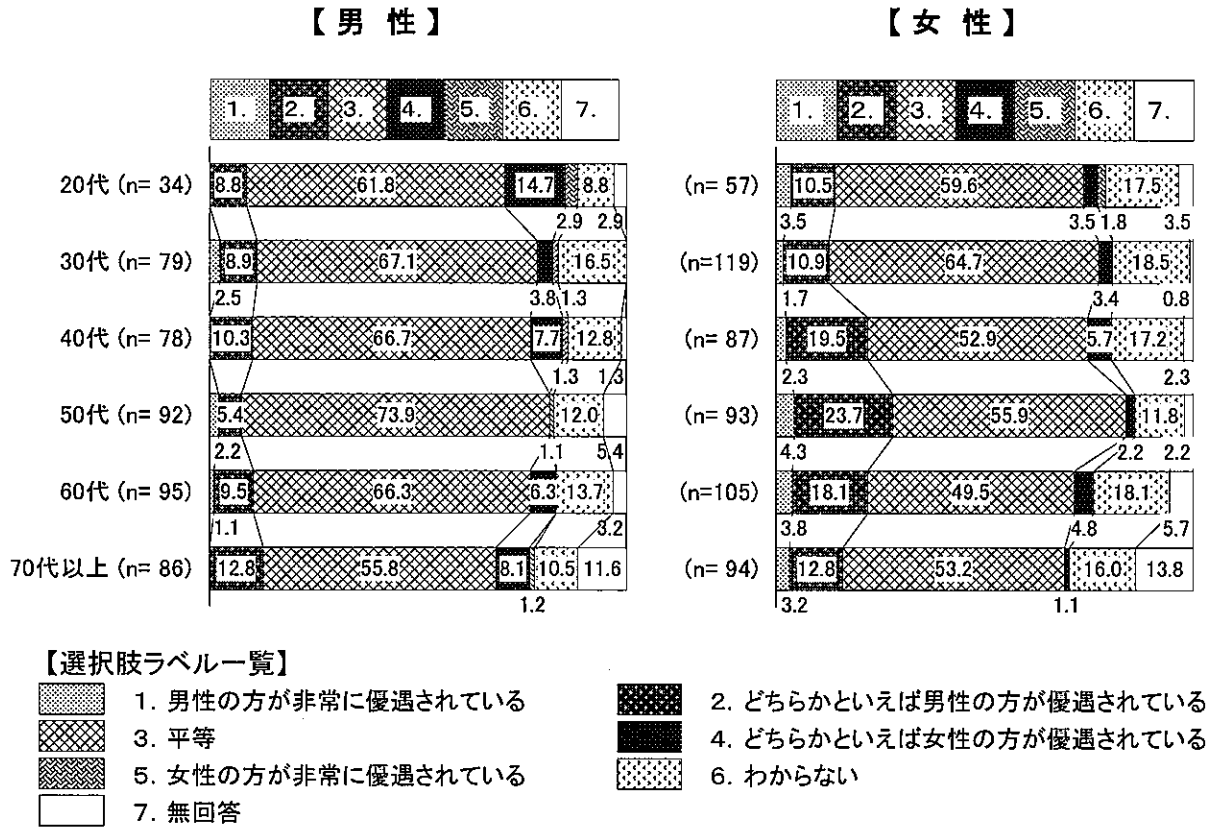
◆性別・年代×問2②(職場では)



○男女とも「平等」と回答した方は少なく、「男性の方が優遇されている」の割合が高くなっており、特に女性では、70代以上を除く全ての年代で、各々の回答数の3/4以上が「男性の方が優遇されている」と回答している。

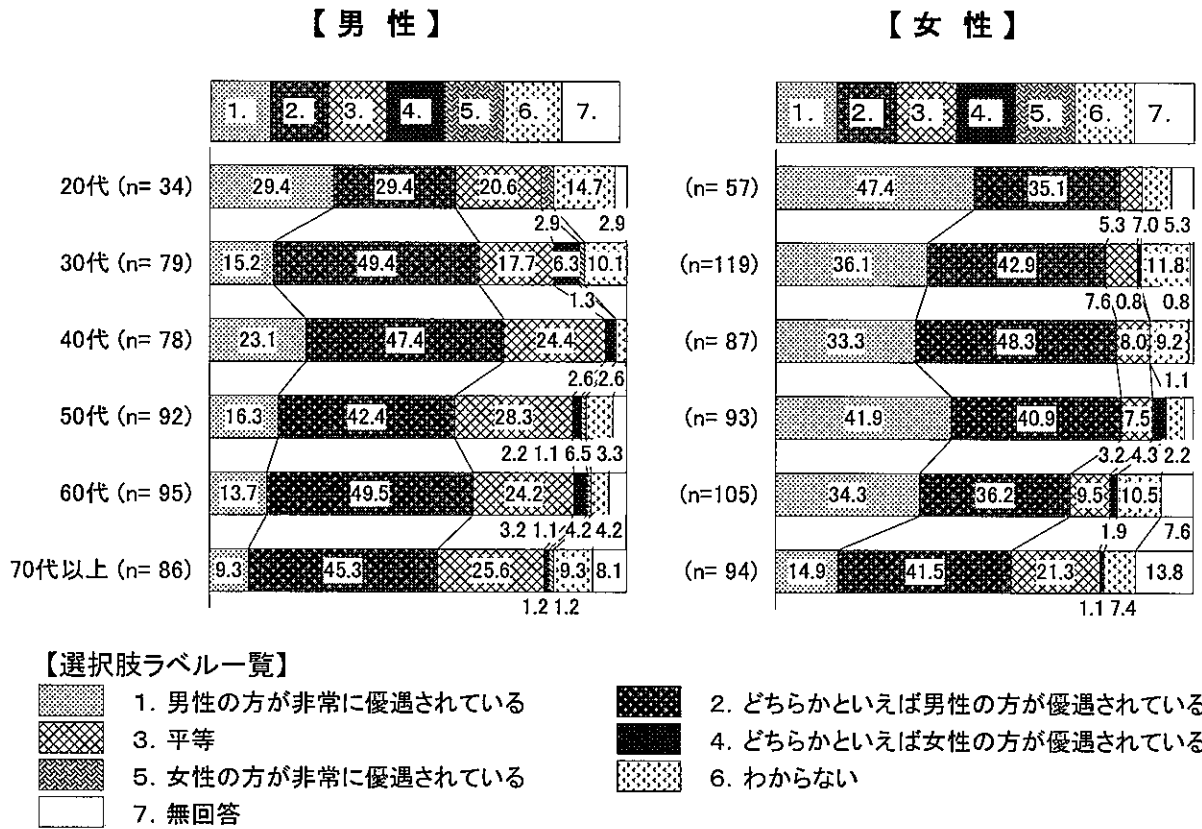
○一方、男性の20～50代では、「女性の方が優遇されている」が1割以上と高い。

◆性別・年代×問2③(学校教育の場では)



- 男女とも、おおむね5割以上の方が「平等」と回答しているが、それでも女性の40～60代においては、“男性の方が優遇されている”の割合が2割以上となっている。
- 男性の20代では“女性の方が優遇されている”が、全性別・年代の中で唯一1割を超えている（計17.6%）。

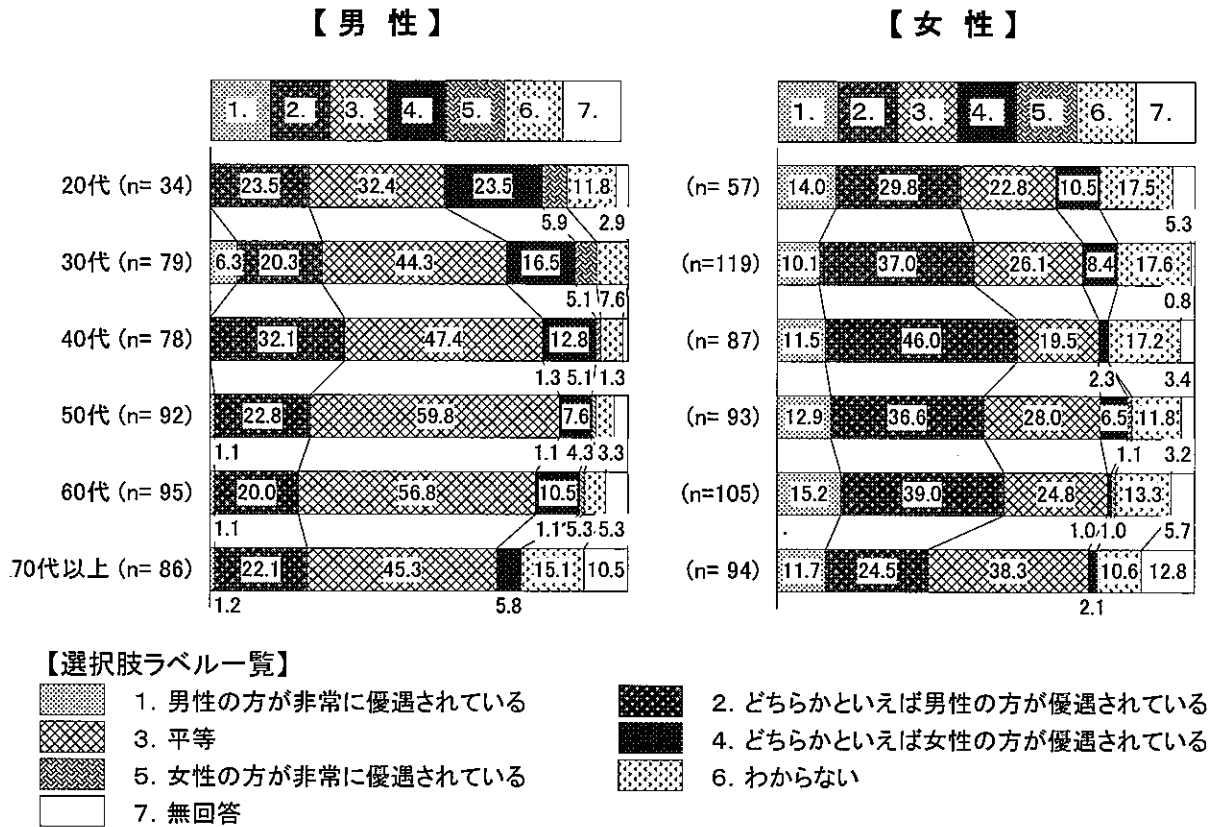
◆性別・年代×問2④(政治の場では)



○男女共“男性の方が優遇されている”が高くなっており、特に女性の20～50代では約8割にも達している。

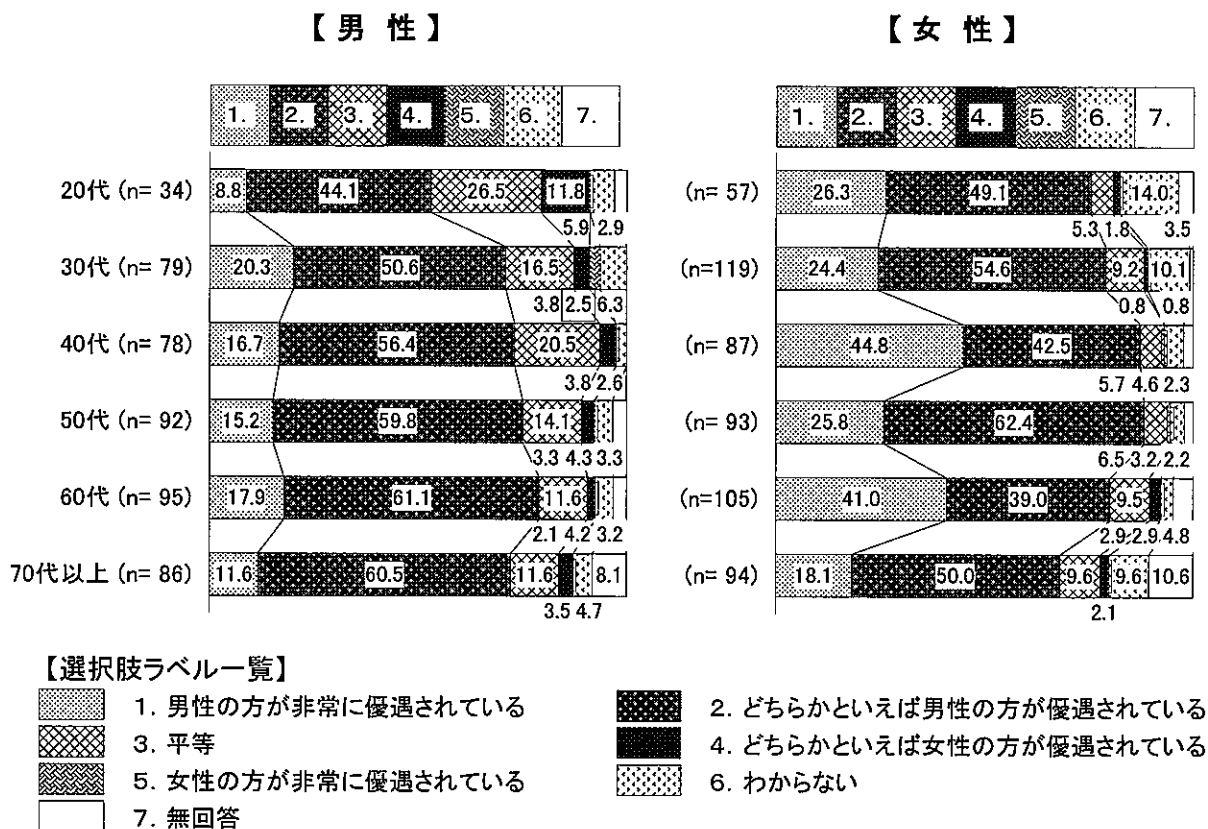
○女性では、70代以上を除き「男性の方が非常に優遇されている」が非常に高く、3～4割ほどにも上っている。

◆性別・年代×問2⑤(法律や制度の上では)



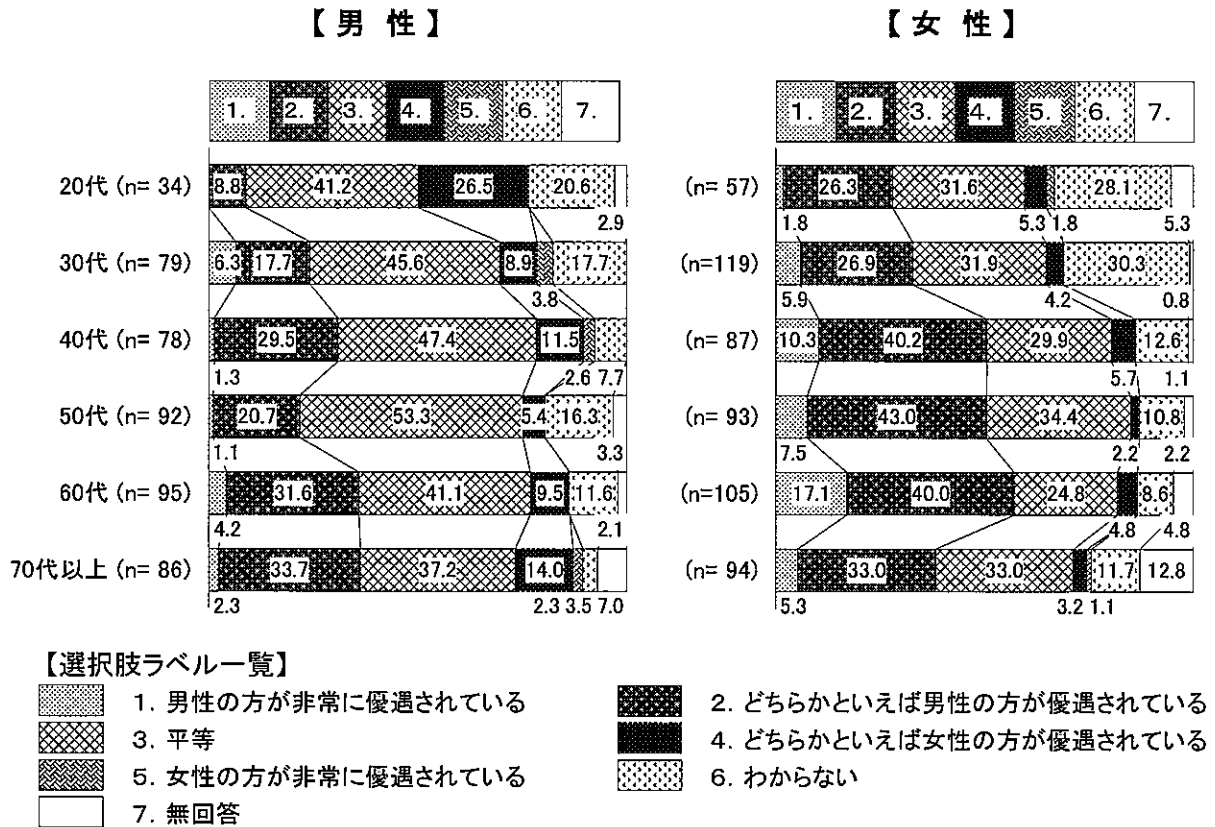
- 男性では「平等」との回答が多い一方、女性では“男性の方が優遇されている”が高くなっており、男女の認識差がはっきりと現れる結果となっている。
- 男性では、若い年代ほど“女性の方が優遇されている”が高い傾向にあり、30代以下では2～3割となっている。一方、50代・60代では、「平等」の割合が6割近くにも達している。

◆性別・年代×問2⑥(社会通念・慣習・しきたりとしては)



- 女性における「平等」の割合が、全7項目中最も低く、全ての年代において1割に満たない。一方、“男性の方が優遇されている”は、全7項目中で最多の割合で、最も低い70代以上の層でも7割近く（計68.1%）に達しており、不平等感が強い。
- 男性では若い年代ほど“女性の方が優遇されている”が高くなっており、20代では1割程度となっている。

◆性別×問2⑦(町内会やNPO団体など地域活動の場としては)



○男性では「平等」が4～5割と高いが、60代以上の高年齢層では“男性の方が優遇されている”が3割を超えている。

○一方女性では、特に40～60代の層で“男性の方が優遇されている”が高く、5割を超えている。

これまでの問2 ①～⑦を通して見てみると、『学校教育の場』では各年代・性別とも、おおむね5割以上の方が平等であると回答しているものの、その他の項目については男女間で明確な認識の違いが存在し、男性に比べ女性において“男性の方が優遇されている”の回答が多くなっている。

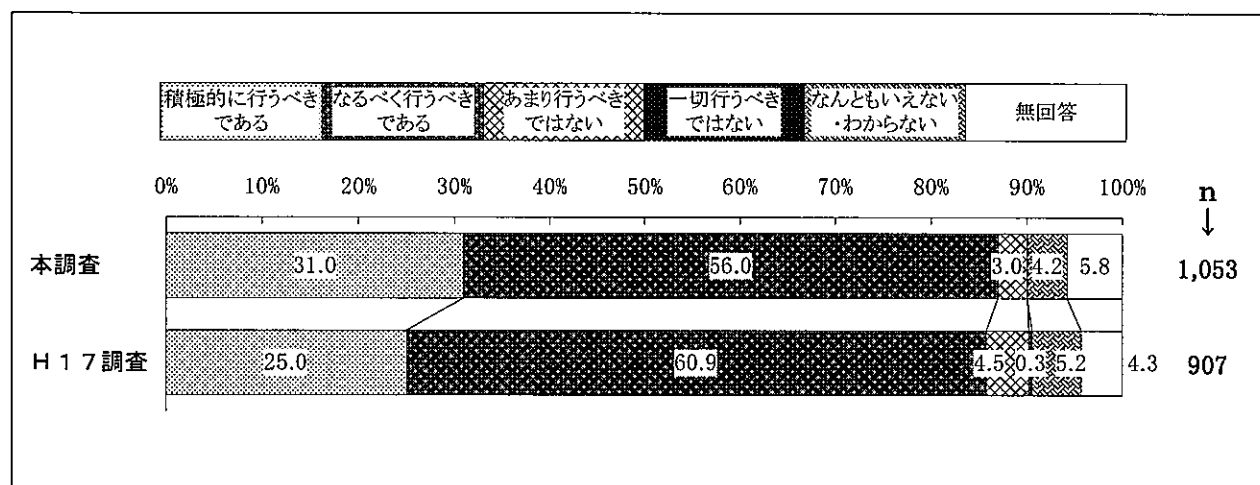
たとえば『社会通念・慣習・しきたり』や『政治の場』において、“男性の方が優遇されている”と回答した女性が各年代ともおおむね8割を超えていること、『法律・制度上』については、男性では平等が半数近くを占めるが、女性では“男性の方が優遇されている”を多く回答していることからわかる。

なお、若い年代(20～30代)では、“女性の方が優遇されている”を支持する割合が、40代以上の年代に比べて高い傾向が見られた。

●問3 男性が家事や育児等を行うことについて（単数回答）

この調査における『家事や育児等』とは、「炊事」、「買い物」、「洗濯」、「掃除」、「子供の世話」、「介護」、「その他の家事」（整理、片付け、銀行・役所に行く等）などを指します。

問3. あなたは、一般的に男性が家事や育児等を行うことについて、どう思いますか。
あなたのお考えに最も近いものを次の中からお選びください。（○は1つ）

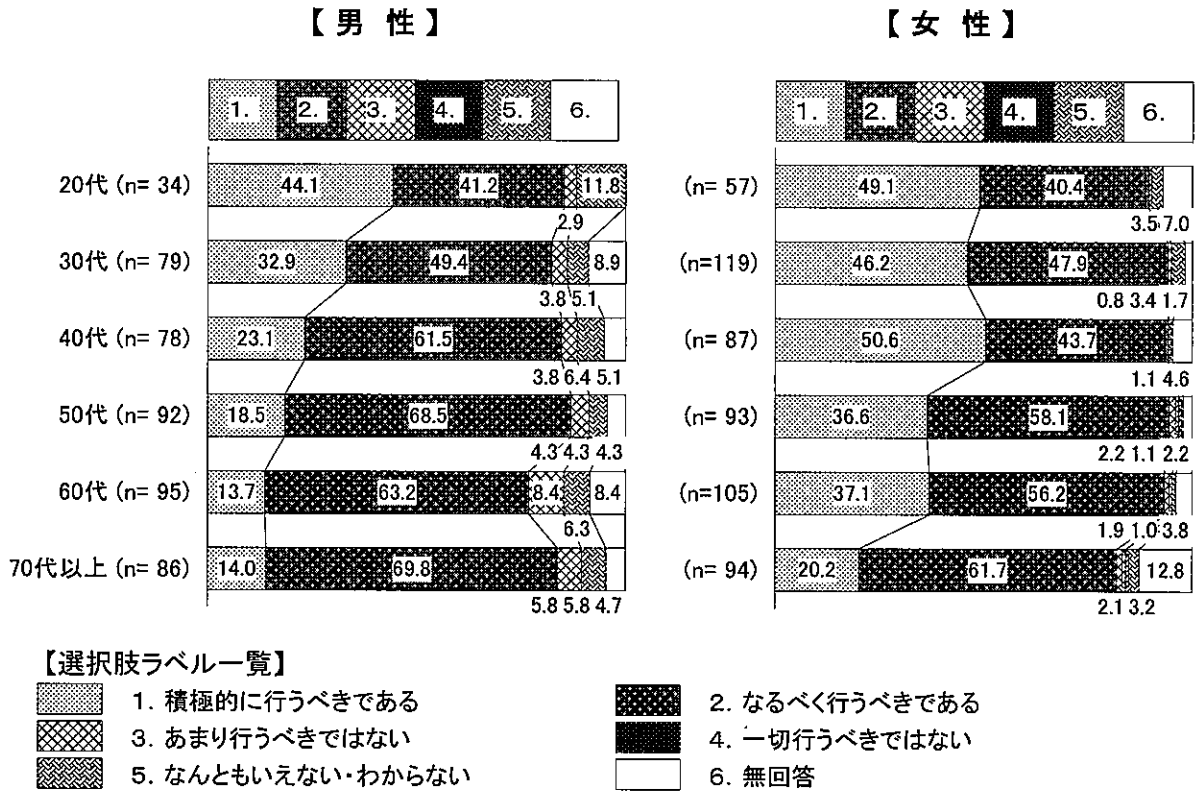


男性が家事や育児等を行うことについてうかがった設問である。

○“行うべきである”（「積極的に行うべきである」＋「なるべく行うべきである」）が9割近く（計87.0%）と圧倒的に高く、「一切行うべきではない」と「あまり行うべきではない」は、合わせても3%ほどとなっている。

○本市が平成17年度に実施した『家事時間等に関する市民意識および実態調査』の結果（問9）と比較すると、本調査において、“行うべきである”が微増（計85.9%⇒87.0%）、逆に“行うべきではない”が微減（計4.8%⇒3.0%）となっており、若干ではあるが、家事や育児等に対する意識の変化を感じ取ることができる。

◆性別・年代×問3



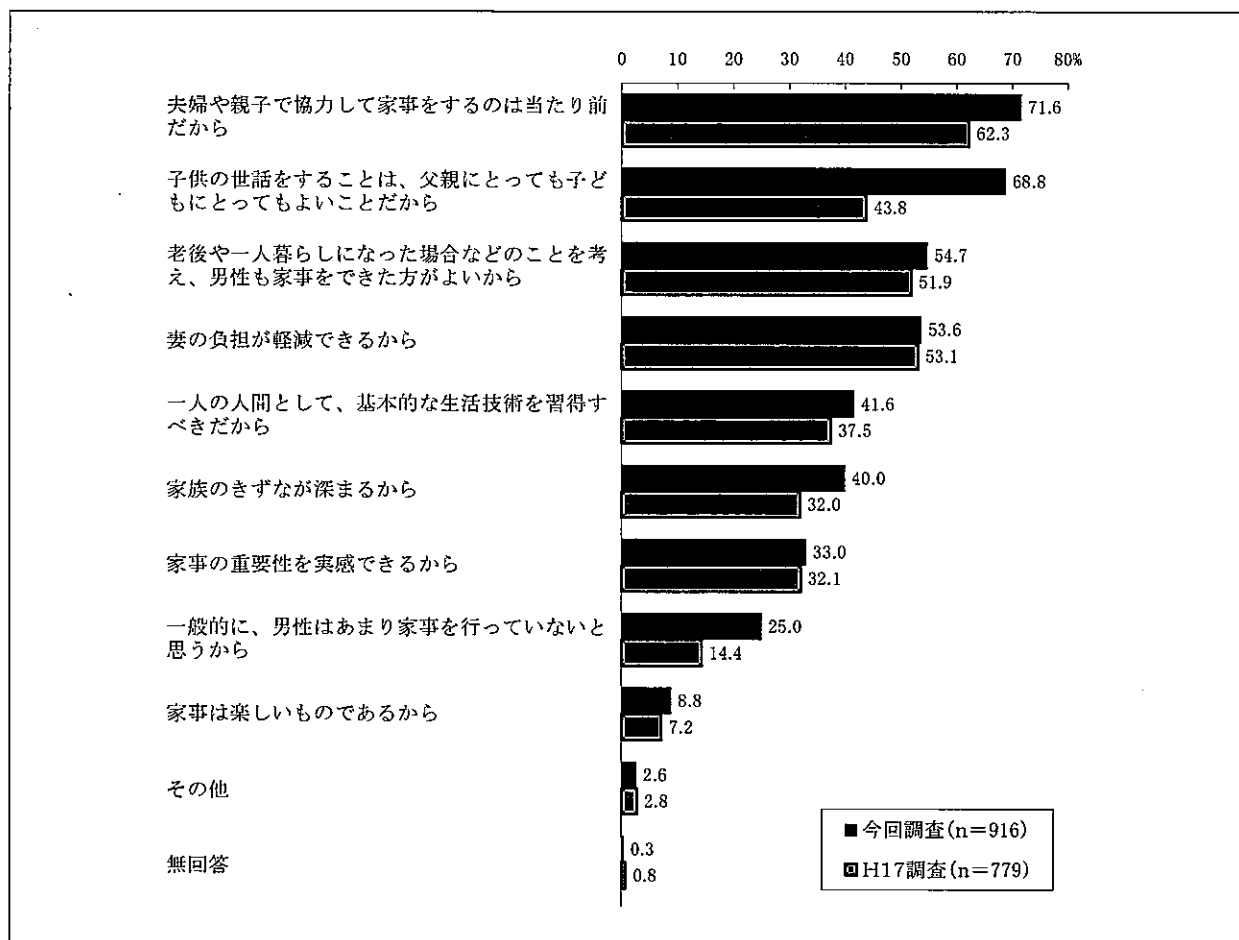
○女性では“行うべきである”（「積極的に行うべきである」＋「なるべく行うべきである」）の割合が非常に高く、最も低い70代以上でも8割を超えている（計81.9%）。また20～40代では、「積極的に行うべきである」が5割前後となっている。

○全体的に、若い年代ほど「積極的に行うべきである」とする割合が高い傾向にあり、男女とも20代の層では、70代以上の層の2倍以上の割合となっている。

●問3① (男性が家事や育児等を)“行うべき”と思う理由(複数回答)

問3で「1. 積極的に行うべきである」または「2. なるべく行うべきである」とお答えの方におたずねします。

問3①. “行うべき”と思う理由は何ですか。(〇はいくつでも)



家事や育児等を“行うべき”と回答した方に、その理由についてうかがった設問である。

○「夫婦や親子で協力して家事をするのは当たり前だから」が7割強(71.6%)で最も多く、次いで「子供の世話をすることは、父親にとっても子どもにとってもよいことだから」が7割弱(68.8%)で続き、この2項目が特に多くなっている。

○本市が平成17年度に実施した『家事時間等に関する市民意識及び実態調査』の結果(問9-1)と比較すると、本調査は全ての項目において割合が高くなっており、特に「子供の世話をすることは、父親にとっても子どもにとってもよいことだから」が25ポイントも上昇(43.8%⇒68.8%)しているのが特徴的である。

※平成17年度実施の調査では、各選択肢における文言が本調査とは一部異なっているため、単純な比較はできない。上記比較結果はあくまで「参考」としていただきたい。

◆性別×問3①

上段:実数 下段:横%

		問3①. “行うべき”と思う理由									
		合計	夫婦や親子で協力して家事をするのは当たり前だから	子供の世話をすることは、父親にとっても子どもにとってもよいことだから	老後や一人暮らしになった場合などのことを考え、男性も家事をできた方がよいから	妻の負担が軽減できるから	一人の人間として、基本的な生活技術を習得すべきだから	家族のきずなが深まるから	家事の重要性を実感できるから	一般的に、男性はあまり家事を行っていないと思うから	家事は楽しいものであるから
F1・性別	合計	916	656	630	501	491	381	366	302	229	81
		100.0	71.6	68.8	54.7	53.6	41.6	40.0	33.0	25.0	8.8
	男性	385	274	227	169	237	119	152	99	95	42
		100.0	71.2	59.0	43.9	61.6	30.9	39.5	25.7	24.7	10.9
	女性	508	366	384	315	242	250	207	195	129	39
		100.0	72.0	75.6	62.0	47.6	49.2	40.7	38.4	25.4	7.7

(複数回答のため、合計は100%にならない)

※上は「その他」と「無回答」を除いた表である

- 「夫婦や親子で協力して家事をするのは当たり前だから」は、男女とも高い割合となっている。
- 女性において、「子供の世話をすることは、父親にとっても子どもにとってもよいことだから」(75.6%)、「老後や一人暮らしになった場合などのことを考え、男性も家事をできた方がよいから」(62.0%)、「一人の人間として、基本的な生活技術を習得すべきだから」(49.2%)が、男性に比べて15ポイント以上高くなっている。
- 男性では「妻の負担が軽減できるから」(61.6%)が女性より高くなっている。

◆年代×問3①

上段:実数 下段:横%

		問3①. “行うべき”と思う理由									
		合計	夫婦や親子で協力して家事をするのは当たり前だから	子供の世話をすることは、父親にとっても子どもにとってもよいことだから	老後や一人暮らしになった場合などのことを考え、男性も家事をできた方がよいから	妻の負担が軽減できるから	一人の人間として、基本的な生活技術を習得すべきだから	家族のきずなが深まるから	家事の重要性を実感できるから	一般的に、男性はあまり家事を行っていないと思うから	家事は楽しいものであるから
F2・年代	合計	916	656	630	501	491	381	366	302	229	81
		100.0	71.6	68.8	54.7	53.6	41.6	40.0	33.0	25.0	8.8
	20代	80	67	66	26	40	22	47	36	13	7
		100.0	83.8	82.5	32.5	50.0	27.5	58.8	45.0	16.3	8.8
	30代	177	129	131	65	102	60	77	53	34	13
		100.0	72.9	74.0	36.7	57.6	33.9	43.5	29.9	19.2	7.3
	40代	148	111	111	74	68	68	66	45	29	12
		100.0	75.0	75.0	50.0	45.9	45.9	44.6	30.4	19.6	8.1
	50代	168	127	106	99	86	80	56	45	49	12
		100.0	75.6	63.1	58.9	51.2	47.6	33.3	26.8	29.2	7.1
	60代	171	117	109	112	98	83	66	64	52	19
		100.0	68.4	63.7	65.5	57.3	48.5	38.6	37.4	30.4	11.1
	70代以上	149	89	88	108	85	56	47	51	47	18
		100.0	59.7	59.1	72.5	57.0	37.6	31.5	34.2	31.5	12.1

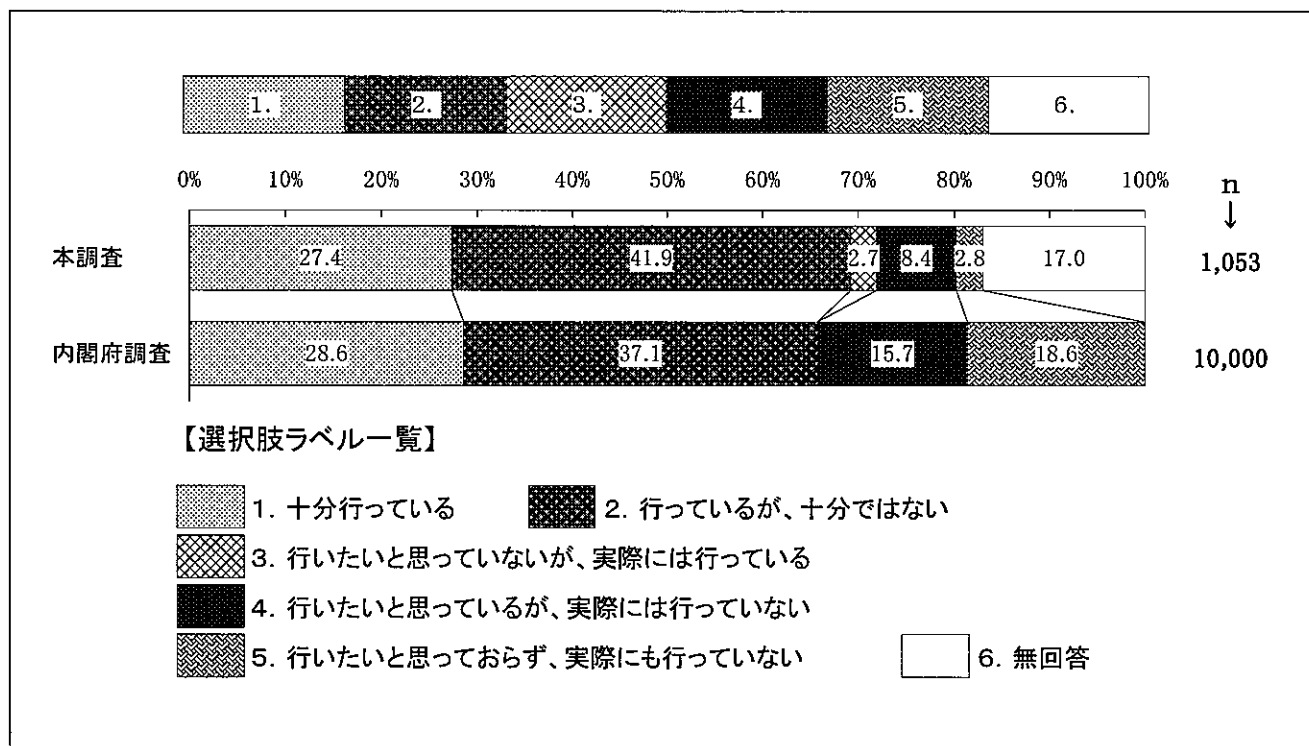
(複数回答のため、合計は100%にならない)

※上は「その他」と「無回答」を除いた表である

- 全体的に、若い年代ほど「夫婦や親子で協力して家事をするのは当たり前だから」、「子供の世話をすることは、父親にとっても子どもにとってもよいことだから」、「家族のきずなが深まるから」が高くなる傾向にある。
- 「老後や一人暮らしになった場合などのことを考え、男性も家事をできた方がよいから」、「一般的に、男性はあまり家事を行っていないと思うから」は、年代が上がるほど高くなる傾向が見られる。
- 20代では、「家事の重要性を実感できるから」が全年代で唯一4割を超えている(45.0%)。

●問4 家事や育児等の実施状況（単数回答）

問4. あなたはご家庭において、家事や育児等を行っていますか。（〇は1つ）



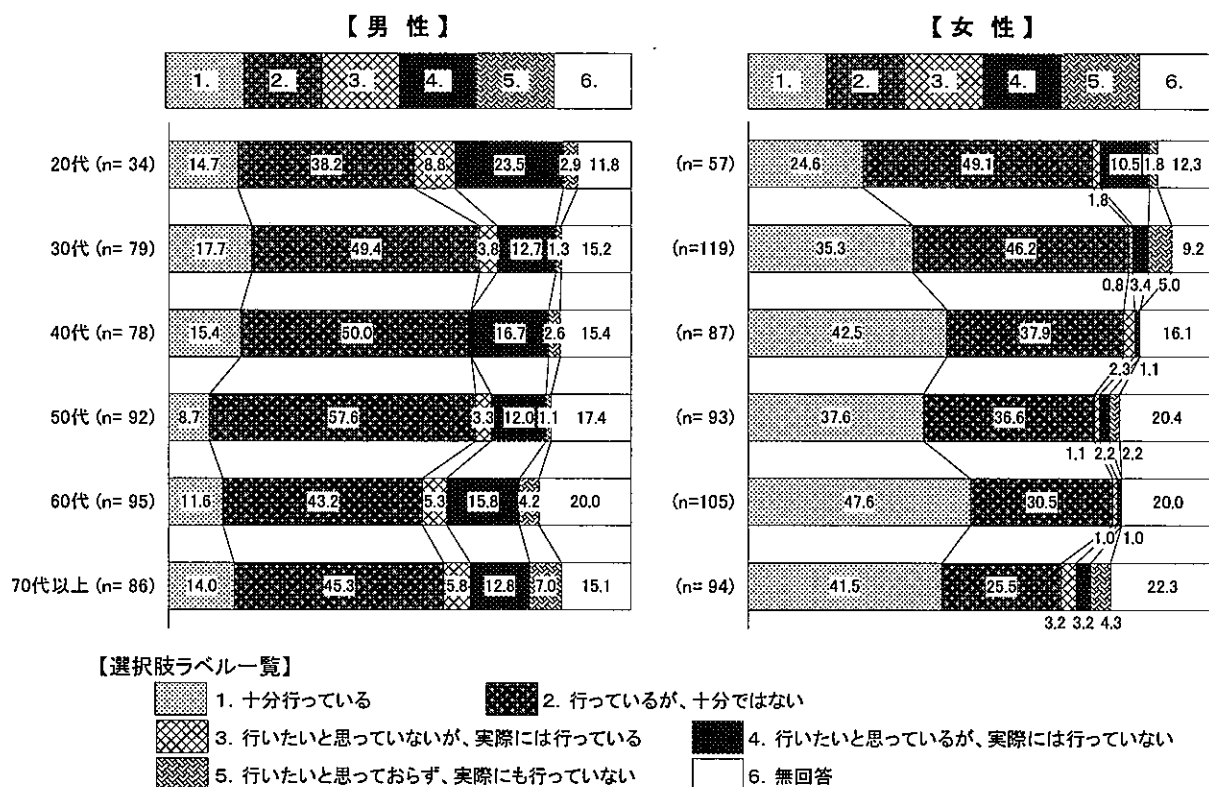
家庭における家事や育児等の実施状況についてうかがった設問である。

○現状で“行っている”とする回答（「十分行っている」＋「行っているが、十分ではない」＋「行いたいと思っていないが、実際には行っている」）が7割を超えている（計72.0%）。

○内閣府が平成21年に実施した『男女のライフスタイルに関する意識調査』の結果（問10）と比較すると、本調査では、「十分行っている」は若干低いものの、“行っていない”（「行ないたいと思っておらず、実際にも行っていない」＋「行ないたいと思っているが、実際には行っていない」）の割合が内閣府調査の1/3以下（内閣府調査計34.3%⇒本調査計11.2%）となっている。

※内閣府実施の調査では『行いたいと思っていないが、実際には行っている』の選択肢が設定されていないため、単純な比較はできない。上記比較結果はあくまで「参考」としていただきたい。

◆性別・年代×問4



○男性では「行っているが、十分ではない」がほとんどの年代で4～5割と高くなっているが、唯一20代では4割を切り（38.2%）、「行いたいと思っているが、実際には行っていない」が全性別・年代中最高の2割強（23.5%）となっている。

○女性では、年代が上がるほど「十分行っている」が高くなる傾向にあるが、30代以下の若い年代層では「行っているが、十分ではない」が半数近くとなっている。

● 問5 生計、家事や育児等に関する 配偶者との分担割合について【理想と現実】

問5. あなたは、生計、家事や育児等に関し、配偶者との分担の割合をどのように考えていますか。

『理想』と『現実』について、下記の項目ごとにそれぞれお答えください。

- ※1 ①『理想』に関し、配偶者がいない方は、いる場合を想定してお答えください
- ※2 “割合”はあなたと配偶者で合計が10になるようにご記入をお願いいたします
また下記(記入例)を参考に、小数点を含まない数字でのご記入をお願いいたします
- ※3 ②『現実』については、配偶者がいる方のみお答えください

(記入例) 1. 生計のために収入を得る

あなた 配偶者

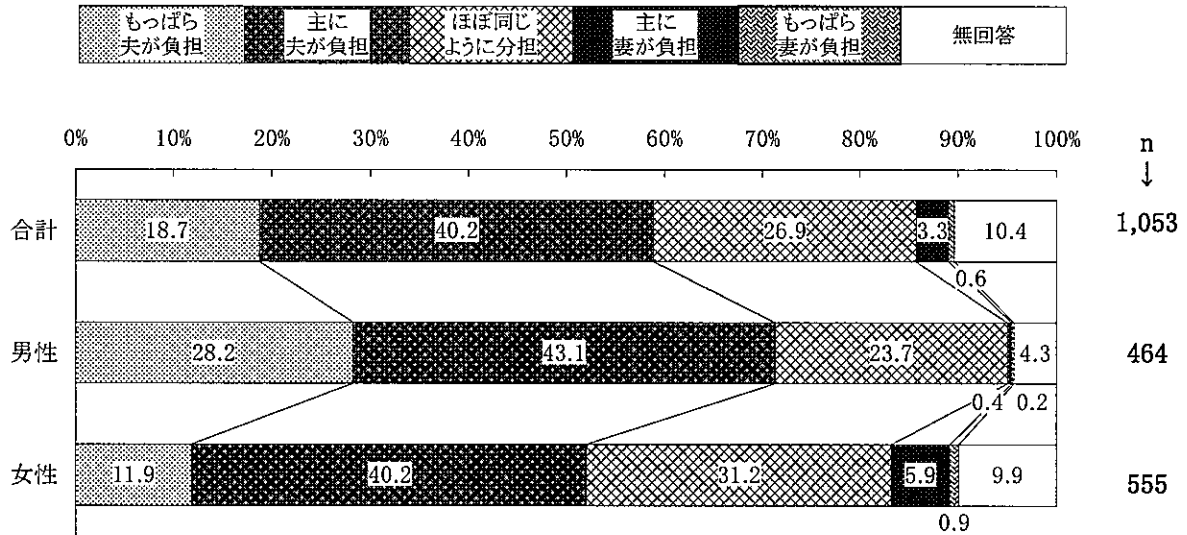
①『理想』 《全員がお答えください》	配偶者がいる方は こちらも記入ください	②『現実』 《配偶者がいる方のみお答えください》
1. 生計のために収入を得る あなた <input type="text"/> 配偶者 <input type="text"/>	➔	1. 生計のために収入を得る あなた <input type="text"/> 配偶者 <input type="text"/>
2. 家事や育児等を行う あなた <input type="text"/> 配偶者 <input type="text"/>		2. 家事や育児等を行う あなた <input type="text"/> 配偶者 <input type="text"/>

(注) 当設問では、文中にある「あなた」「配偶者」のままでは、性別や配偶者有無などの条件により、比較の際に混乱が生じる恐れがあることから、『男性(夫)』:『女性(妻)』との表現に置き替え、記載された数字回答(割合)を、以下の規準に基づいて5つの項目に分類した上で集計・分析作業を行っている。

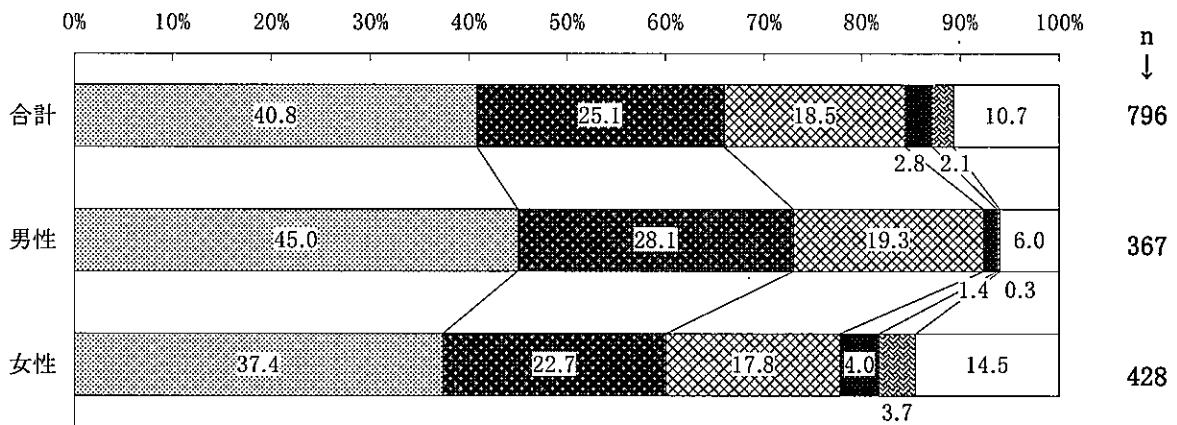
男性の分担割合	9~10	⇒	「もっぱら夫が負担」
男性の分担割合	7~8	⇒	「主に夫が負担」
男性の分担割合	4~6	⇒	「ほぼ同じように分担」
男性の分担割合	2~3	⇒	「主に妻が負担」
男性の分担割合	0~1	⇒	「もっぱら妻が負担」

1. 生計のために収入を得る

①『理想』



②『現実』

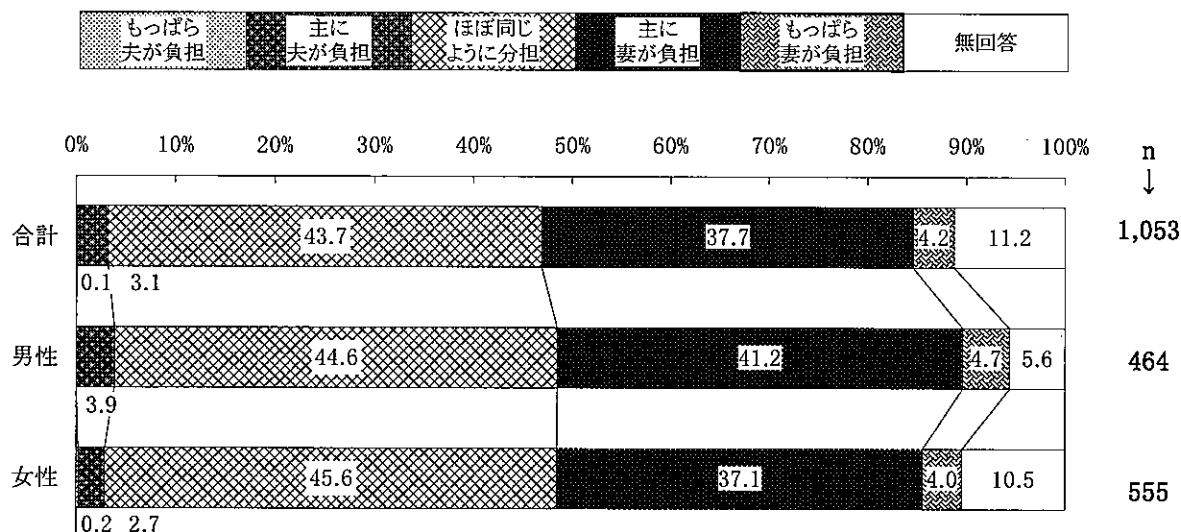


上記は「生計のために収入を得る」ことについての『理想』と『現実』についてうかがった設問である。

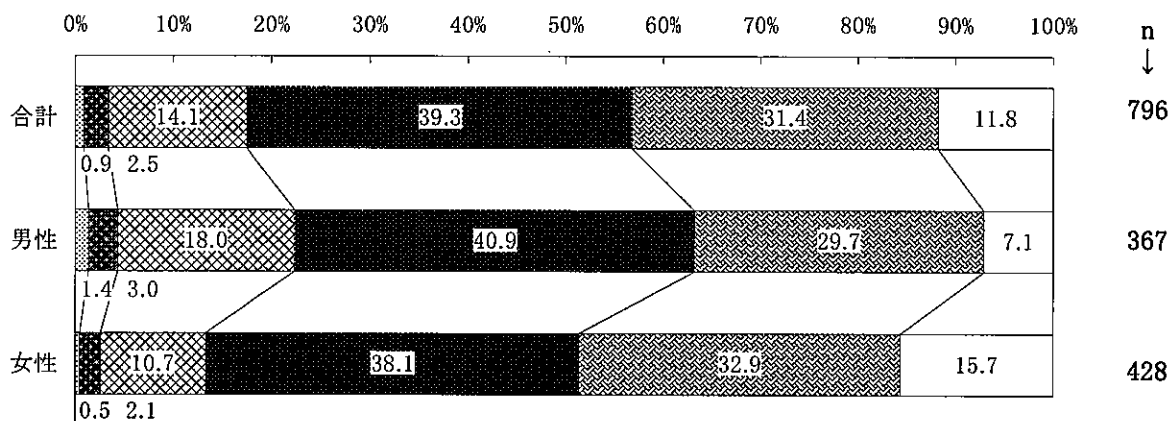
- 男性では“夫が負担”（「もっぱら夫が負担」＋「主に夫が負担」）の割合が『理想』・『現実』ともに7割を超え高くなっている。『現実』では『理想』に比べて「もっぱら夫が負担」の割合が17ポイントほど高くなっている。
- 一方女性においては、『理想』では1割強（11.9%）である「もっぱら夫が負担」が、『現実』には4割弱（37.4%）と3倍以上になっている。
- “夫が負担”の割合が高い中、男女とも『現実』において、「ほぼ同じように分担」の割合が2割弱存在する。
- 女性に比べて男性の方が、“夫が負担”と回答している割合が『理想』・『現実』ともに多い。

2. 家事や育児等を行う

①『理想』



②『現実』



上記は「家事や育児等を行う」ことについての『理想』と『現実』についてうかがった設問である。

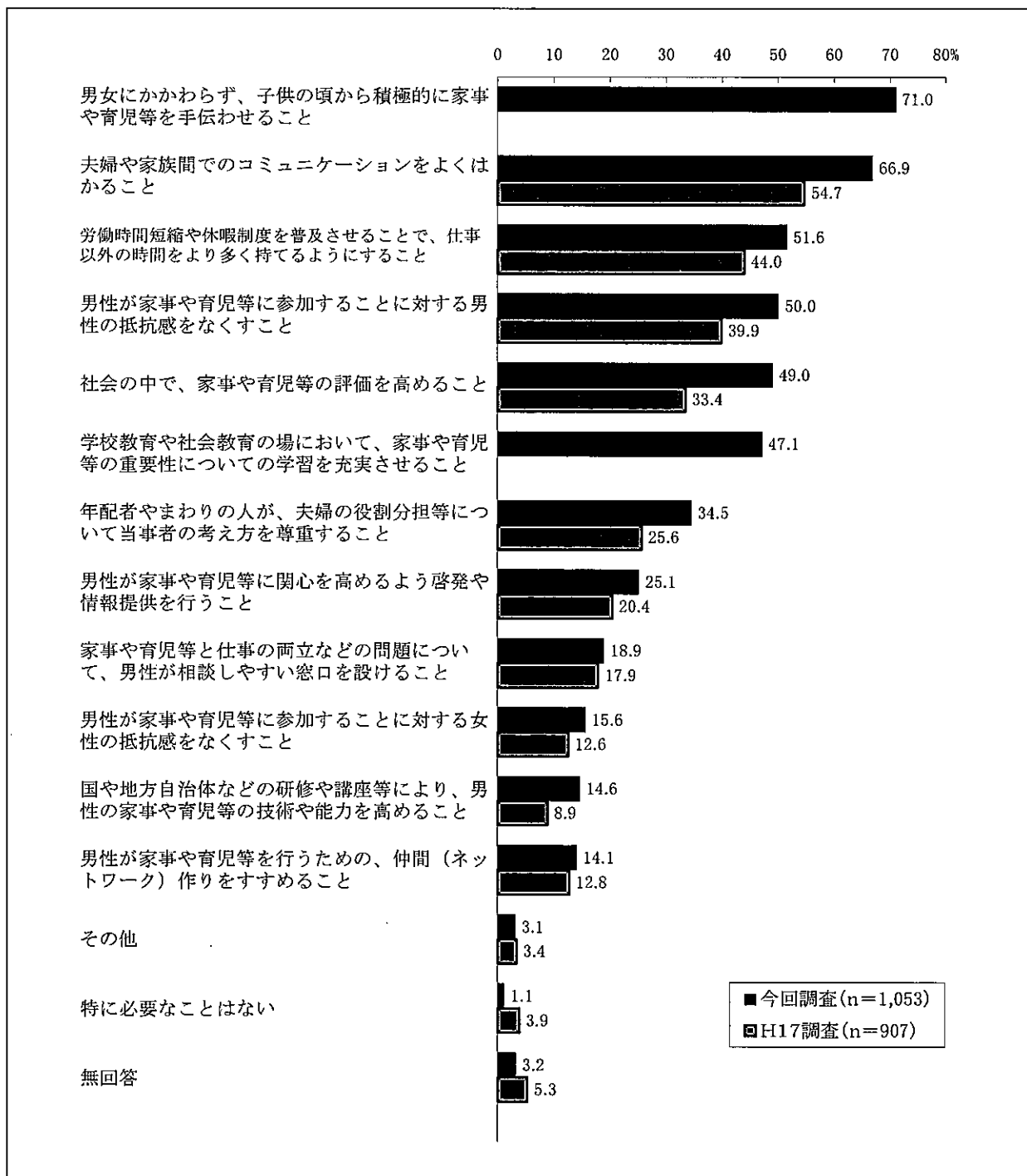
○ここでは、『理想』と『現実』のギャップが、非常に分かりやすい形で出ており、男女とも「ほぼ同じように分担」か“妻が負担”（「もっぱら妻が負担」＋「主に妻が負担」）を『理想』としているが、『現実』には非常に多くの方が“妻が負担”としている。

○女性においては、『理想』と『現実』を比較すると、「ほぼ同じように分担」が減少し、「もっぱら妻が負担」が増加している。家事や育児等の分野における理想と現実との差が大きくなっていることが分かる。

○男性において『現実』に「ほぼ同じように分担」している層が2割弱（18.0%）いるが、女性での割合が1割程度（10.7%）であることから、割合としては少ないものの、男女間の認識の違いがうかがえる結果となっている。

●問6 家事や育児等に参加・分担していくために必要なこと（複数回答）

問6. 今後、男女がともに家事や育児等に積極的に参加・分担していくために、
あなたはどのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）



注) 「男女にかかわらず、子供の頃から積極的に家事や育児等を手伝わせること」、
「学校教育や社会教育の場において、家事や育児等の重要性についての学習を充実させること」
は本調査で新たに設定した選択肢のため、本調査の結果のみを掲載している

家事や育児等に積極的に参加・分担していくために、必要だと思うことについてうかがった設問である。

- 「男女にかかわらず、子供の頃から積極的に家事や育児を手伝わせること」が約7割（71.0%）で最多。次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が6割超（66.9%）で続く。
- “子供の頃から積極的に手伝わせる”、“コミュニケーションをよくはかる”ということが重要であるとの認識がうかがえる結果となった。
- 本市が平成17年度に実施した『家事時間等に関する市民意識及び実態調査』の結果(問10)と比較すると、本調査において「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」、「男性が家事や育児等に参加することに対する男性の抵抗感をなくすこと」、「社会の中で、家事や育児等の評価を高めること」の割合が10ポイント以上高くなっている。

※平成17年度実施の調査では、『男女にかかわらず、子供の頃から積極的に家事や育児を手伝わせること』、『学校教育や社会教育の場において、家事や育児等の重要性についての学習を充実させること』の選択肢が設定されていないほか、その他の選択肢も文言が一部異なっているため、単純な比較はできない。上記比較結果はあくまでも「参考」としていただきたい。

◆性別×問6

上段:実数 下段:横%

		問6						
		合計	男女にかかわらず、子供の頃から積極的に家事や育児等を手伝わせること	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	男性が家事や育児等に参加することに対する男性の抵抗感をなくすこと	社会の中で、家事や育児等の評価を高めること	学校教育や社会教育の場において、家事や育児等の重要性についての学習を充実させること
F1 性別	合計	1053	748	704	543	527	516	496
		100.0	71.0	66.9	51.6	50.0	49.0	47.1
	男性	464	294	310	247	198	209	210
		100.0	63.4	66.8	53.2	42.7	45.0	45.3
	女性	555	432	377	285	314	297	272
		100.0	77.8	67.9	51.4	56.6	53.5	49.0

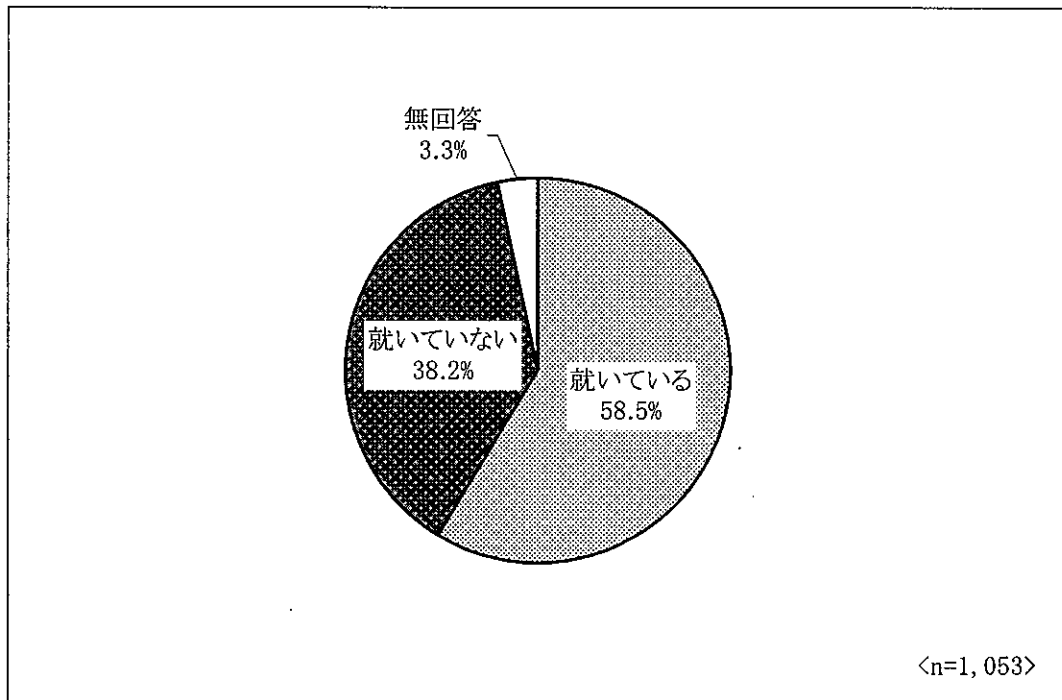
(複数回答のため、必ずしも合計は100%にならない)

※上は回答数上位6項目のみを抜粋した表である

- 「男女にかかわらず、子供の頃から積極的に家事や育児を手伝わせること」、「男性が家事や育児等に参加することに対する男性の抵抗感をなくすこと」と回答した女性の割合が、男性に比べて10ポイント以上高くなっている。

●問7 仕事に就いているかどうか（単数回答）

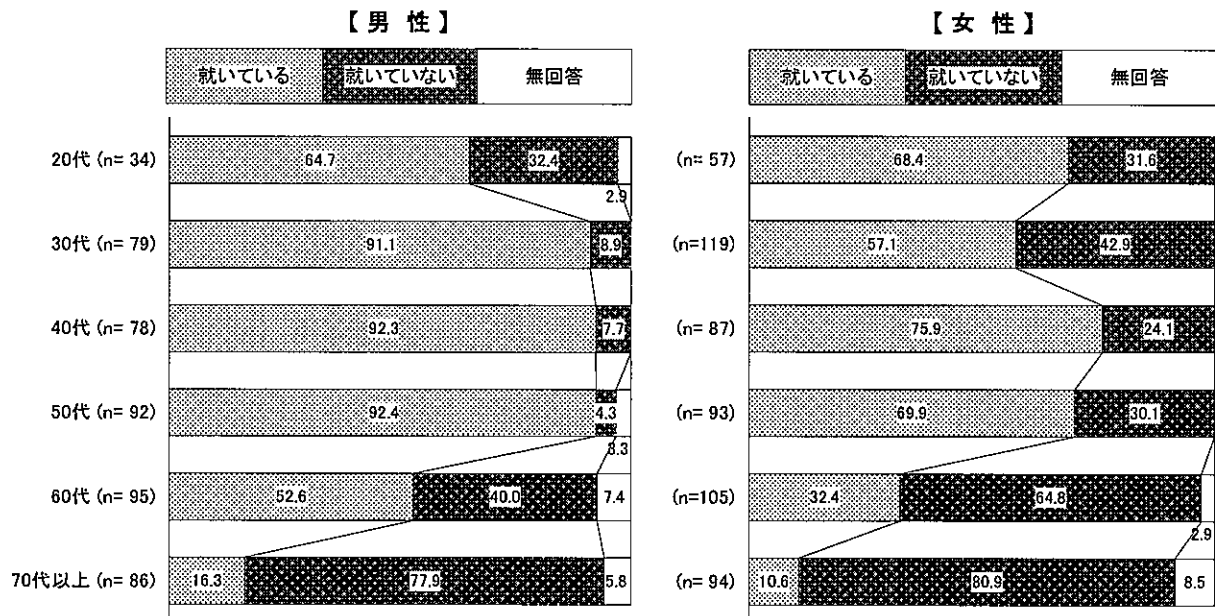
問7. あなたは仕事に就いていますか。（○は1つ）



仕事に就いているかどうかについてうかがった設問である。

○本調査においては、回答者に比較的高い年代層が多いためか（60代以上が計36.2%⇒II 回答者の属性・3ページを参照）、「就いている」方は全体の6割弱（58.5%）となっている。

◆性別・年代×問7



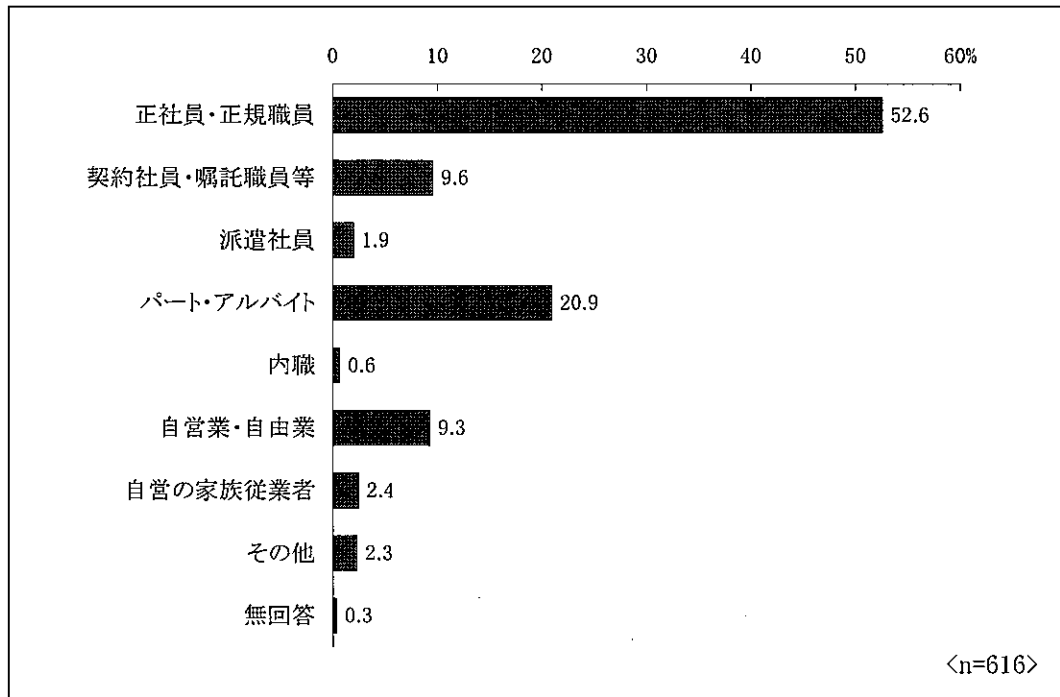
○男性の30～50代において、「就いている」が9割を超えているが、女性では40代の75.9%が最高で、その他20代と50代で7割ほどとなっている。

○女性の30代では、「就いている」の割合が前後の年代に比べて10ポイント以上低い6割弱(57.1%)となっている。結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに勤め先を辞める女性が多いことから、仕事に就いている割合が他の年代に比べ低くなっていることが推測される(問17・70ページ)。

●問8 就業形態（単数回答）

◀問7で「1. (仕事に)就いている」とお答えの方は、問8から問10までお答え下さい▶

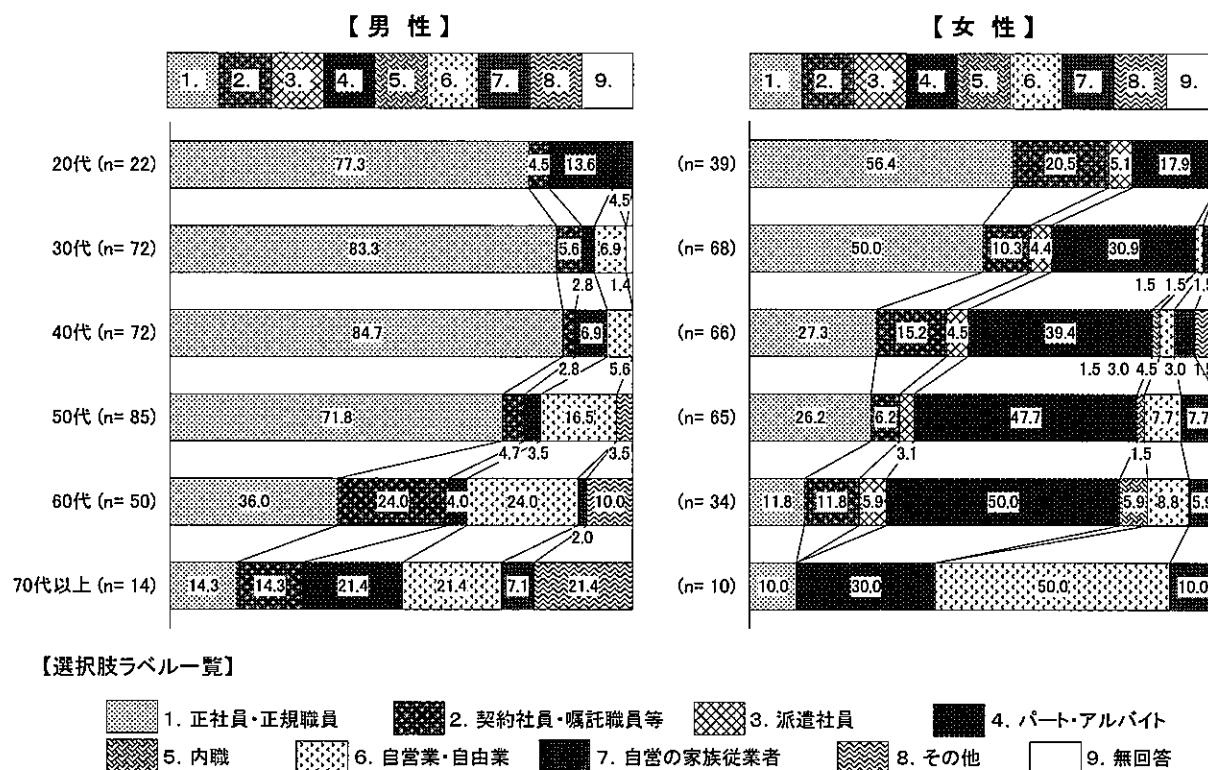
問8. あなたの就業形態はどのようになっていますか。（〇は1つ）



「仕事に就いている」と回答した方に、その就業形態についてうかがった設問である。

- 「正社員・正規職員」が5割強（52.6%）で最も多く、「パート・アルバイト」が約2割（20.9%）となっている。
- “非正規の就業”（「契約社員・嘱託職員等」＋「派遣社員」＋「パート・アルバイト」＋「内職」）の方は合わせて3割強（計33.0%）となっている。

◆性別・年代×問8



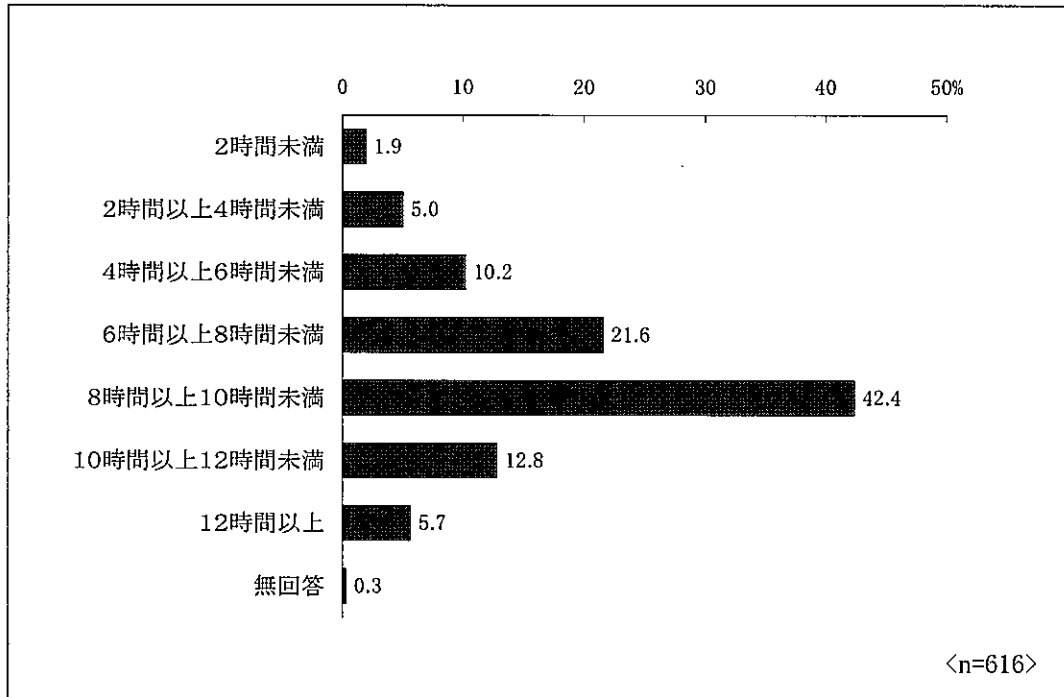
- 性別、年代ごとの標本数が少ないため留意が必要であるが、男性の20～50代は「正社員・正規職員」が7～8割と高い。一方女性では、20代・30代で「正社員・正規職員」が5割ほどであるものの、40代以上の年代では「パート・アルバイト」の比率が高くなる傾向にある。
- 女性の40～60代においては、“非正規の就業”（「契約社員・嘱託職員等」＋「派遣社員」＋「パート・アルバイト」＋「内職」）の割合が6割前後と非常に高い。
- 全体的に、男性に比べて女性の方で“非正規の就業”比率が高くなっていることが分かる。

●問9 1日の労働時間（単数回答）

◀問7で「1.（仕事に）就いている」とお答えの方は、問8から問10までお答え下さい▶

問9. あなたの1日の労働時間はどのようになっていますか。（○は1つ）

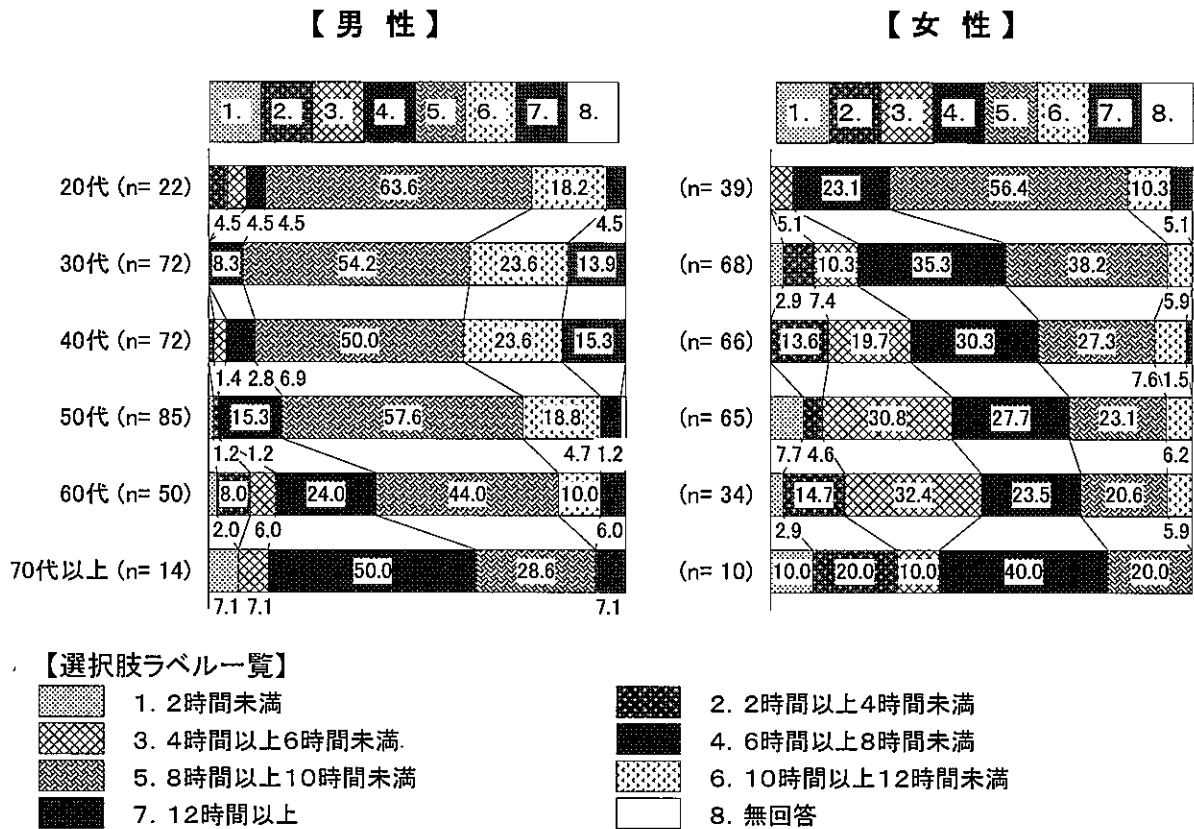
※残業時間等も含む「平均的な1日の労働時間」をお答えください



「仕事に就いている」と回答した方に、1日の労働時間についてうかがった設問である。

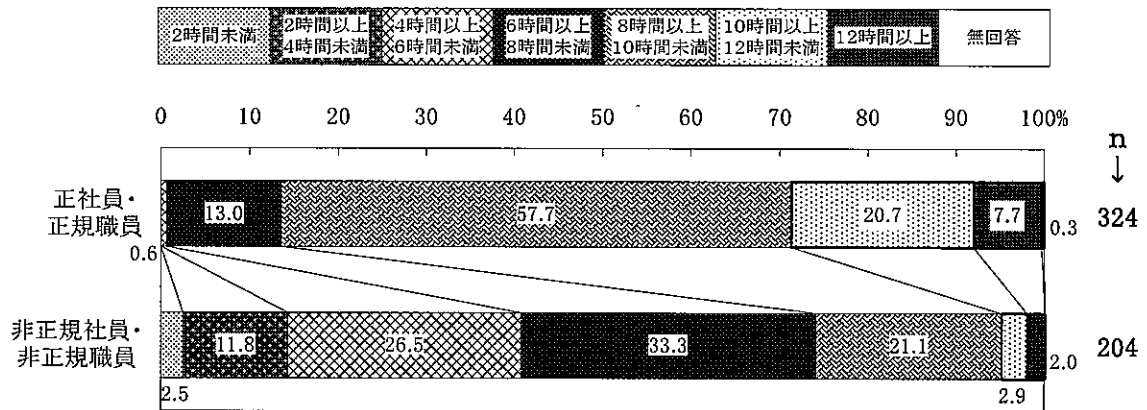
- 「8時間以上10時間未満」が4割強（42.4%）となっており、“8時間以上”（「8時間以上10時間未満」＋「10時間以上12時間未満」＋「12時間以上」）で全体の約6割（計60.9%）を占める。
- “10時間以上”（「10時間以上12時間未満」＋「12時間以上」）の長時間労働に従事している方も2割弱（計18.5%）存在する。

◆性別・年代×問9



- 男性では、若い年代で“8時間以上”（「8時間以上10時間未満」＋「10時間以上12時間未満」＋「12時間以上」）の割合が極めて多く、特に30代・40代では“10時間以上”（「10時間以上12時間未満」＋「12時間以上」）が4割近くにも達している。
- 一方女性では、年代が上がるほど“短時間労働”の割合が高くなる傾向にあり、20代では“8時間以上”が7割となっているが、それ以上の年代になると、“8時間未満”とする方が非常に多くなっている。

◆問8×問9



- 『正社員・正規職員』では、“8時間以上”が8割以上を占める（計86.1%）ほか、“10時間以上”の長時間労働に従事する方も3割近く（計28.4%）存在する。
- 『非正規社員・非正規職員』では、“8時間未満”が3/4近く（計74.1%）となっている。

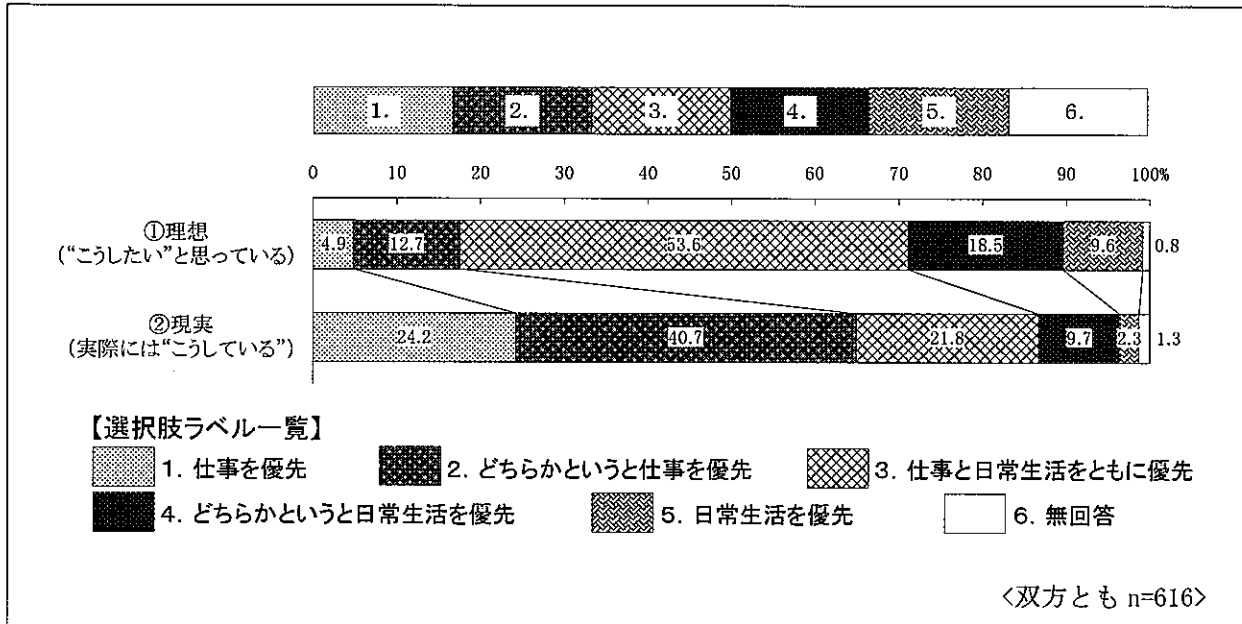
※『非正規社員・非正規職員』⇒契約社員・嘱託職員等、派遣社員、パート・アルバイト、内職の割合を合計したものである

● 問10 仕事と日常生活の優先度合いについて【理想と現実】
(それぞれ単数回答)

〈問7で「1. (仕事に)就いている」とお答えの方は、問8から問10までお答え下さい〉

問10. あなたは「仕事」と「日常生活」(家庭生活、家事や育児等、趣味・娯楽など)の優先度合いについて、普段どのように考えていますか。『理想』と『現実』について、それぞれお答えください。

(それぞれ〇は1つ)



「仕事に就いている」と回答した方に、仕事と日常生活の優先度合いの【理想と現実】についてうかがった設問である。

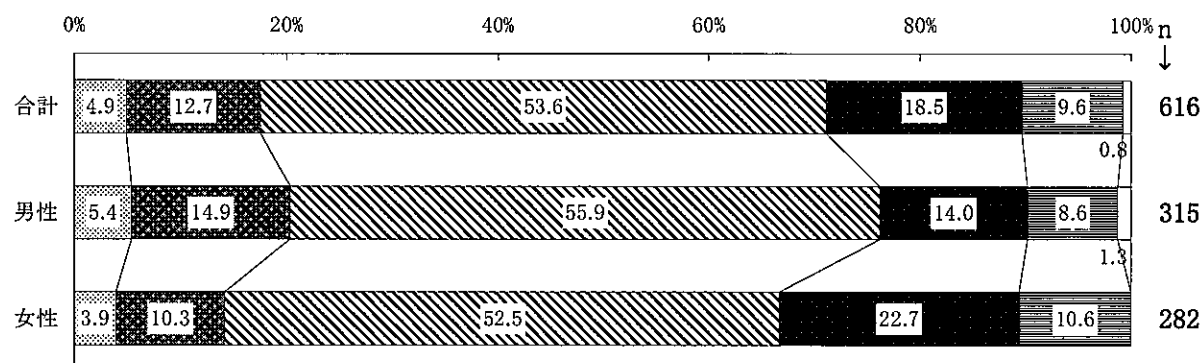
○理想と現実のギャップがかなり明確に現れる結果となっており、全体の5割強(53.6%)が「仕事と日常生活をともに優先」との『理想』を持っていながら、『現実』には2割程度(21.8%)にとどまっていることが分かる。

○“仕事を優先”(「仕事を優先」+「どちらかという仕事を優先」)は、『理想』においては2割弱(計17.6%)であるが、『現実』には6割超(計64.9%)と3倍以上であり、『理想』と『現実』の差が大きくなっている。

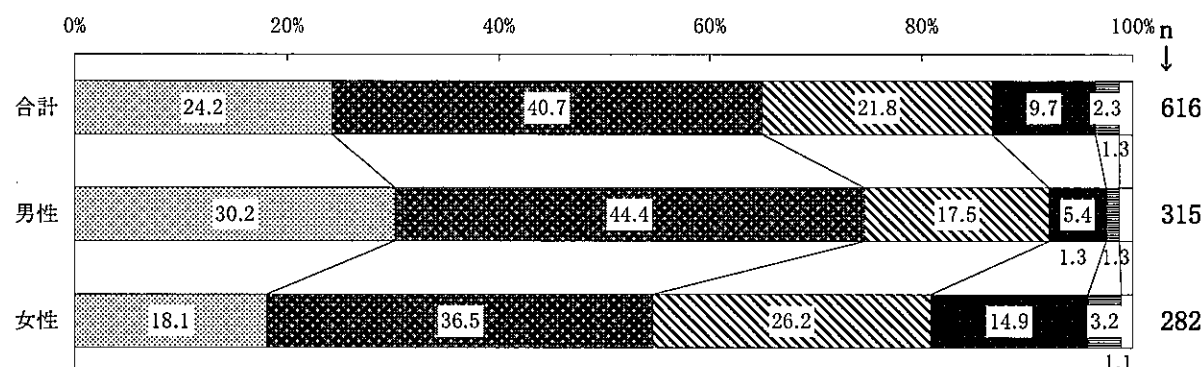
◆性別×問10①『理想』
×問10②『現実』



①理想（“こうしたい”と思っている）



②現実（実際には“こうしている”）

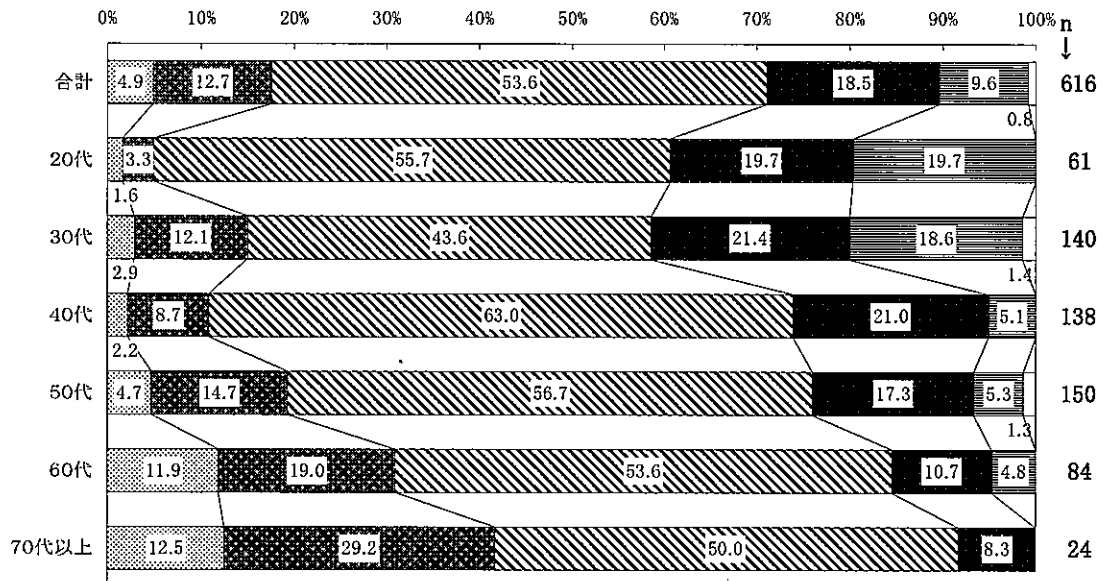


- 男性では、5割を超える方（55.9%）が「仕事と日常生活をともに優先」を『理想』としているが、『現実』には7割超（計 74.6%）が“仕事を優先”（「仕事を優先」＋「どちらかという仕事を優先」）と回答している。
- 一方女性では、男性と同様、5割を超える方（52.5%）が「仕事と日常生活をともに優先」を『理想』としているが、“日常生活を優先”（「日常生活を優先」＋「どちらかという日常生活を優先」）とする方も3割を超え、男性の回答を上回っている。しかし『現実』には、“仕事を優先”と回答した割合は男性に比べ少なく、「仕事と日常生活をともに優先」が1/4ほどとなっており（26.2%），“日常生活を優先”とする層も2割近く（計 18.1%）に上っている。

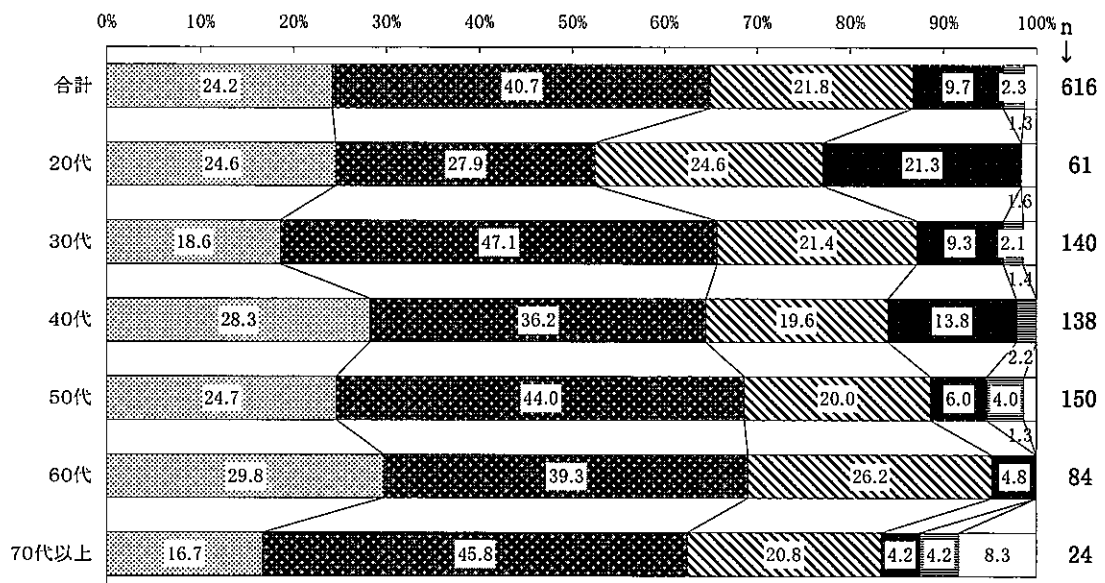
◆年代×問10①『理想』
×問10②『現実』



①理想（“こうしたい”と思っている）



②現実（実際には“こうしている”）

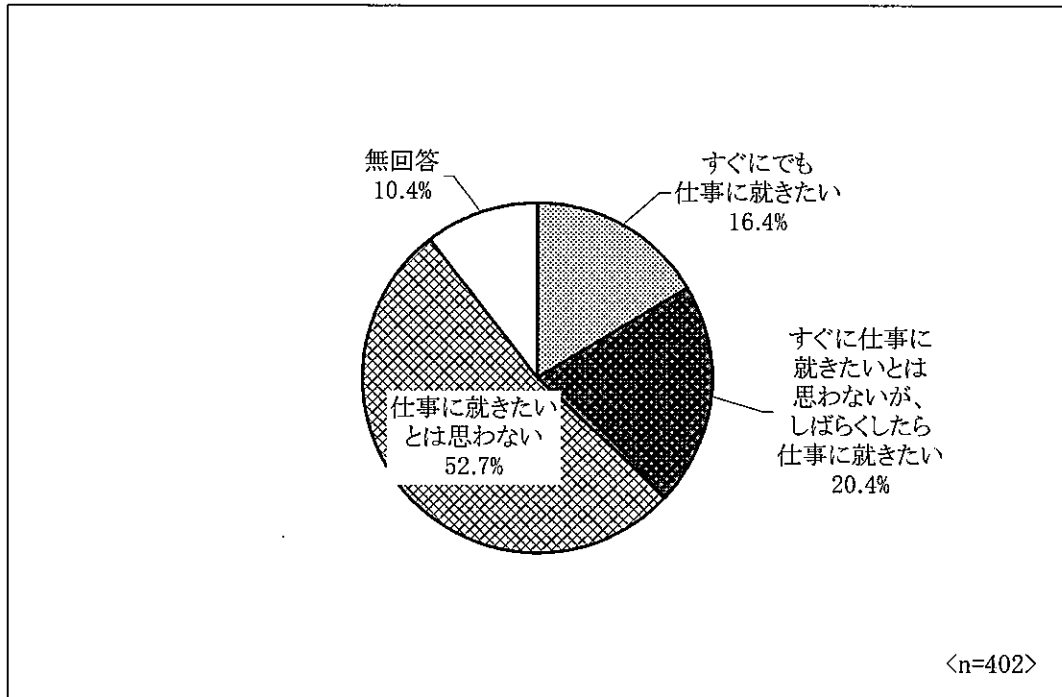


- 『理想』においては、年代が上がるほど“仕事を優先”（「仕事を優先」＋「どちらかという仕事を優先」）が高くなる傾向が見られるが、30代以下の若い年代層では、“日常生活を優先”（「日常生活を優先」＋「どちらかという日常生活を優先」）が4割ほどと高くなっている。
- 一方『現実』を見ると、全ての年代で“仕事を優先”が高くなり、30～60代では6～7割ほどとなっている。20代では「どちらかという日常生活を優先」が全年代の中でも突出して高く、2割を超えている（21.3%）。

●問11 今後の就業意向（単数回答）

◀問7で「2.（仕事に）就いていない」とお答えの方にだけおたずねします▶

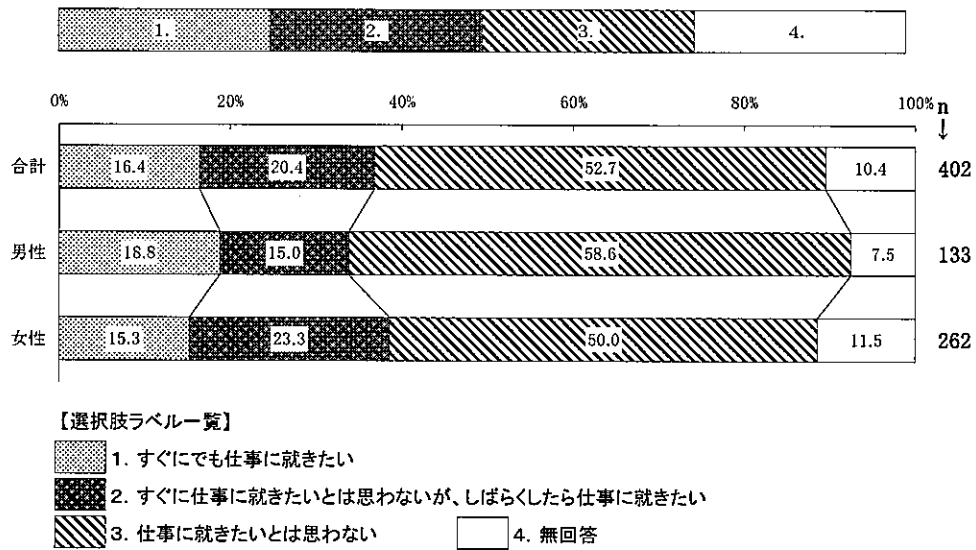
問11. あなたは今後、仕事に就きたいと思いますか。（○は1つ）



「仕事に就いていない」と回答した方に、今後の就業意向についてうかがった設問である。

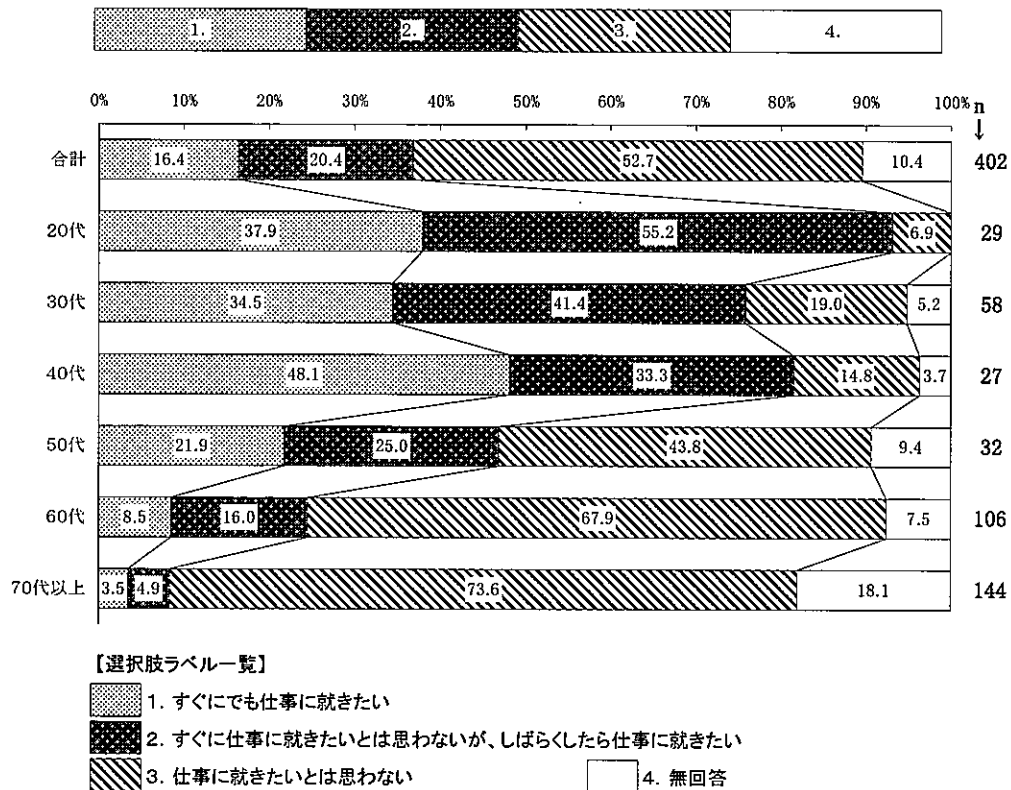
- 「すぐにでも仕事に就きたい」と回答した方は2割を下回っており（16.4%）、「仕事に就きたいとは思わない」が半数を超えている（52.7%）が、これは回答者に60代以上の高年齢層が多いことに起因するものである。

◆性別×問11



○「仕事に就きたいとは思わない」は男女ともに5割を超えているが、特に男性で高く、6割近くにも上っている(58.6%)。これは回答者に60代以上の高年齢層が多いことに起因するものである。

◆年代×問11



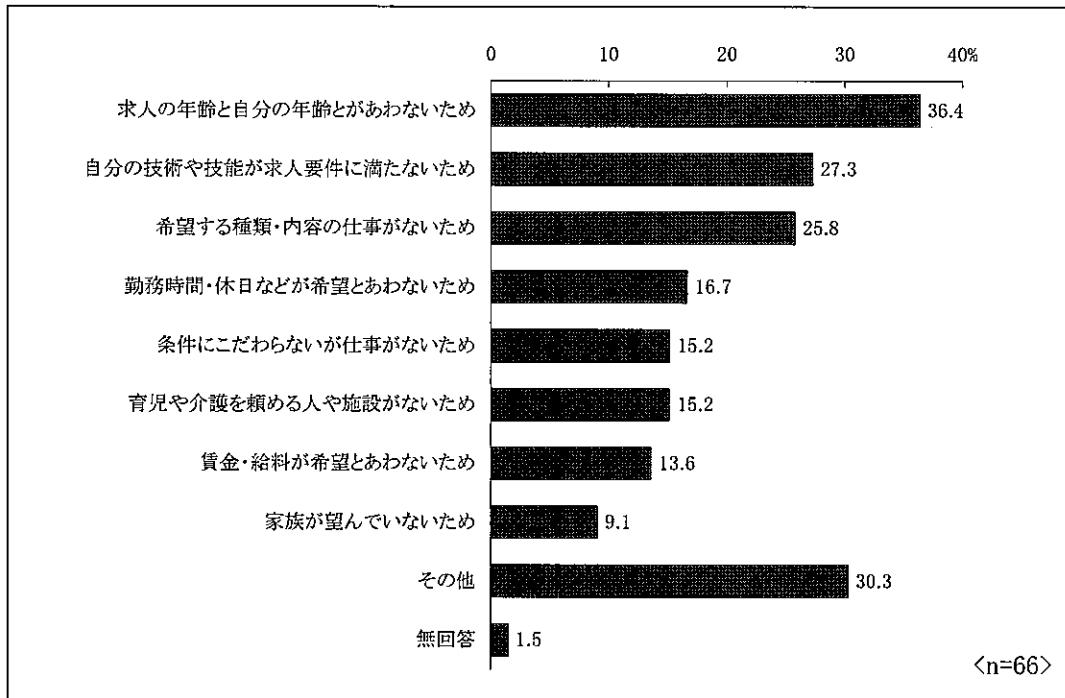
○20～40代の年代で「すぐにも仕事に就きたい」の割合が高い。また、「すぐに仕事に就きたいとは思わないが、しばらくしたら仕事に就きたい」も若い年代ほど高くなっている。

○「仕事に就きたいとは思わない」は、50代以上の年代層で非常に高い。

●問11① 仕事に就いていない理由（複数回答）

問11で「1. すぐにでも仕事に就きたい」とお答えの方におたずねします。

問11①. あなたが仕事に就いていない理由は何ですか。（〇はいくつでも）



「すぐにでも仕事に就きたい」と回答した方に、就いていない理由についてうかがった設問である。

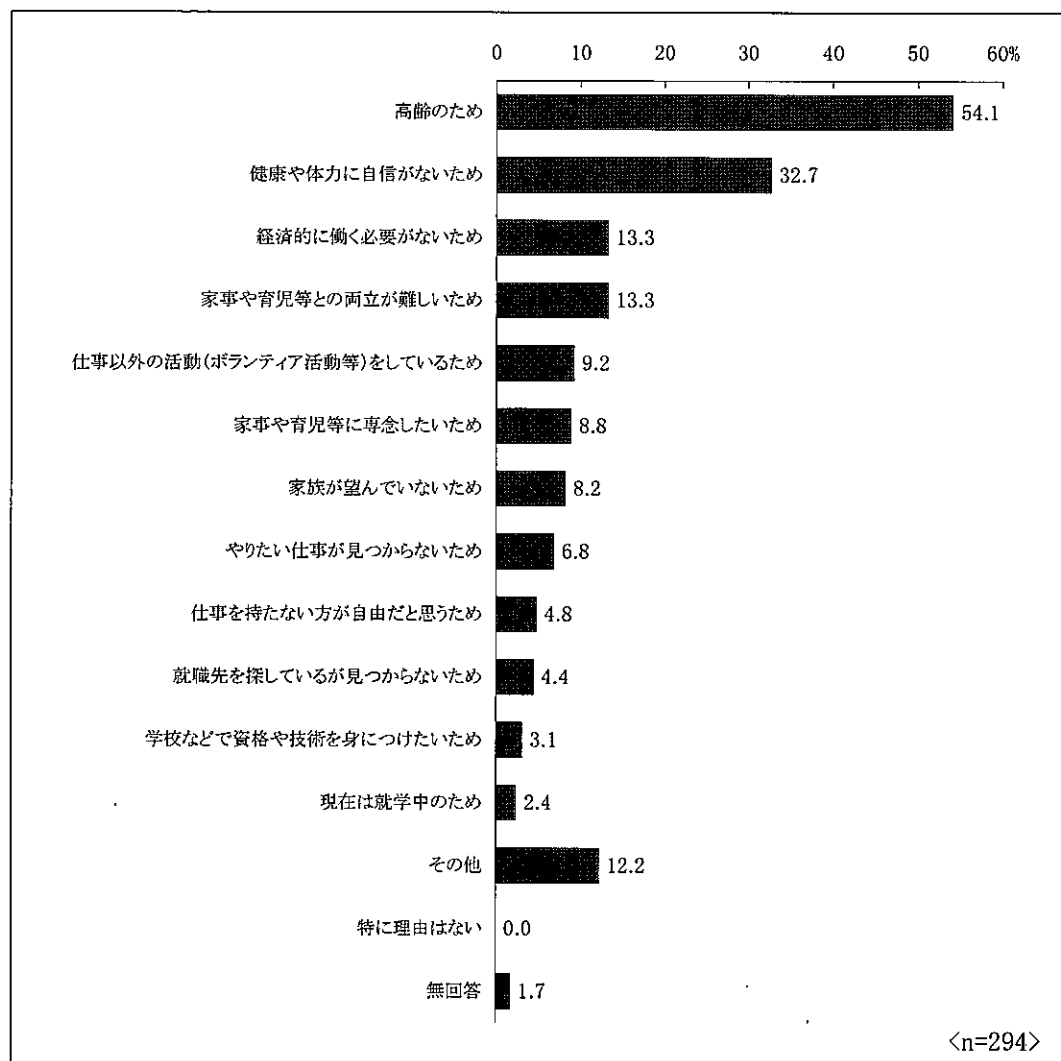
○標本数が少ないため留意が必要であるが、「求人年齢と自分の年齢とがあわないため」が4割弱（36.4%）で最多。次いで「自分の技術や技能が求人要件に満たないため」（27.3%）、「希望する種類・内容の仕事がないため」（25.8%）となっている。

○1位である『年齢面』の問題を裏付けるかのように、「その他」の回答において、“高齢”、“健康上の理由”、“体力面の不安”などの意見が多い。

●問11② 仕事に就きたいと思わない理由（複数回答）

問11で「2. すぐに仕事に就きたいとは思わないが、しばらくしたら仕事に就きたい」、
または「3. 仕事に就きたいとは思わない」とお答えの方におたずねします。

問11②. あなたが現状で仕事に就きたいとは思わない理由は何ですか。（〇はいくつでも）

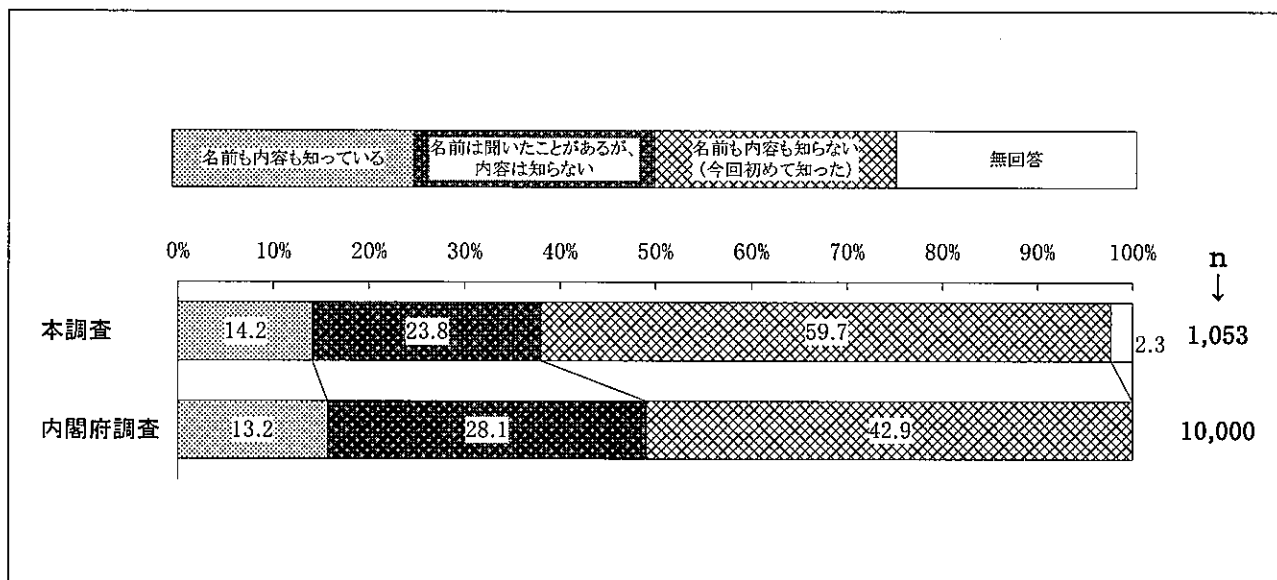


「すぐに仕事に就きたいとは思わないが、しばらくしたら仕事に就きたい」及び「仕事に就きたいとは思わない」と回答した方に、仕事に就きたいとは思わない理由についてうかがった設問である。

- 「高齢のため」が5割を超え最も多く（54.1%）、次いでやや離れて「健康や体力に自信がないため」が3割強（32.7%）で続いている。
- 前問11①“仕事に就いていない理由”とも関連があると思われるが、主として『年齢面』、『健康・体力面』が理由となって、「働けない・働こうと思わない（思えない）」回答が多いものと推察される。
- 「その他」の意見として、“介護のため（配偶者・親）”、“病気のため”、“障害があるため”といった回答が寄せられている。

●問12 「ワーク・ライフ・バランス」の認知度（単数回答）

問12. あなたはこの「ワーク・ライフ・バランス」という言葉をどの程度知っていますか。（○は1つ）



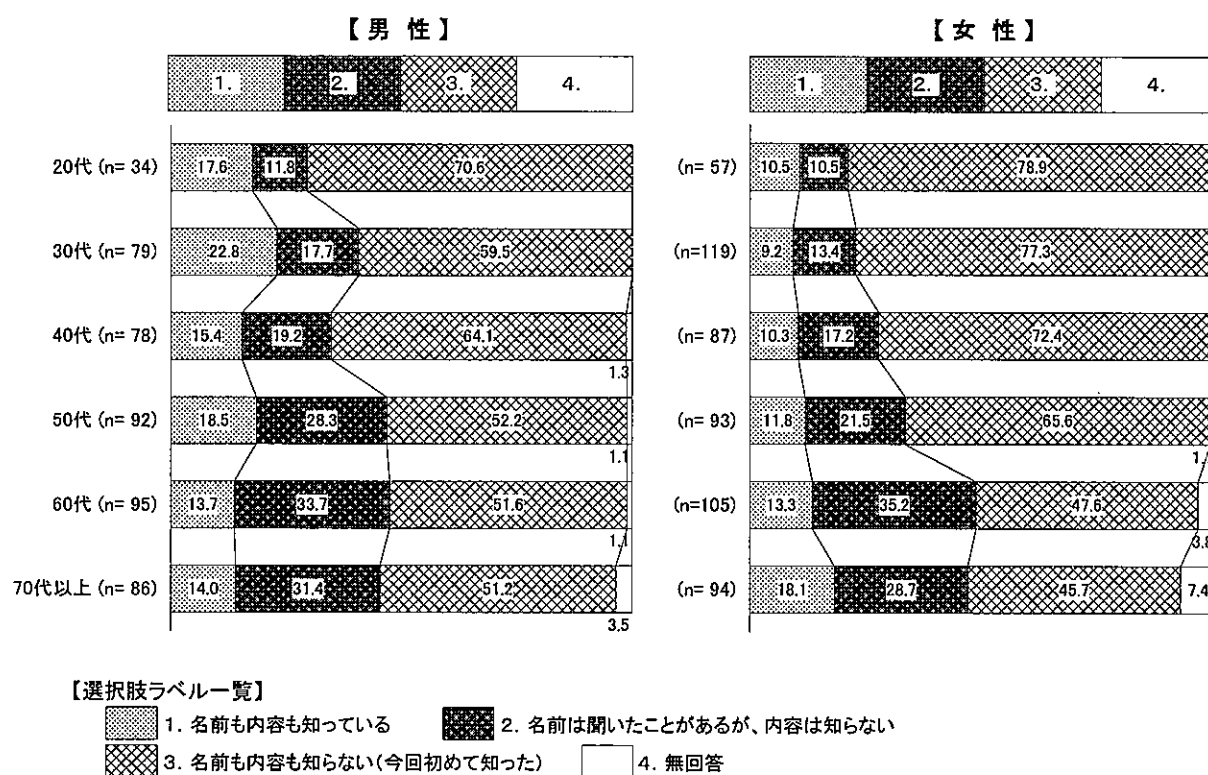
「ワーク・ライフ・バランス」の認知度についてうかがった設問である。

○“認知層”（「名前も内容も知っている」＋「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」）は合わせても4割程度（計38.0%）にとどまり、“非認知層”（「名前も内容も知らない（今回初めて知った）」）が6割（59.7%）近くとなる結果となった。

○内閣府が平成21年に実施した『男女のライフスタイルに関する意識調査』の結果（問21）と比較すると、本調査の“非認知層”が17ポイントも高くなっていることから、「ワーク・ライフ・バランス」という言葉はもとより、その意味についても、今後一層の周知徹底を図っていく必要があると思われる。

※内閣府実施の調査では、「分からない」の選択肢が設定されているほか、他選択肢の文言も本調査と一部異なっているため、単純な比較はできない。上記比較結果はあくまで「参考」としていただきたい。

◆性別・年代×問12

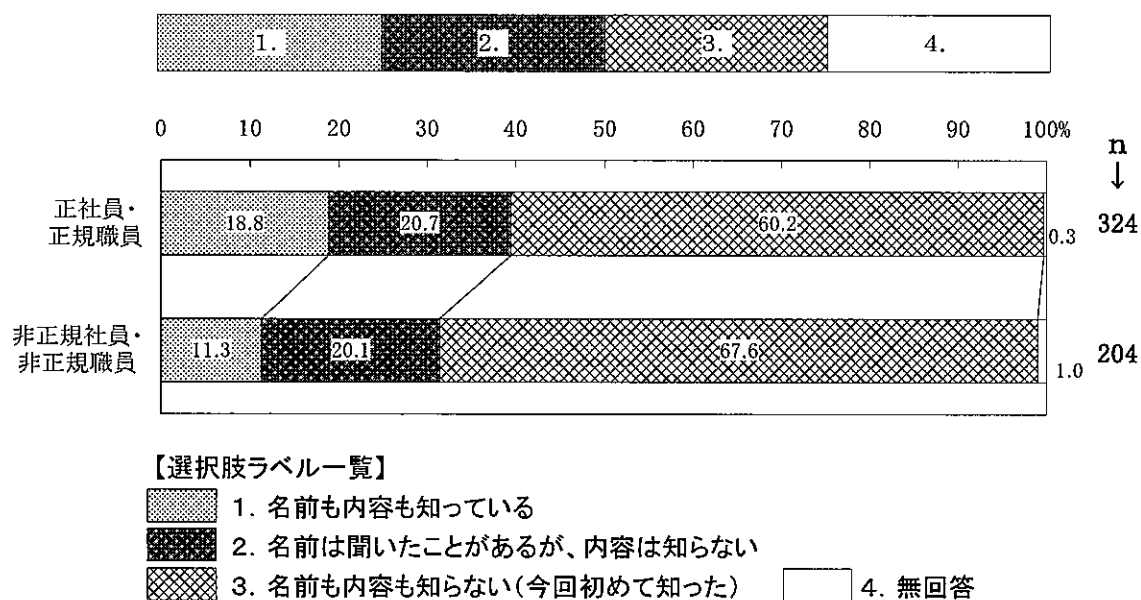


○男性の20代、及び女性の20～40代において、“非認知層”（「名前も内容も知らない（今回初めて知った）」）が7割を超えている。

○男女とも“認知層”（「名前も内容も知っている」＋「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」）は高い年代に多く、男性では50代以上、女性では60代以上で4割を大きく超えている。

○女性では年代が上がるほど“認知層”が増える傾向にあり、特にその割合が強まる60代以上では、若干ながら認知が非認知を上回っている。

◆問8(就業形態)×問12

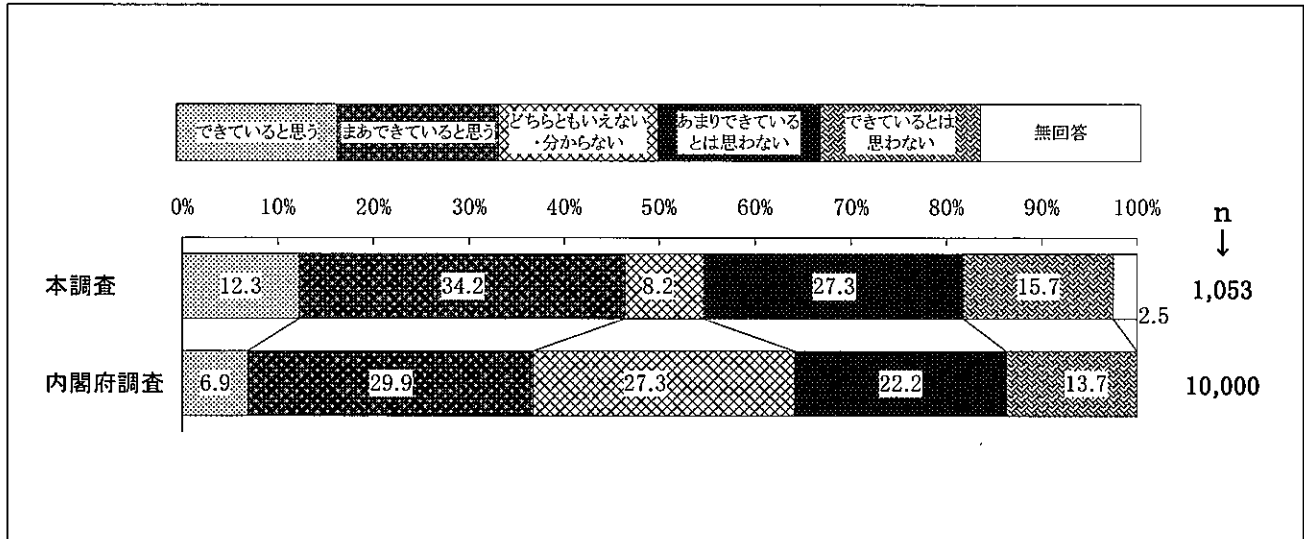


○『正社員・正規職員』では“認知層”の割合が4割(計39.5%)と高い。一方『非正規社員・非正規職員』では、“非認知層”の割合が7割近く(67.6%)となっている。

※『非正規社員・非正規職員』⇒契約社員・嘱託職員等、派遣社員、パート・アルバイト、内職の割合を合計したものである

●問13 自分が希望する時間の使い方ができているかどうか（単数回答）

問13. あなたは普段、仕事、家事や育児等、趣味・娯楽など、自分が希望する時間の使い方ができていると思いますか。（○は1つ）

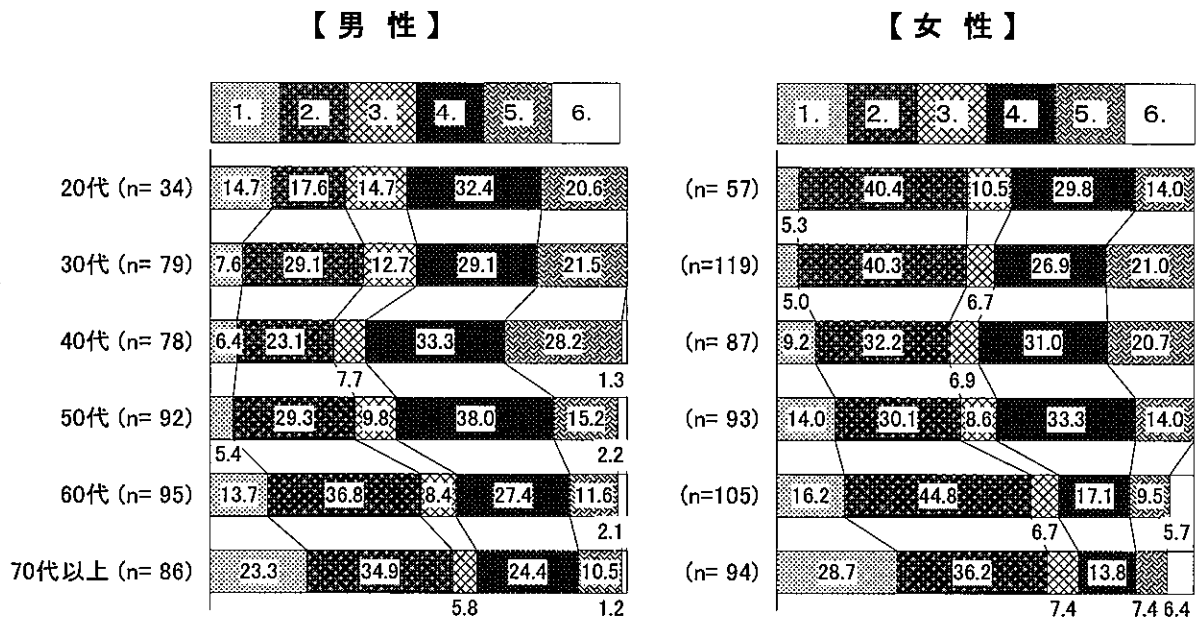


普段、自分が希望する時間の使い方ができているかどうかについてうかがった設問である。

○ “できていると思う”（「できていると思う」＋「まあできていると思う」）は計 46.5%、“できているとは思わない”（「できているとは思わない」＋「あまりできているとは思わない」）は計 43.0%で、ほぼ同じ割合となっており、内閣府が平成21年に行った『男女のライフスタイルに関する意識調査』の結果（問22）と同様の傾向となっている。

※内閣府実施の調査では、「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」、「どちらともいえない」、「どちらかと言えばそう思わない」、「そう思わない」との選択肢設定となっているため、単純な比較はできない。上記比較結果はあくまで「参考」としていただきたい。

◆性別・年代×問13



【選択肢ラベル一覧】

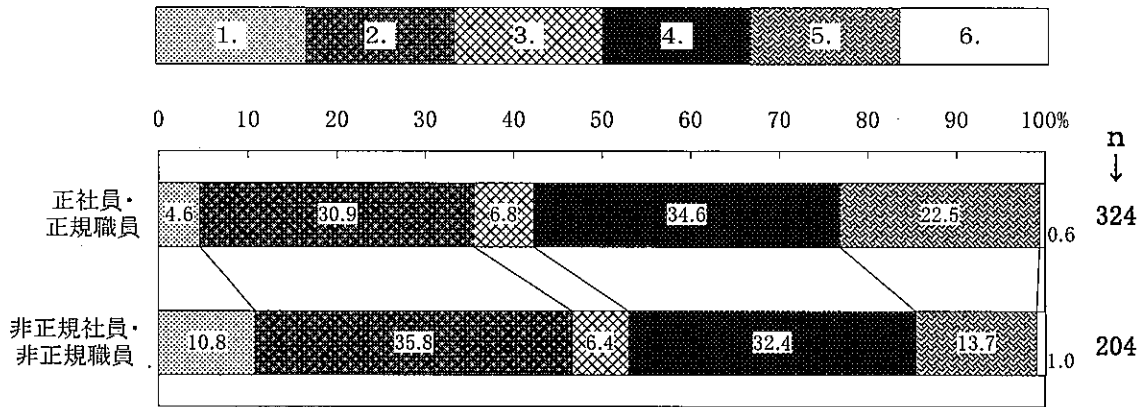
- 1. できていると思う
- 2. まあできていると思う
- 3. どちらともいえない・分からない
- 4. あまりできているとは思わない
- 5. できているとは思わない
- 6. 無回答

○男性では“できているとは思わない”（「できているとは思わない」＋「あまりできているとは思わない」）が、女性よりも各年代において高くなっている。

○男女ともに、60代以上の高年齢層で“できていると思う”（「できていると思う」＋「まあできていると思う」）の割合が高く、5割以上となっている。

また、男女とも“できているとは思わない”が最も多いのは40代で、男性で6割強（計61.5%）、女性でも5割を超えている（計51.7%）。

◆問8(就業形態)×問13



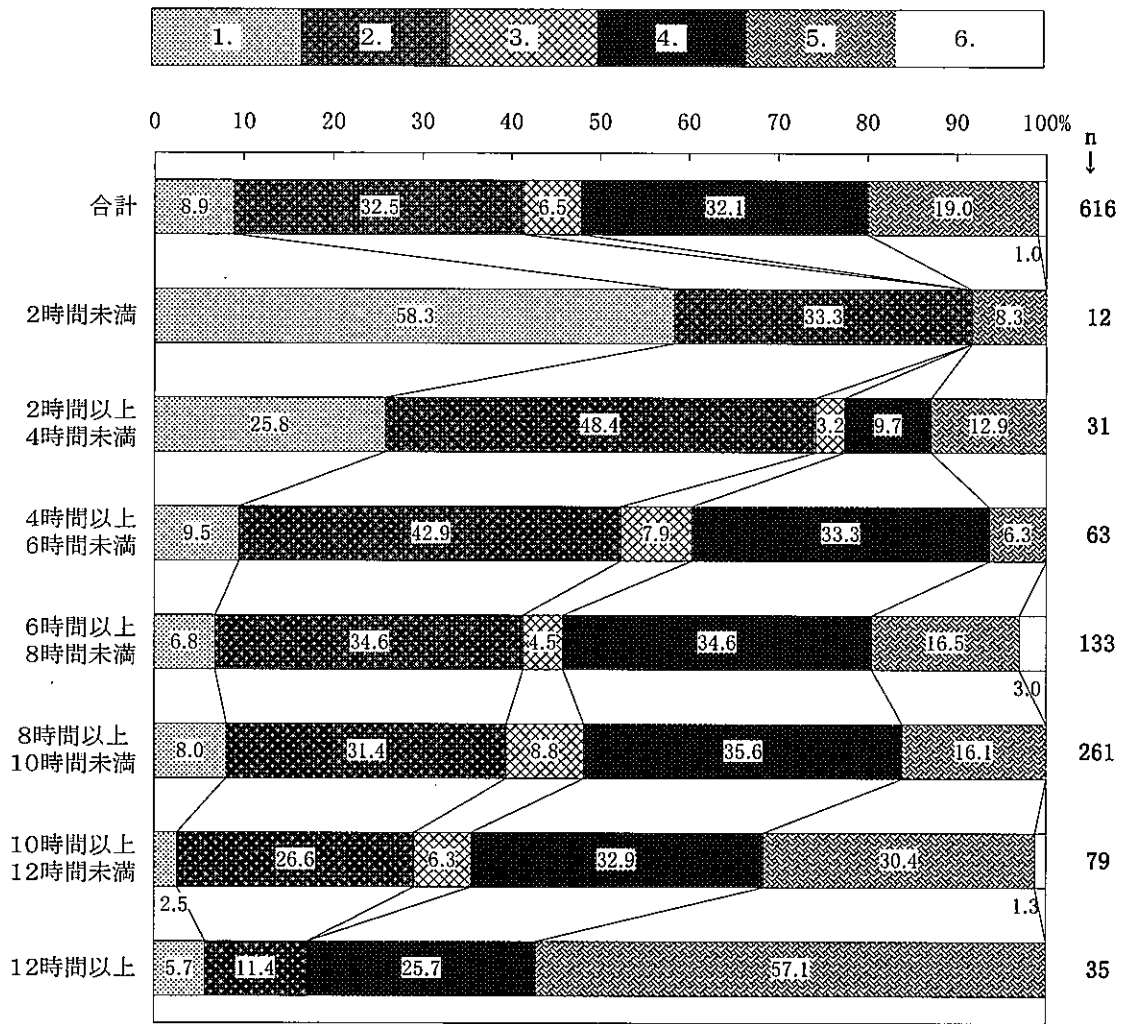
【選択肢ラベル一覧】

- 1. できていると思う
- 2. まあできていると思う
- 3. どちらともいえない・分からない
- 4. あまりできているとは思わない
- 5. できているとは思わない
- 6. 無回答

- 『非正規社員・非正規職員』では、『正社員・正規職員』に比べて“できていると思う”の割合が高くなっている。
- 『正社員・正規職員』では“できているとは思わない”が6割近く（計57.1%）にも達している。

※『非正規社員・非正規職員』⇒契約社員・嘱託職員等、派遣社員、パート・アルバイト、内職の割合を合計したものである

◆問9(1日の労働時間)×問13



【選択肢ラベル一覧】

- 1. できていると思う
- 2. まあできていると思う
- 3. どちらともいえない・分からない
- 4. あまりできているとは思わない
- 5. できているとは思わない
- 6. 無回答

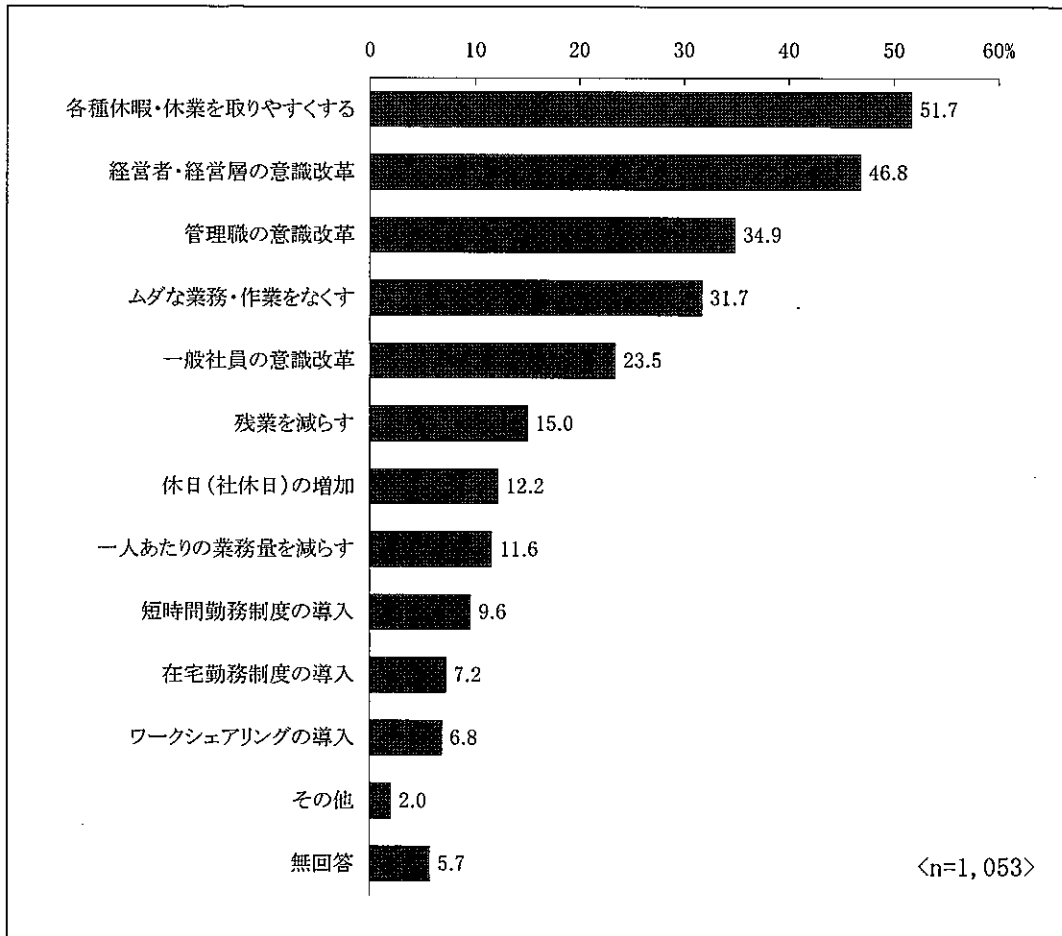
- 労働時間別の標本数にかなりの差があるため留意が必要であるが、総じて労働時間が短くなるほど、“できていると思う”の割合が高くなる傾向にある。
- 『6時間未満』の層では“できていると思う”が5割を超えているのに対し、『10時間以上』の層では“できているとは思わない”が6割を超えている。

● 問14① 「ワーク・ライフ・バランス」実現のために
重要だと思うこと【企業・職場】（複数回答）

問14. あなたはご自身の「ワーク・ライフ・バランス」実現のため、何が重要だと思いますか。

①【企業・職場で必要と思う取組み】（○は3つまで）

※仕事に就いていない方は、一般的な視点でお答え下さい



「ワーク・ライフ・バランス」実現のために、『企業・職場』で必要と思う取組みについてうかがった設問である。

- 「各種休暇・休業を取りやすくする」が5割強（51.7%）で最も高く、次いで「経営者・経営層の意識改革」が4割超（46.8%）となっている。
- 全般的に、業務の効率化等に関する項目よりも、抜本的な解決が望める『休暇・休業を取りやすくする』、『上層部の意識改革』が最上位を占める結果となった。

※この設問は本来、「3つまで選択していただく」設問であるが、3つ以上選択した回答が多かったため、『複数回答設問』として集計・分析を行っている。

◆性別×問14①

上段:実数 下段:横%

		問14①					
		合計	各種休暇・休業を取りやすくする	経営者・経営層の意識改革	管理職の意識改革	ムダな業務・作業をなくす	一般社員の意識改革
F 1 ・ 性 別	合計	1053	544	493	367	334	247
		100.0	51.7	46.8	34.9	31.7	23.5
	男性	464	214	251	160	144	127
		100.0	46.1	54.1	34.5	31.0	27.4
	女性	555	312	234	193	181	114
		100.0	56.2	42.2	34.8	32.6	20.5

(複数回答のため、合計は100%にならない)

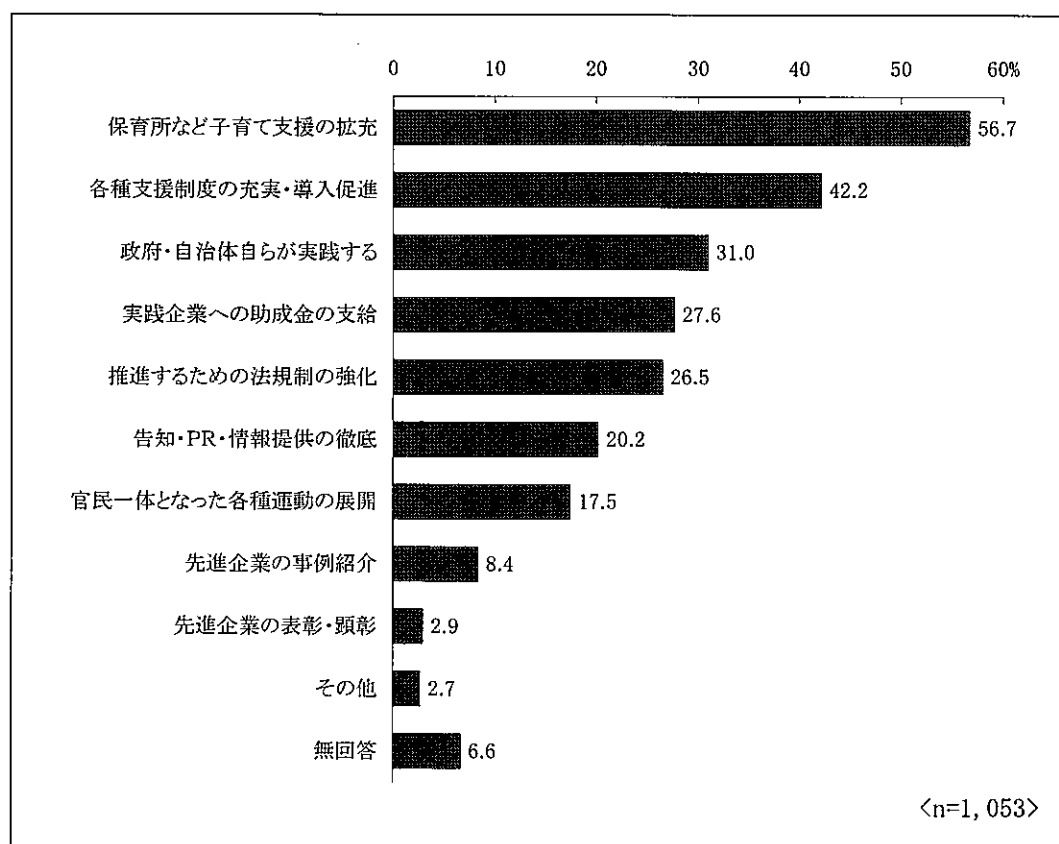
※上は回答数上位5項目のみを抜粋した表である

○男性では「経営者・経営層の意識改革」(54.1%)、女性では「各種休暇・休業を取りやすくする」(56.2%)が最も高くなっており、男女の回答の割合に差が見られる。

● 問14②「ワーク・ライフ・バランス」実現のために 重要だと思うこと【政府・自治体】（複数回答）

問14. あなたはご自身の「ワーク・ライフ・バランス」実現のため、何が重要だと思いますか。

②【政府・自治体で必要と思う取組み】（〇は3つまで）



「ワーク・ライフ・バランス」実現のために、『政府・自治体』で必要と思う取組みについてうかがった設問である。

- 「保育所など子育て支援の拡充」が5割超（56.7%）で最も高く、次いで「各種支援制度の充実・導入促進」が4割強（42.2%）となっている。
- 生活に直接関わる項目が上位を占める結果となった。

※この設問は本来、「3つまで選択していただく」設問であるが、3つ以上選択した回答が多かったため、『複数回答設問』として集計・分析を行なっている。

◆性別×問14②

上段:実数 下段:横%

		問14②					
		合計	保育所など子育て支援の拡充	各種支援制度の充実・導入促進	政府・自治体自らが実践する	実践企業への助成金の支給	推進するための法規制の強化
F1 性別	合計	1053	597	444	326	291	279
		100.0	56.7	42.2	31.0	27.6	26.5
	男性	464	212	192	158	146	144
		100.0	45.7	41.4	34.1	31.5	31.0
	女性	555	367	241	157	142	131
		100.0	66.1	43.4	28.3	25.6	23.6

(複数回答のため、合計は100%にならない)

※上は回答数上位5項目のみを抜粋した表である

- 男女とも「保育所など子育て支援の拡充」の割合が最上位となっているが、女性の割合が男性に比べて20ポイント以上高くなっている。
- 男性では「政府・自治体自らが実践する」、「実践企業への助成金の支給」、「推進するための法規制の強化」といった“全体的・総括的な項目”の割合が女性に比べて高くなっている。

● 問15 「ワーク・ライフ・バランス」実現のために 実施していること等（自由記述）

問15. 「ワーク・ライフ・バランス」(仕事と生活の調和)の実現のために、あなたが普段実施していること、心がけていることがあれば、ご記入ください。

「ワーク・ライフ・バランス」の実現のために、実施していること・心がけていることをたずねたところ、328名からの記述回答があった。

以下、本設問の趣旨に関連ある記載内容のうち、主なものを紹介する。

性別／年代	「ワーク・ライフ・バランス」実現のために実施していること等
男性／20代	仕事など時間を決め、それを過ぎたら余暇に使うと決めて作業に取り組んでいる。ただ今は学生なのでできるが、社会人になってそれが可能かは不安である。また時と場合によって家事や仕事、余暇に順位付けをして行動している。常にバランス良くは逆にうまくいかないと思った。
女性／20代	毎日1時間でも自分の時間を作り、家事と介護をストレスや負担が軽減するよう心がけている。全ての家事が出来なくてもいいように時間帯ごとの計画は立てない。
男性／30代	1ヵ月ごとに妻との予定合わせをし、仕事・家事を分担するようにしている。
女性／30代	仕事も大切だと思うが、それよりも今子供をしっかり育ててくなくてはいけないという世の中の“目”があるので、疲れていてもなるべく子供と接することを大切にやりたい。仕事をがまんして、家事育児も仕事も両立できるぐらいにバランスをとっている。
女性／30代	自分の親と同居なので、平日はあまり家事をしていない。休日は積極的に家事をやり、親が家事をする姿を子供に見せ、手伝ってもらおうようにしている。
女性／30代	子供が小さいので、仕事に重点はおかないようにしている。家事と子育てのどちらに重点をおくかについては、諸先輩の話を聞くと、家事を優先すると、将来後悔している人が多いので、子供と遊ぶ方を優先している。結果家の中はゴミたけのようでメチャメチャであり、夫から毎日文句を言われるが、大きくなるまでは聞かないでいる。
女性／30代	基本的に子供優先。そのため、子供の為に仕事を休む場合(病気通院行事など)、経過、結果をきちんと上司に報告している。その分仕事は期日を守っている。又は、前倒しにおこない余裕をもって取り組むようにしている。残業についても仕事によっては行い、職場において信頼を得られるようにし、家庭に対する理解を得られるよう心がけている。
男性／40代	仕事が忙しい時期などは家族へ理解を求め協力してもらい、それ以外は積極的に家事や子供との関わりを持つようにして、出来るだけメリハリのある生活に努めるようにしている。
男性／40代	家事、仕事の双方とも、実行に移すまえに、次の展開を考えてから行動に移し、ムダな作業は行なわないようにしている。

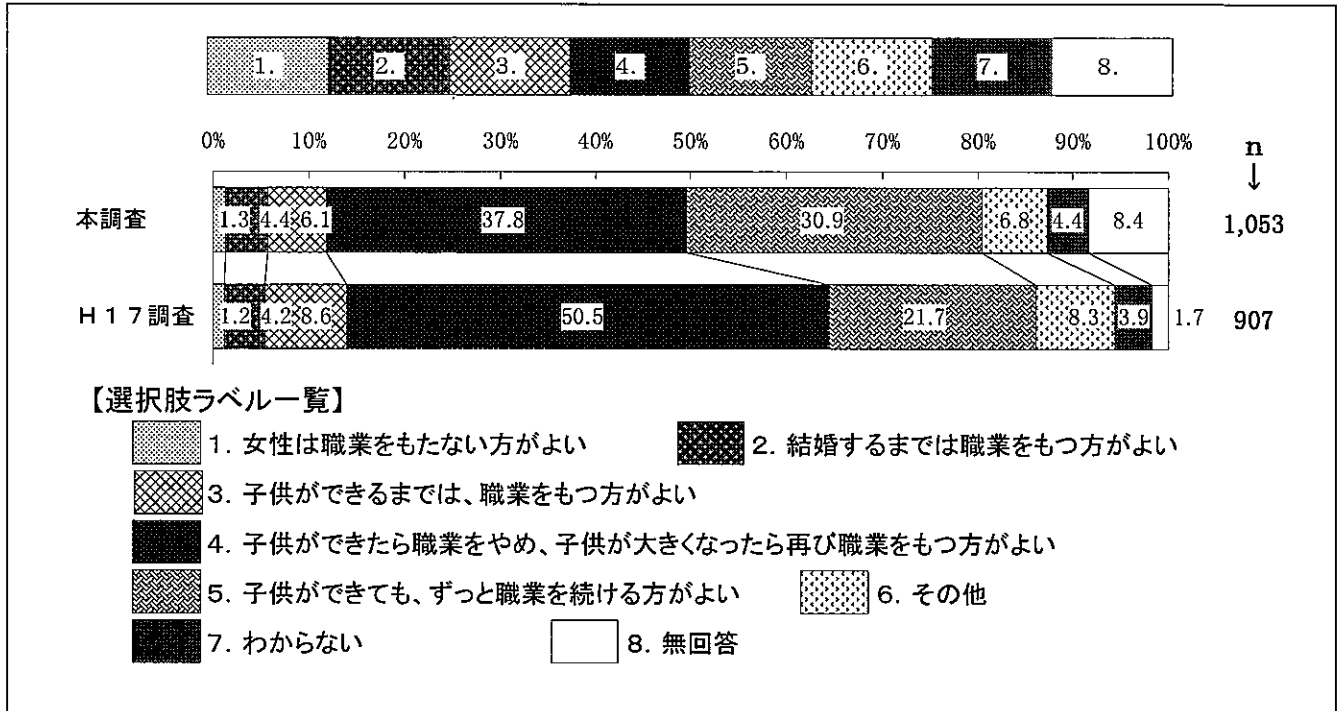
IV 調査結果の分析・「就業と『ワーク・ライフ・バランス』について」

男性／ 40代	社会に出て働きながらの家事・育児は同じ経験を持つ人にしか理解されないので、仕事は代わりがいるが家庭での代わりはいないと割り切るようにしている。
女性／ 40代	仕事と生活のどちらも完璧にこなそうと頑張りすぎない。どちらも効率的に行うために、自分を追いつめず、常に精神を安定した状態に持てるようポジティブ思考で、できることを少しずつ片付けていくよう心がけること。
女性／ 40代	仕事と生活共に年間スケジュール等を考慮し、各々ポイントを置くべきことに焦点を合せ、健康管理している。
男性／ 50代	家族全員で家事をすれば効率よく家事ができ、その事によって1日の時間が多く取れ、家族のコミュニケーションの場も長くなるので、家族全員で家事をするようにしている。
男性／ 50代	仕事、家事、地域生活、個人の自己啓発等、自分のペースでバランスを取り行っている。
女性／ 50代	家事と仕事のスキ間をねらって、5分でも”やりたいこと”をするようにしている。
女性／ 50代	家族とのコミュニケーションをとり、皆で家事や育児に共通に理解し、一人一人が自立し、助け合えるように話を常にする。
男性／ 60代	仕事を優先し、残りは資質向上のための研修会に参加したり、講演会に行ったりしている。更に残った分は、町内会活動（ステーション回収、草刈など）や、防犯パトロールなどのボランティア活動を積極的に行うようにしている。
男性／ 60代	家庭生活と仕事のバランスの調和はたやすいことではないが、時間をどこに重点的に使うかということが大切になると思う。心身のバランスを考えてお互いの負担を軽減し、助け合い、学び合っていくことが長続きするポイントになると思う。
女性／ 60代	夫の理解を得るために常にミーティングを行い、共通行動を取るよう心がけている。会話やコミュニケーションが大事である。
女性／ 60代	休日のつかい方に気をつけている。普段からしたいことをメモしておき休日に無理なくできる様にしておく。
女性／ 70代以上	家事と夫の介護の中で自分の健康状態も考えながら、優先順位を考え、無理をせず出来る限りの努力をしている。

●問16 女性が職業をもつことについて（単数回答）

問16. 一般的に、女性が職業をもつことについて、あなたはどのように思いますか。

あなたのお考えに最も近いものをお選びください。（○は1つ）

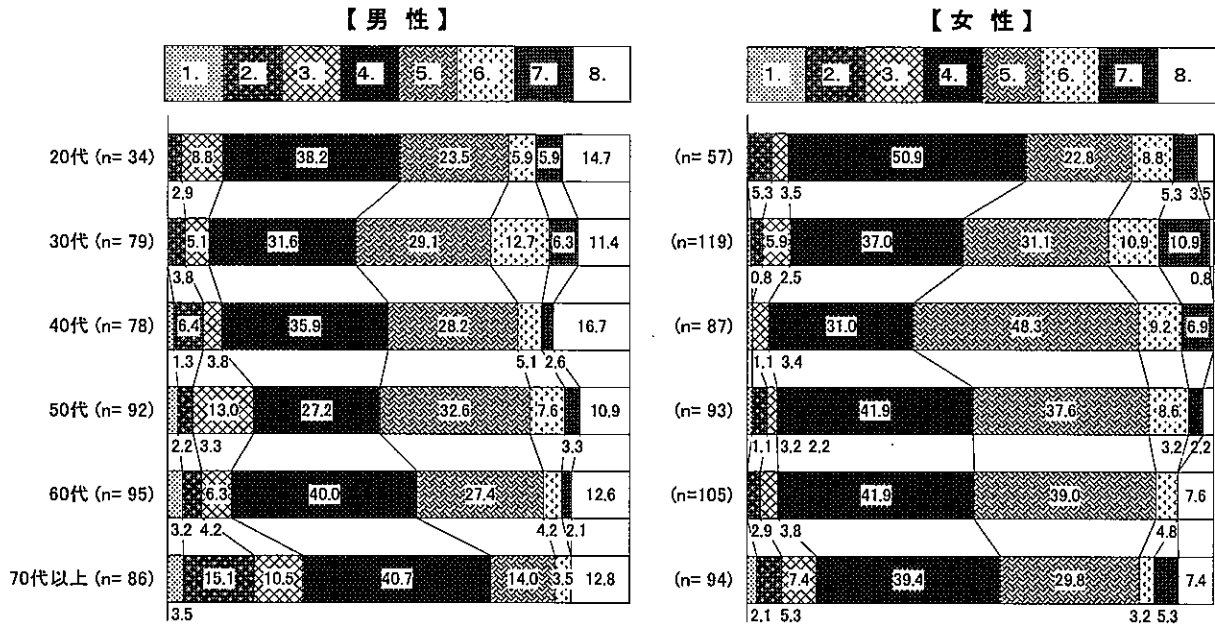


女性が職業をもつことについて、どのように思うかをうかがった設問である。

○「子供ができたら職業をやめ、子供が大きくなったら再び職業をもつ方がよい」（中途再就職型）が4割弱（37.8%）で最も多く、次いで「子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい」（就業継続型）が約3割（30.9%）となっている。

○本市が平成17年度に実施した『家事時間等に関する市民意識及び実態調査』の結果（問2）と比較すると、本調査では“中途再就職型”が10ポイント以上低く、“就業継続型”が10ポイント以上高くなっている。本調査においては、H17調査にあった“中途再就職型”と“就業継続型”の差がかなり縮まり、“就業継続型”の増加も認められることから、現在の経済情勢もあり、女性が働くこと・働き続けることについての意識や理解が、より高まっていることがうかがえる結果となった。

◆性別・年代×問16



【選択肢ラベル一覧】

- 1. 女性は職業をもたない方がよい
- 2. 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 3. 子供がができるまでは、職業をもつ方がよい
- 4. 子供ができたら職業をやめ、子供が大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 5. 子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 6. その他
- 7. わからない
- 8. 無回答

○女性の40～60代では、「子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい」（就業継続型）が、他の性別・年代と比べて高くなっており、中でも40代では、全性別・年代中で最も高い5割弱（48.3%）となっている。

○一方女性の20代では、「子供ができたら職業をやめ、子供が大きくなったら再び職業をもつ方がよい」（中途再就職型）が約5割（50.9%）となっている。

○男性の70代以上では、“就業継続型”の支持割合が10%台（14.0%）で、全性別・年代中最も低くなっている。

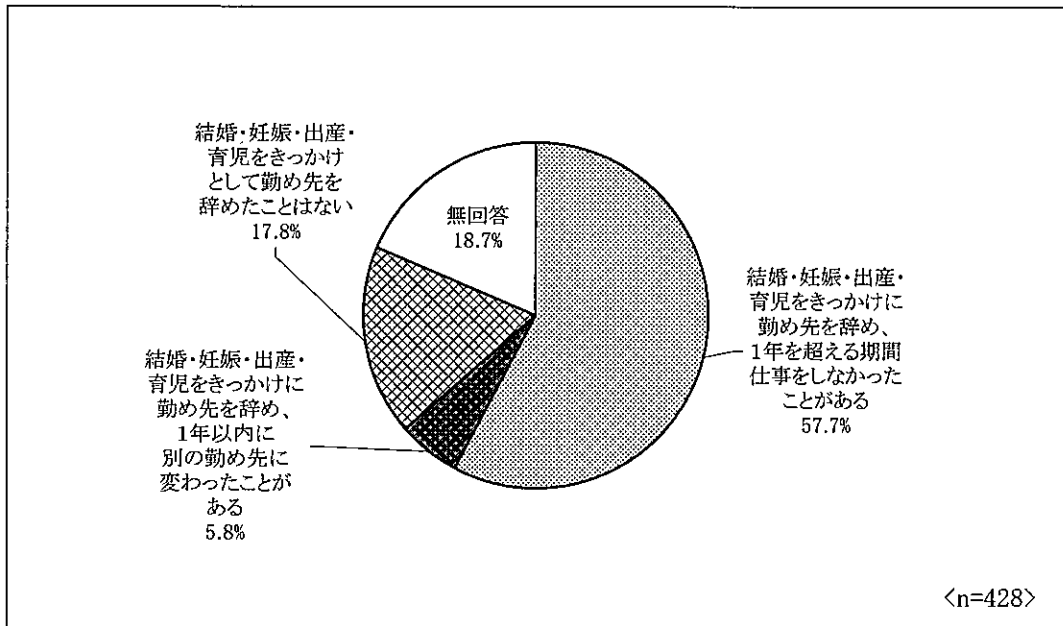
● 問17 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけとした 退職経験の有無（単数回答）

〈当設問は既婚の女性の方が対象です〉

問17. あなたは、結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに勤め先を辞めたことがありますか（休職・出向は除く）。

※勤め先が変わった経験の中には、起業・独立したり、自営の方が事業を変更したようなケースも含まれます

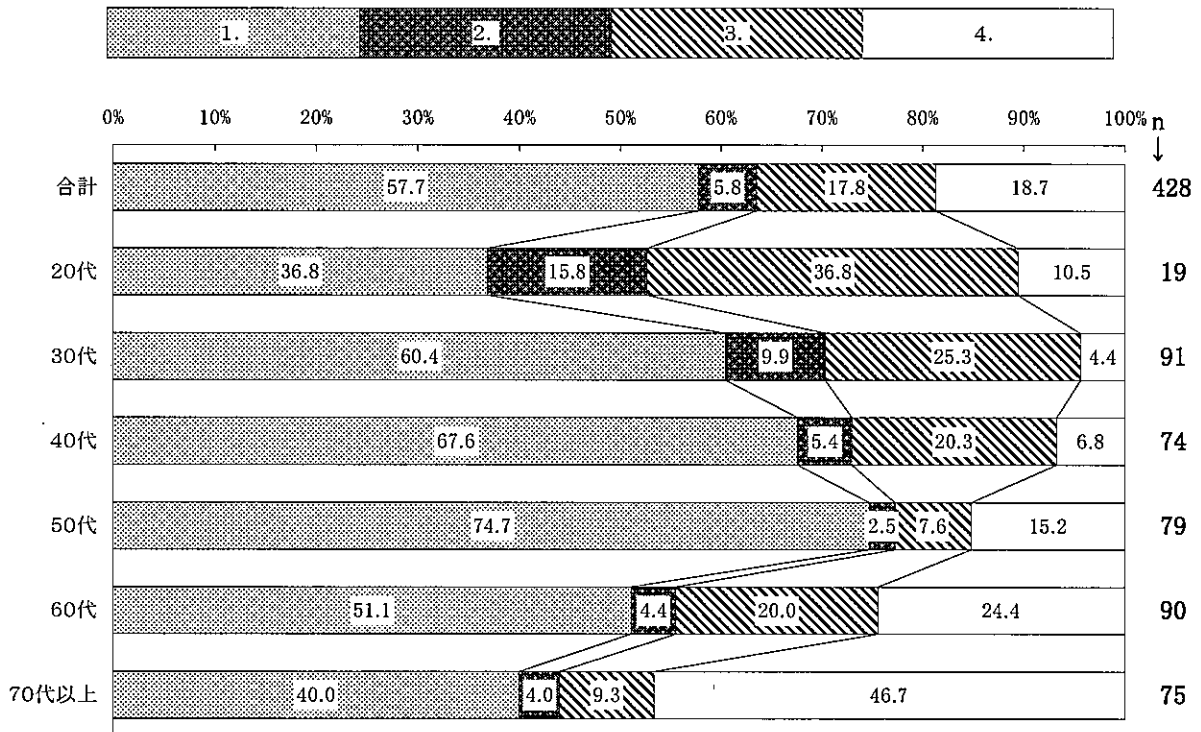
（○は1つ）







既婚女性に対し、結婚・妊娠・出産・育児をきっかけとする退職経験の有無についてうかがった設問である。

○結婚等をきっかけとする“退職経験あり”（「1年を超える期間仕事をしなかった」＋「1年以内に別の勤め先に変わった」）の方が6割を超える（計63.5%）一方、“退職経験なし”とする方も18%程度存在する。

◆年代×問17(既婚女性のみ)



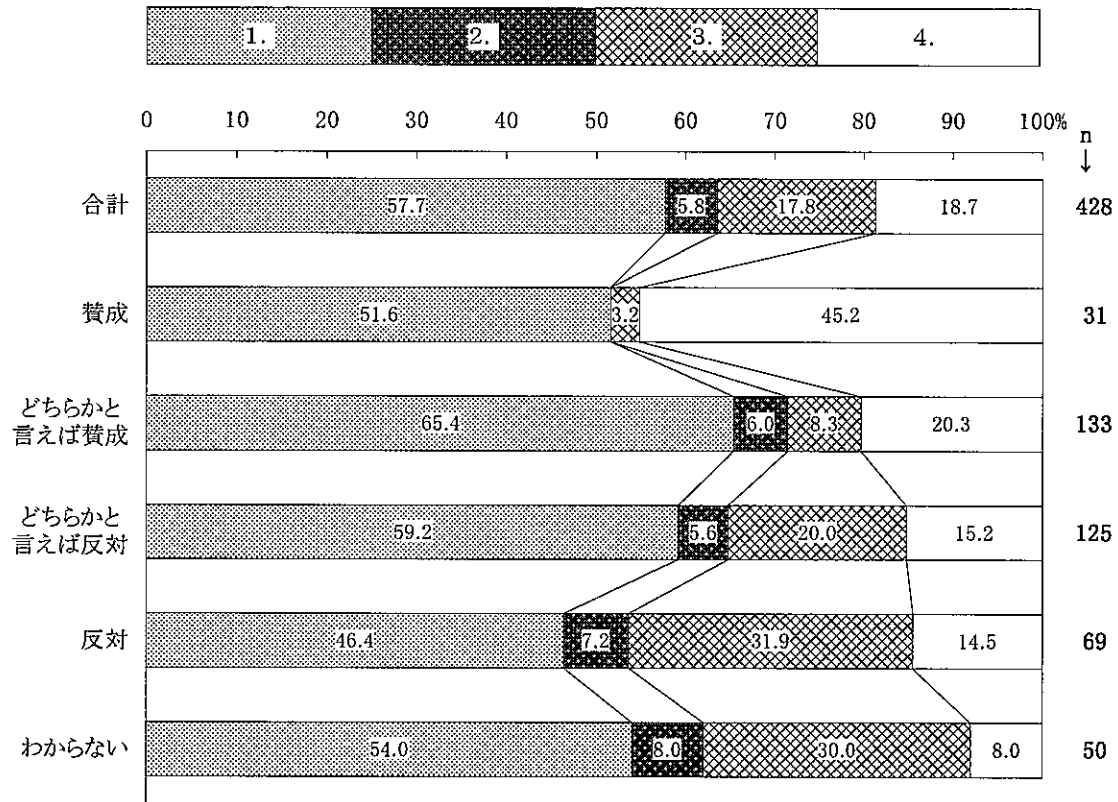
【選択肢ラベル一覧】

-  1. 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに勤め先を辞め、1年を超える期間仕事をしなかったことがある
-  2. 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに勤め先を辞め、1年以内に別の勤め先に変ったことがある
-  3. 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけとして勤め先を辞めたことはない
-  4. 無回答





○30～50代では、“1年を超える期間仕事をしなかった”が6割を超え高く、中でも50代では回答数の3/4ほど(74.7%)にも上っている。

○30代、40代、60代では、“退職経験なし”の割合が2割台と高くなっている。

◆問1×問17(既婚女性のみ)

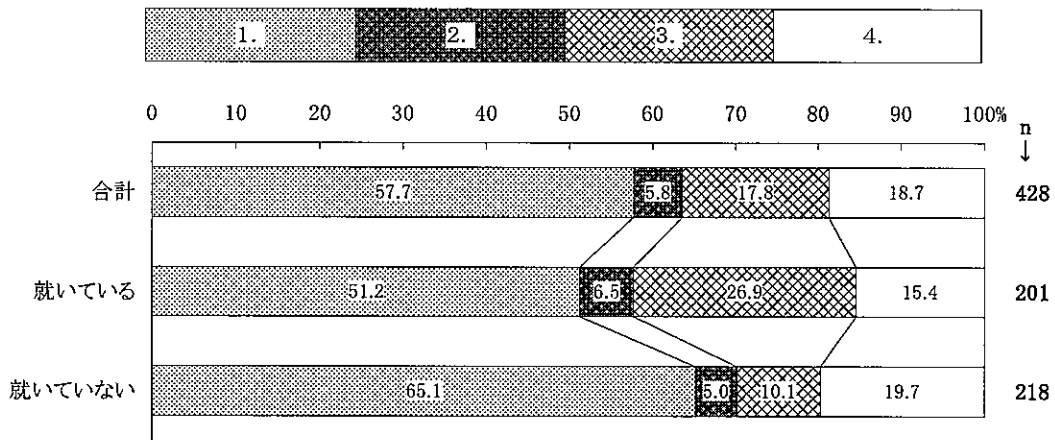


【選択肢ラベル一覧】

-  1. 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに勤め先を辞め、1年を超える期間仕事をしなかったことがある
-  2. 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに勤め先を辞め、1年以内に別の勤め先に変ったことがある
-  3. 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけとして勤め先を辞めたことはない
-  4. 無回答

○『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考えに“反対”（「反対」＋「どちらかと言えば反対」）の層では、“賛成”（「賛成」＋「どちらかと言えば賛成」）の層に比べて「退職経験なし」の割合が高くなっている。

◆問7×問17(既婚女性のみ)

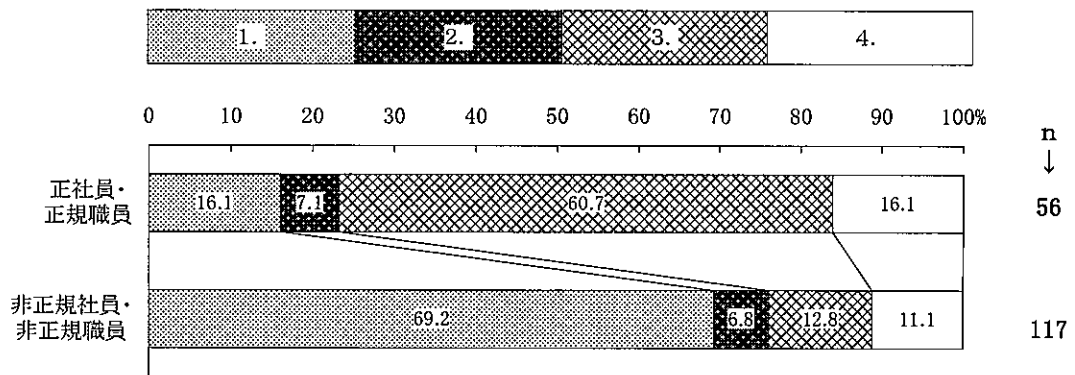


【選択肢ラベル一覧】

- 1. 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに勤め先を辞め、1年を超える期間仕事をしなかったことがある
- 2. 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに勤め先を辞め、1年以内に別の勤め先へ変わったことがある
- 3. 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけとして勤め先を辞めたことはない
- 4. 無回答

- 現状で職業に就いている方では、“退職経験なし”が2割を大きく超えている（26.9%）が、“退職経験あり”も6割近く（計57.7%）となっている。
- 一方、職業に就いていない方では“退職経験あり”が約7割（計70.1%）にも上っている。

◆問8×問17(既婚女性のみ)

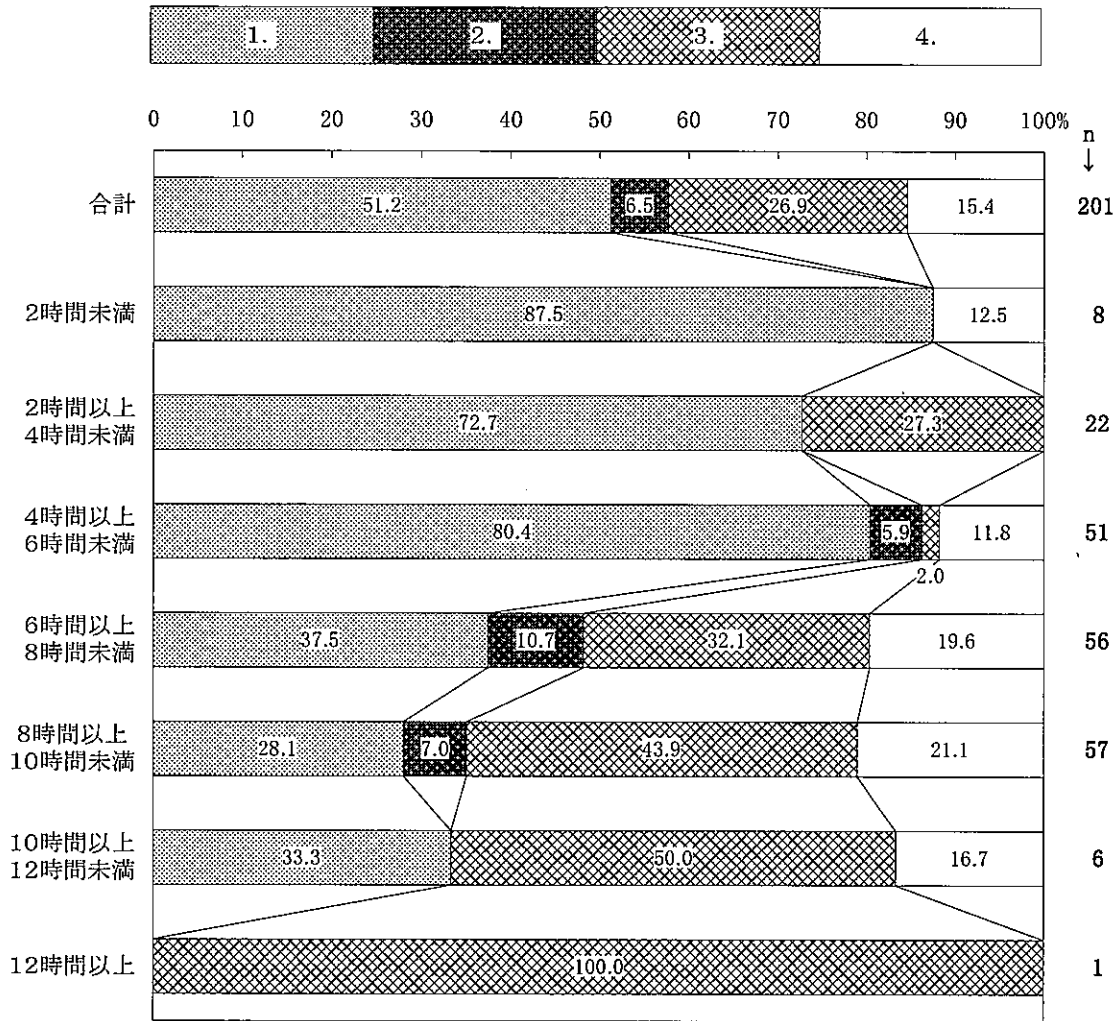


【選択肢ラベル一覧】

- 1. 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに勤め先を辞め、1年を超える期間仕事をしなかったことがある
- 2. 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに勤め先を辞め、1年以内に別の勤め先へ変わったことがある
- 3. 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけとして勤め先を辞めたことはない
- 4. 無回答

- 正規・非正規で明確な差が出ており、『正社員・正規職員』では“退職経験なし”が約6割（60.7%）であるのに対し、『非正規社員・非正規職員』では“退職経験あり”が7割を大きく超えている（計76.0%）。

◆問9×問17(既婚女性のみ)



【選択肢ラベル一覧】

- 1. 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに勤め先を辞め、1年を超える期間仕事をしなかったことがある
- 2. 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに勤め先を辞め、1年以内に別の勤め先に変ったことがある
- 3. 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけとして勤め先を辞めたことはない
- 4. 無回答

○1日の労働時間が「6時間」を境に傾向に違いが見られ、これより短い『6時間未満』の層では“退職経験あり”が多く、これより長い『6時間以上』の層では“退職経験なし”が多くなっている。

● 問17① 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに 勤め先を辞めた理由（複数回答）

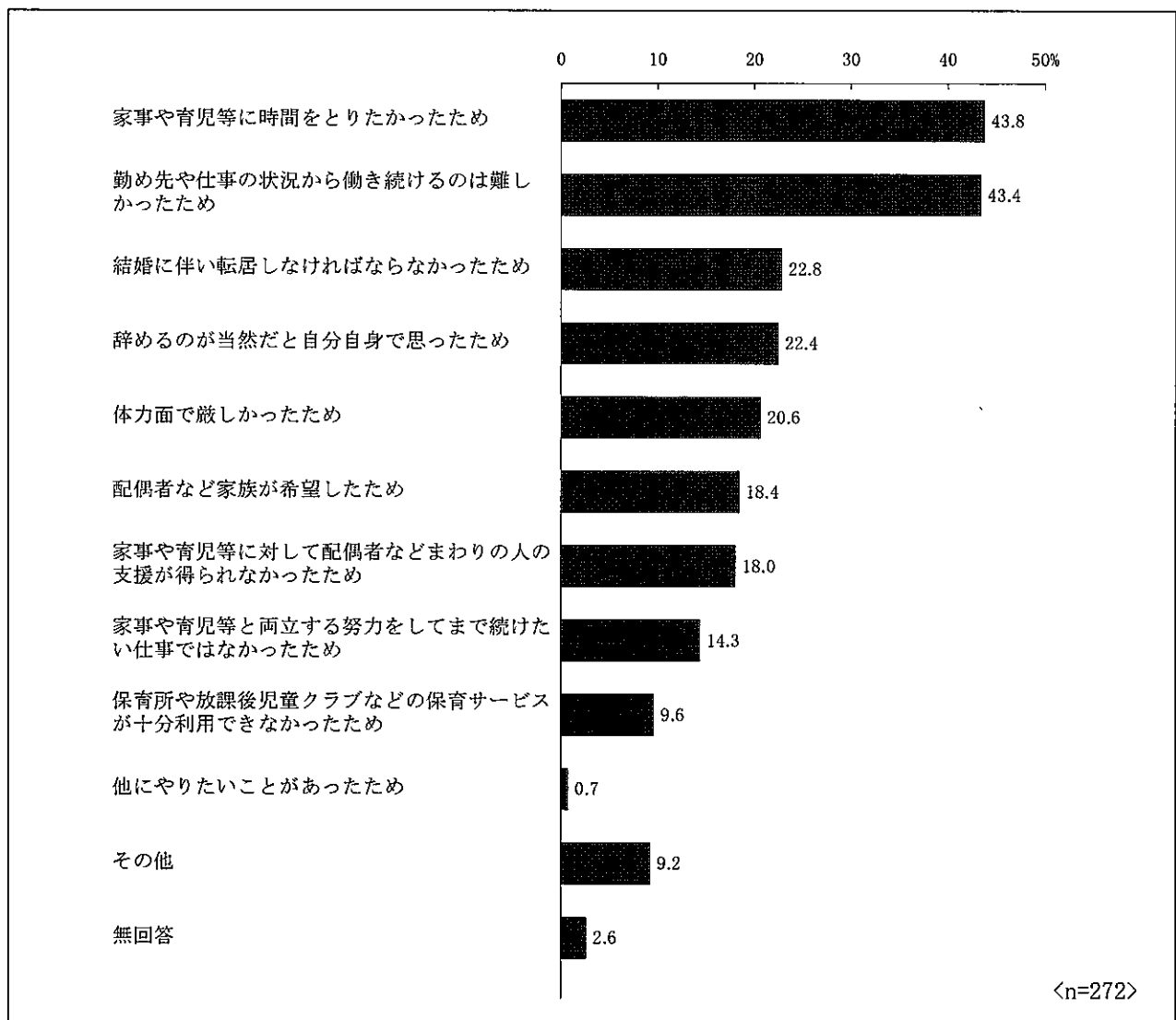
《当設問は既婚の女性の方が対象です》

問17で、「1. 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに勤め先を辞め、1年を超える期間仕事をしなかったことがある」
または「2. 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに勤め先を辞め、1年以内に別の勤め先に変ったことがある」
とお答えの方にだけおたずねします。

問17①. あなたが結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに勤め先を辞めたのはなぜですか。

複数回辞めた経験がある方は、最初に辞めたときのことについてお答えください。

（○はいくつでも）



前問17で「退職経験あり」とした方に、退職の理由についてうかがった設問である。

○「家事や育児等に時間をとりたかったため」（43.8%）と「勤め先や仕事の状況から働き続けるのは難しかったため」（43.4%）がほぼ同じ割合となっており、他の理由に比べて割合が高くなっている。

◆年代×問17①(既婚女性のみ)

上段:実数 下段:横%

		問17①					
		合計	家事や育児等に時間をとれたかったため	勤め先や仕事の状況から働き続けるのは難しかったため	結婚に伴い転居しなければならなかったため	辞めるのが当然だと自分自身で思ったため	体力面で厳しかったため
F 2 ・ 年 代	合計	272	119	118	62	61	56
		100.0	43.8	43.4	22.8	22.4	20.6
	20代	10	7	7	2	1	3
		100.0	70.0	70.0	20.0	10.0	30.0
	30代	64	30	33	17	9	15
		100.0	46.9	51.6	26.6	14.1	23.4
	40代	54	20	30	12	5	13
		100.0	37.0	55.6	22.2	9.3	24.1
50代	61	25	28	13	19	12	
	100.0	41.0	45.9	21.3	31.1	19.7	
60代	50	19	12	10	15	9	
	100.0	38.0	24.0	20.0	30.0	18.0	
70代以上	33	18	8	8	12	4	
	100.0	54.5	24.2	24.2	36.4	12.1	

※上は回答数上位5項目のみを抜粋した表である (複数回答のため、必ずしも合計は100%にならない)

- 40代以下の層では「勤め先や仕事の状況から働き続けるのは難しかったため」が5割を超え高い。一方、50代以上の層では、「辞めるのが当然だと自分自身で思ったため」が、他の年代に比べてやや高くなっている。

◆問1×問17①(既婚女性のみ)

上段:実数 下段:横%

		問17①					
		合計	家事や育児等に時間をとれたかったため	勤め先や仕事の状況から働き続けるのは難しかったため	結婚に伴い転居しなければならなかったため	辞めるのが当然だと自分自身で思ったため	体力面で厳しかったため
問 1	合計	272	119	118	62	61	56
		100.0	43.8	43.4	22.8	22.4	20.6
	賛成	16	8	8	2	8	7
		100.0	50.0	50.0	12.5	50.0	43.8
	どちらかと言えば賛成	95	47	39	26	26	17
		100.0	49.5	41.1	27.4	27.4	17.9
	どちらかと言えば反対	81	33	33	15	14	17
	100.0	40.7	40.7	18.5	17.3	21.0	
反対	37	9	15	10	5	7	
	100.0	24.3	40.5	27.0	13.5	18.9	
わからない	31	16	20	6	4	7	
	100.0	51.6	64.5	19.4	12.9	22.6	

(複数回答のため、合計は100%にならない)

※上は回答数上位5項目のみを抜粋した表である

- 『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』といった考えに“賛成”(「賛成」+「どちらかと言えば賛成」)の層では、“反対”(「反対」+「どちらかと言えば反対」)の層に比べ「家事や育児等に時間をとれたかったため」、「辞めるのが当然だと自分自身で思ったため」の割合が高くなっている。

◆問7×問17①(既婚女性のみ)

上段:実数 下段:横%

		問17①					
		合計	家事や育児等に時間をとらなかったため	勤め先や仕事の状況から働き続けるのは難しかったため	結婚に伴い転居しなければならなかったため	辞めるのが当然だと自分自身で思ったため	体力面で厳しかったため
問7	合計	272	119	118	62	61	56
		100.0	43.8	43.4	22.8	22.4	20.6
	就いている	116	43	52	21	28	26
		100.0	37.1	44.8	18.1	24.1	22.4
	就いていない	153	75	64	41	33	30
		100.0	49.0	41.8	26.8	21.6	19.6

(複数回答のため、合計は100%にならない)

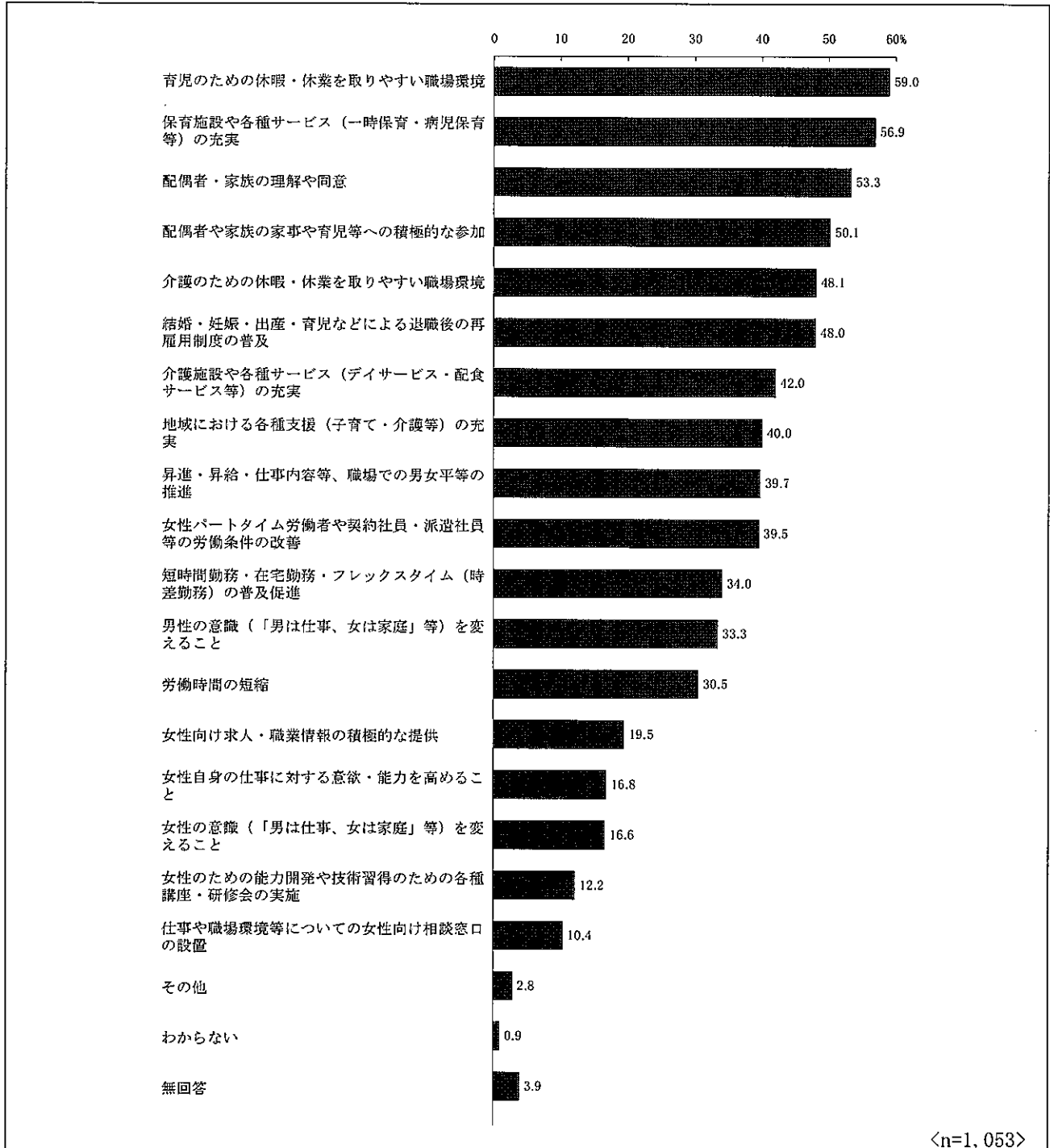
※上は回答数上位5項目のみを抜粋した表である

- 現状で職業に就いていない層では、就いている層に比べ「家事や育児等に時間をとらなかったため」の割合が高く、約5割となっている(49.0%)。
- また就いていない層では、「結婚に伴い転居しなければならなかったため」の割合が、就いている層に比べて高くなっている。

● 問18 仕事と家庭の両立のために必要だと思うこと（複数回答）

問18. 男女がともに、仕事と家庭を両立していくためには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。

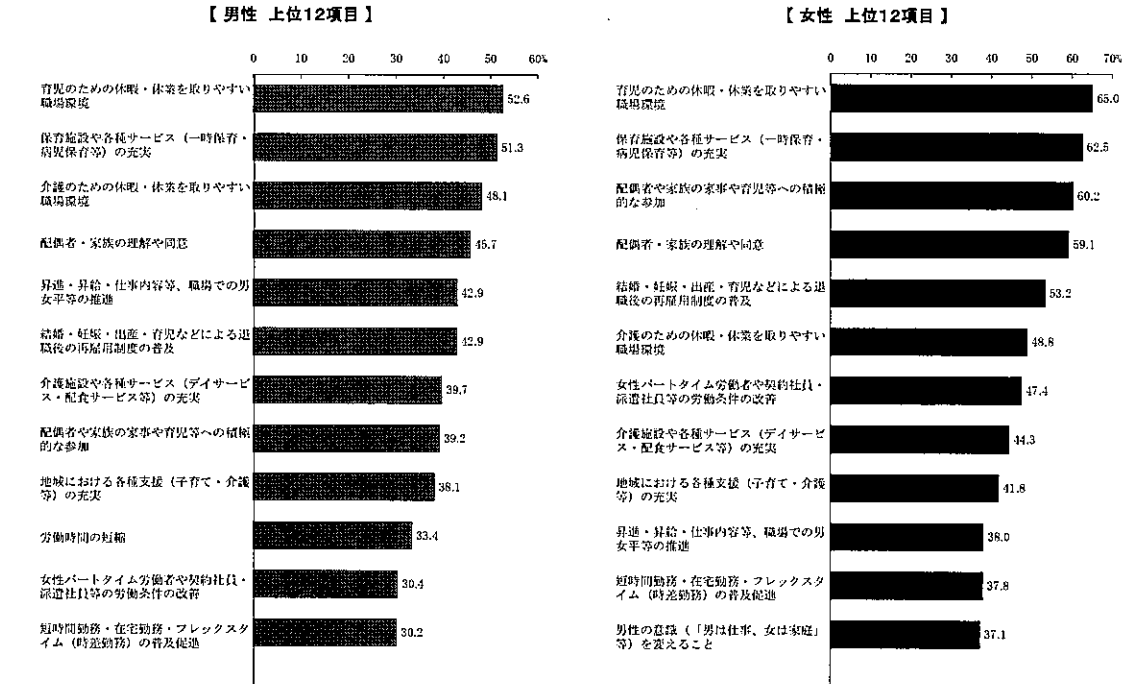
（〇はいくつでも）



仕事と家庭を両立していくために必要だと思うことについてうかがった設問である。

○「育児のための休暇・休業を取りやすい職場環境」が約6割（59.0%）で最多となっているが、特に高い項目はなく、全項目にまんべんなく回答が集まる結果となっている。

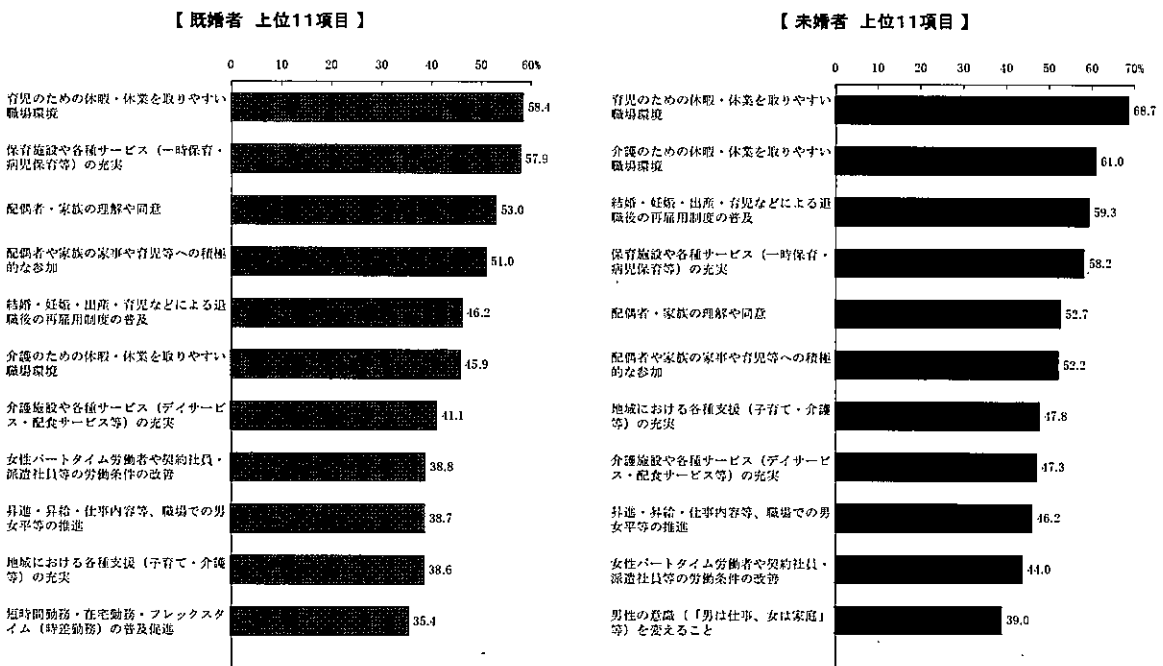
◆性別×問18



○上図は男女別の回答上位12項目をグラフ化したものである。

男女とも上位2項目までは同じだが、男性では「昇進・昇給・仕事内容等、職場での男女平等の推進」、「労働時間の短縮」が高く、女性では「配偶者や家族の家事や育児等への積極的な参加」、「女性パートタイム労働者や契約社員・派遣社員等の労働条件の改善」が高くなっている。

◆結婚の有無×問18

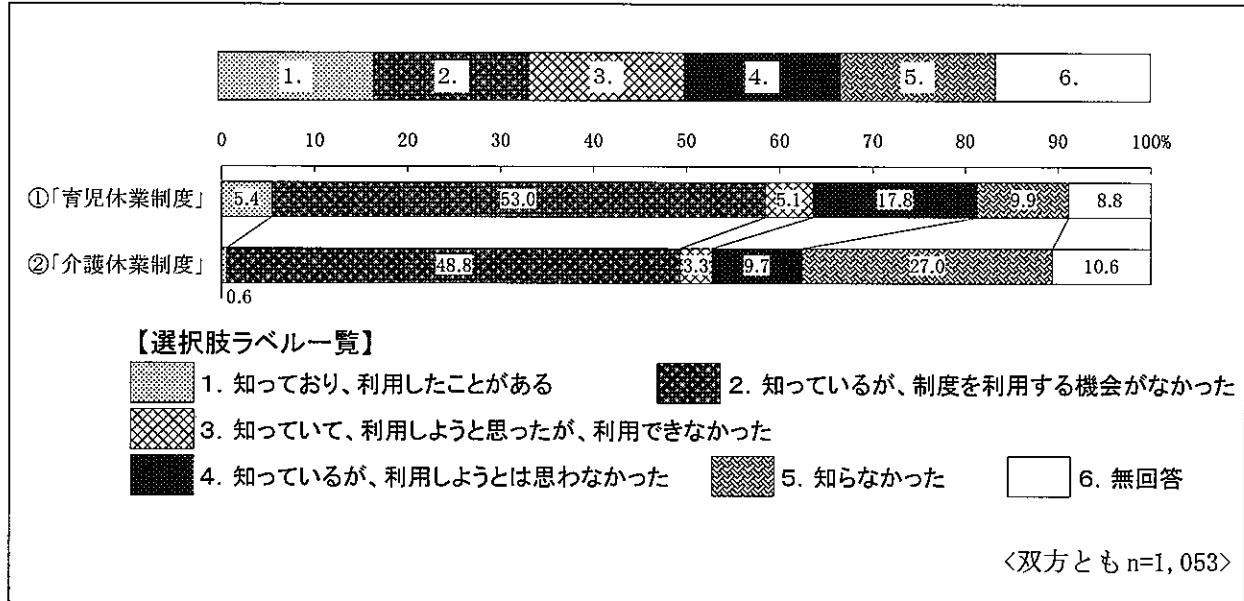


○上図は結婚の有無別の回答上位11項目をグラフ化したものである。

既婚者・未婚者とも最上位の項目は同じだが、それ以下の順位に違いが見られ、既婚者では「配偶者・家族の同意、積極的な家事参加」が高く、未婚者では「介護のための休暇・休業を取りやすい職場環境」、「退職後の再雇用制度の普及」が高くなっている。

● 問19 「育児休業制度」・「介護休業制度」の 認知度及び利用経験について（それぞれ単数回答）

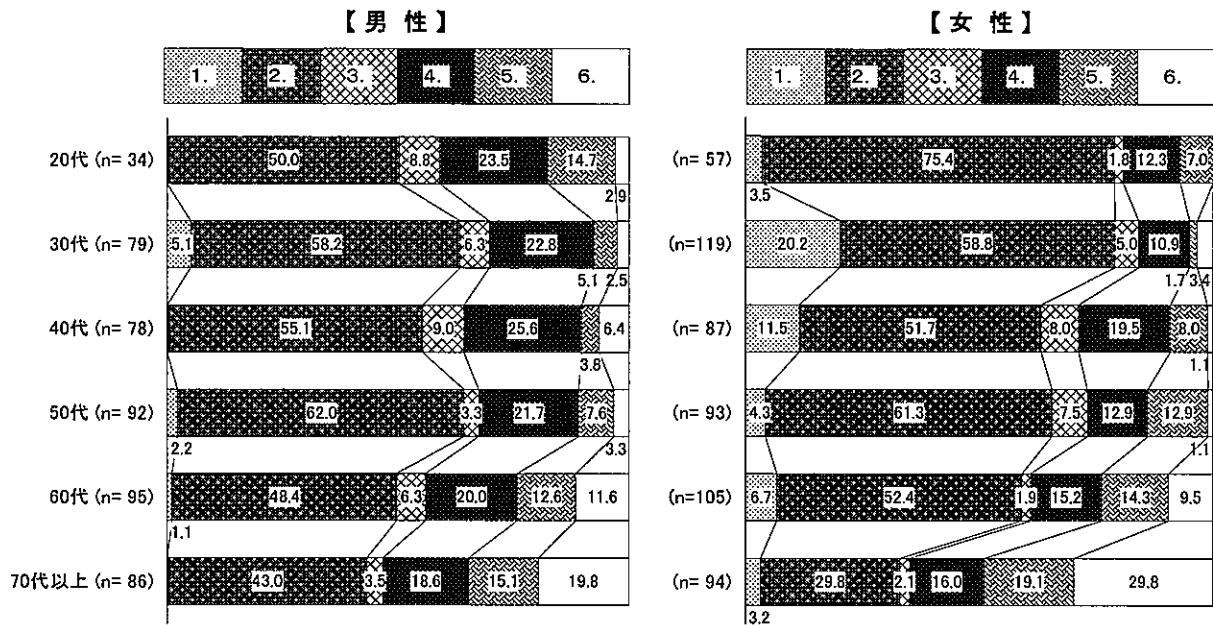
問19. あなたは次の制度を知っていますか。また、利用したことがありますか。（それぞれ〇は1つ）



「育児休業制度」と「介護休業制度」の認知度と利用経験についてうかがった設問である。

- 『育児休業制度』の“認知度”（「知らなかった」と「無回答」以外の合計）は8割強（計 81.3%）。ただし“利用したことがある”方の割合は5%ほど（5.4%）にとどまっている。
- 『介護休業制度』については、“認知度”は6割強（計 62.4%）だが、“利用したことがある”はわずか1%にも満たない（計6人・0.6%）。

◆性別・年代×問19①「育児休業制度」



【選択肢ラベル一覧】

1. 知っており、利用したことがある
 2. 知っているが、制度を利用する機会がなかった
3. 知っていて、利用しようと思ったが、利用できなかった
 4. 知っているが、利用しようとは思わなかった
5. 知らなかった
 6. 無回答

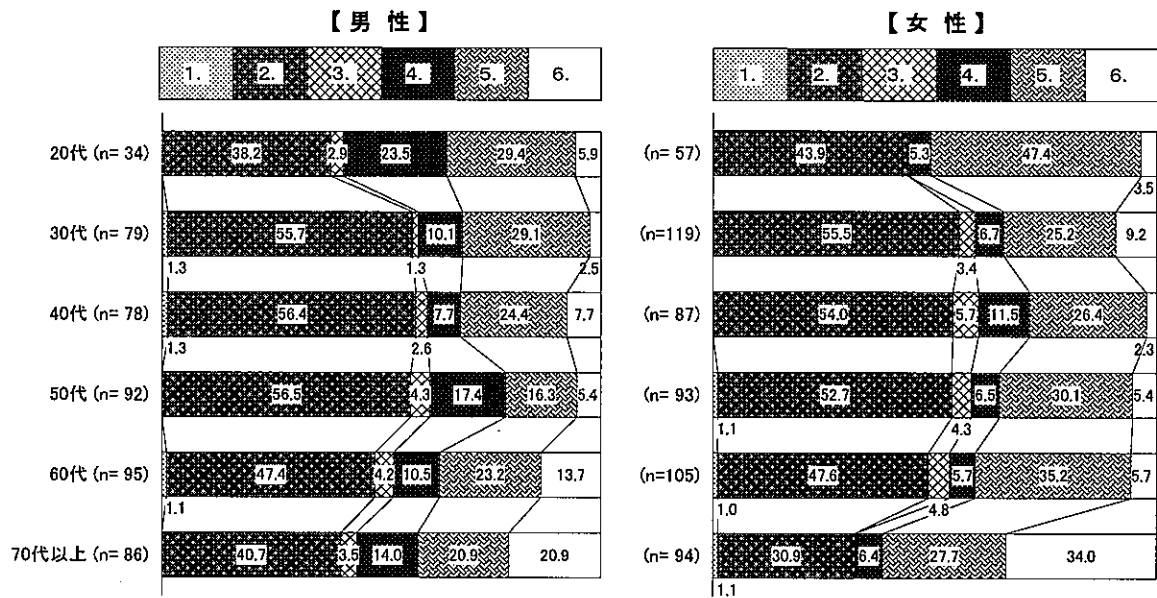
○女性の30代では、「知っており、利用したことがある」が全性別・年代中、唯一2割を超えている(20.2%)。また、40代でも1割強(11.5%)となっており、1割を超えるのは、女性の30代・40代のみとなっている。

○男性の30代では、「知っており、利用したことがある」との回答が5%(5.1%)となっている。

○男女とも、年代が上がるほど「知らなかった」の割合が高くなっている。

○「知っているが、利用しようとは思わなかった」は、全般的に男性の方でやや高くなっている。

◆性別・年代×問19②「介護休業制度」



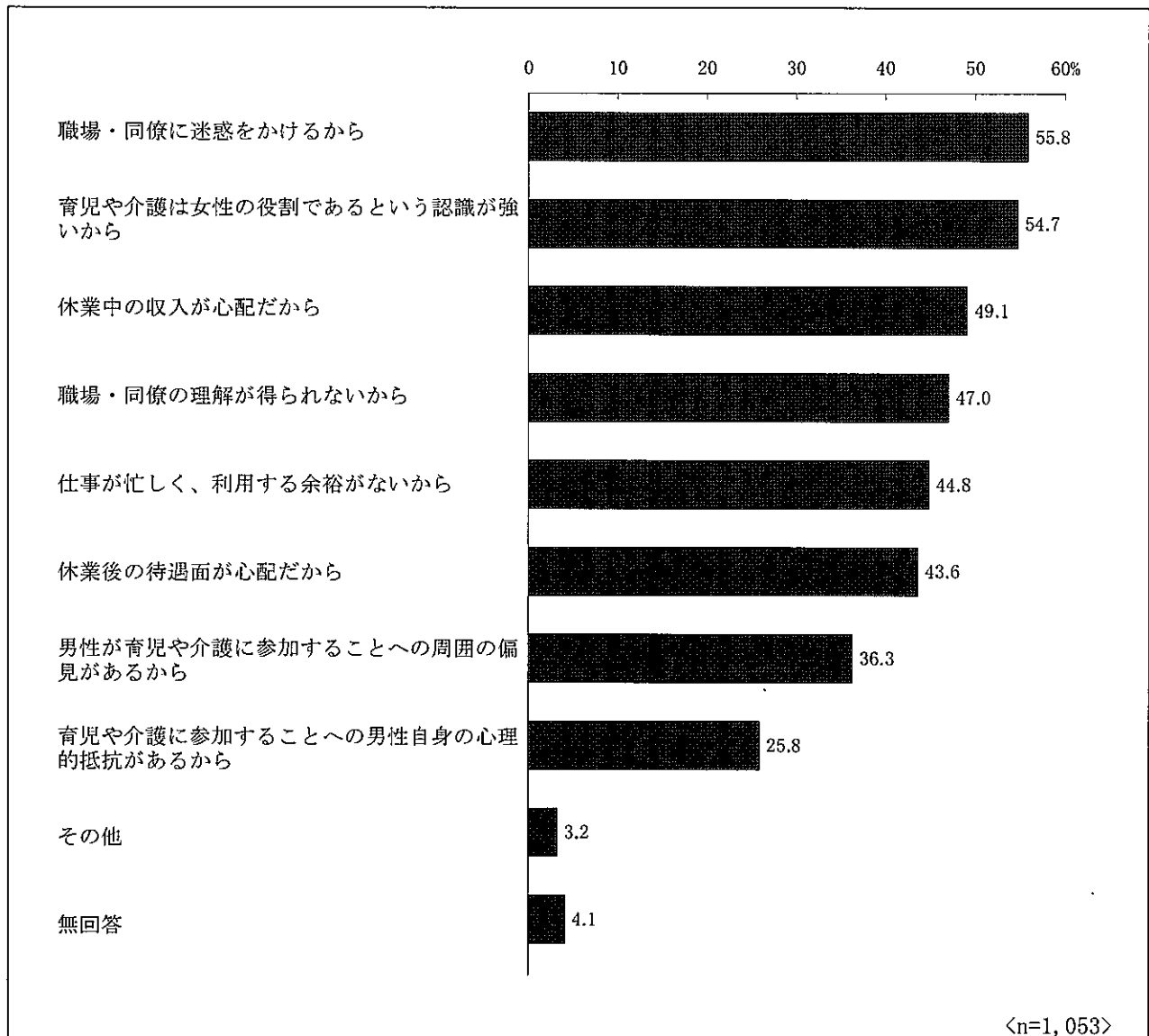
【選択肢ラベル一覧】

- 1. 知っており、利用したことがある
- 2. 知っているが、制度を利用する機会がなかった
- 3. 知っていて、利用しようと思ったが、利用できなかった
- 4. 知っているが、利用しようとは思わなかった
- 5. 知らなかった
- 6. 無回答

- 男女とも、若い年代で「知らなかった」との割合が高くなっており、特に女性の20代では5割近く(47.4%)にも達している。
- 男女とも、30～50代の年代層で「知っているが、制度を利用する機会がなかった」の割合が5割を超え高くなっている
- 「知っているが、利用しようとは思わなかった」は、前問19①『育児休業制度』の結果と同様、一般的に男性の方で割合が高くなっている。

● 問20 「育児休業制度」・「介護休業制度」の 男性利用者が少ない理由（複数回答）

問20. 「育児休業制度」、「介護休業制度」はともに、女性に比べて男性の利用者が少ないのが現状です。
あなたはその理由は何だと思えますか。（〇はいくつでも）



「育児休業制度」・「介護休業制度」の男性利用者が少ない理由についてうかがった設問である。

- 「職場・同僚に迷惑をかけるから」が5割超（55.8%）で最も多く、ごくわずかの差で「育児や介護は女性の役割であるという認識が強いから」（54.7%）が続く。

◆性別×問20

上段:実数 下段:横%

		問20						
		合計	職場・同僚に 迷惑をかける から	育児や介護は 女性の役割で あるという認識 が強いから	休業中の収入 が心配だから	職場・同僚の 理解が得られ ないから	仕事が忙しく、 利用する余裕 がないから	休業後の待遇 面が心配だか ら
F1 性別	合計	1053	588	576	517	495	472	459
		100.0	55.8	54.7	49.1	47.0	44.8	43.6
	男性	464	266	181	203	192	220	179
		100.0	57.3	39.0	43.8	41.4	47.4	38.6
	女性	555	304	377	299	291	239	269
		100.0	54.8	67.9	53.9	52.4	43.1	48.5

(複数回答のため、必ずしも合計は100%にならない)

※上は回答数上位6項目のみを抜粋した表である

- 女性において「育児や介護は女性の役割であるという認識が強いから」が群を抜いて高く、6割を大きく超えている(67.9%)。また同じ女性では、「休業中の収入が心配だから」、「職場・同僚の理解が得られないから」、「休業後の待遇面が心配だから」が男性に比べて10ポイント以上高くなっている。
- 多くの項目において、女性の方の回答割合が高くなっているが、「職場・同僚に迷惑をかけるから」、「仕事が忙しく、利用する余裕がないから」については、若干ではあるが男性の方で高くなっている。

◆年代×問20

上段:実数 下段:横%

		問20						
		合計	職場・同僚に 迷惑をかける から	育児や介護は 女性の役割で あるという認識 が強いから	休業中の収入 が心配だから	職場・同僚の 理解が得られ ないから	仕事が忙しく、 利用する余裕 がないから	休業後の待遇 面が心配だか ら
F2 年代	合計	1053	588	576	517	495	472	459
		100.0	55.8	54.7	49.1	47.0	44.8	43.6
	20代	91	58	56	59	58	41	49
		100.0	63.7	61.5	64.8	63.7	45.1	53.8
	30代	198	109	108	114	117	96	102
		100.0	55.1	54.5	57.6	59.1	48.5	51.5
	40代	165	77	92	87	87	81	77
		100.0	46.7	55.8	52.7	52.7	49.1	46.7
	50代	185	109	104	91	84	95	72
		100.0	58.9	56.2	49.2	45.4	51.4	38.9
	60代	200	119	103	87	78	85	82
		100.0	59.5	51.5	43.5	39.0	42.5	41.0
	70代以上	181	99	95	65	59	61	66
		100.0	54.7	52.5	35.9	32.6	33.7	36.5

(複数回答のため、必ずしも合計は100%にならない)

※上は回答数上位6項目のみを抜粋した表である

- 若い年代ほど「休業中の収入が心配だから」、「職場・同僚の理解が得られないから」、「休業後の待遇面が心配だから」が高い傾向にある。

V 資料編

●男女共同参画についてのご意見・ご要望(巻末 自由意見)

◎男女共同参画についてご意見・ご要望などがございましたら、ご自由にお書きください。

男女共同参画についてのご意見・ご要望等をたずねたところ、260名からの記述回答があった。

回答数としては多くはないが、総じて、1つのテーマに基づいた熱意ある長文の回答が多く、あらためてこの『男女共同参画』(内包・関連する様々なテーマも含む)という分野に関する市民の方々の“熱い思い”が強く感じられる結果となった。

以下、本調査の趣旨に関連ある記載内容のうち、主な意見等を紹介する。

性別／年代	男女共同参画についてご意見・ご要望
男性／20代	男女平等が叫ばれる中、近年逆に男性は不利な立場になることも多くなってきたと思う。女性の社会進出はいいことだが、それで男性側が年々不利になるような政策にはして欲しくない。
女性／20代	男女役割分担は、家庭によって違ってはくるが、仕事や家事、育児、介護等、ある程度身につけておくことは大切だと思う。また、家庭内においても地域においても、社会全体が支えあって生きていけるよう、意識作りや制度が整っていく必要があると思う。特に女性においては、仕事を持ちながら育児をしている人が増えてきており、また、核家族化が進んできている中、ストレスを解消する場が少ないと思う。育児の不安、仕事でのストレスを解消するためにも、地域ですぐに相談にのれる場の提供、情報の提供をすべきだと思う。
女性／20代	女性が妊娠、出産した時など、会社に勤めている場合、辞めなければならない会社がまだまだたくさんあるので、もっと育児休業や産休が取得できるようにしてほしい。男性も奥さんが妊娠、出産前後の時期など、短時間勤務を抵抗なく取得できるようになったら良いと思う。
男性／30代	近年は男女ともに仕事に就き、“共働き”の生活をする家庭が増えていると思う。夫婦で大事な役職についていれば、退職するにも休暇を取るにも困難になってくる。もっと柔軟に考え、臨機に対応してくれる社会・職場がたくさんできれば嬉しい。そのためにも個々の意識を変えていく必要があると思う。
男性／30代	私は正社員ですが、もっと若い人たちは仕事がない。正社員になれず収入も少ないので共働きが多いのではないかと。会社も景気が悪く、社員もなかなか採用せず、正社員は残業が多いと思う。収入もそこそこで残業もそれなりの時間であれば、生活するのにも自分の時間、家庭の時間を作れると思う。
男性／30代	政治・経済のトップクラスに女性が少なすぎる。リーダーの号令ひとつで組織や社会は変わるはずである。男女平等の意識が少ないと思われる年代のリーダー達は、若い世代に道を譲り、新しいリーダーが現れるべきだと思う。
女性／30代	男性も世の中も育児や家事は女性がやるものと考え人が多い。お互いに分担しながら行うには、家庭内で話し合うのが一番だと思うが、はたしてうまくいくのだろうか。無理だろうとあきらめている人も多いのではないかと。
女性／30代	育児について悩み困っている方がたくさんいるようなので、早く改善されたら良いと思う。このようなアンケートに賛成する。今後も市民の声がリアルに届くように。

女性/ 30代	男女ともに育児、介護休暇が認められていながら実際に取得した男性の話を身近では聞いたことがない。休暇中の給与補償、復帰後の仕事の保証を行っている企業があればマスコミ等で紹介し、その企業に何らかの助成をする等、周囲の意識改革をするべきであり、もっと安心して仕事と育児が続けられる環境をつくる必要がある。
女性/ 30代	女性が働く環境が整うのはいいと思うが、それで仕事と育児のバランスに悩む人が減るとは思えない。仕事を頑張れば頑張る程、子供との時間を取るのに難しいような気もする。育児だけをしたい人もいるけど、家計が大変で働かなくてはいけない人もいると思う。人それぞれの生活、環境に合った制度、考え方が必要かと思う。
女性/ 30代	気持ちのどこかで、女性だから子供や家庭のためにやりたいことをあきらめなきゃいけないのかなと思うこともある。社会生活と家庭生活の中でバランスをとって生活することが女性にも必要だと思う。
女性/ 30代	働く女性には家事・育児・介護など家庭生活の役割が重くなってきていて、「共同」というわりに男性の社会は何も変わっていないように見受けられる。実際、育休を取得する男性が市役所の中にどれだけいるのか。休業補償面が恵まれている公務員からでも、意識を変えていく先頭として実際に実践してみたら良いのでは。
女性/ 30代	私は専業主婦だが、その専業主婦が一番忙しくて時間がない。町内会役員、子供会、学年委員など、様々な「収入にならない仕事」が押しつけられるからだ。
女性/ 30代	調査を行う事は構わないが、調査を行うことで満足しないしてほしい。これからの施策が大切なのであって、調査に対しての市や行政がどういう対策や政策をしたかが大事だと思う。調査に回答してくれた方も多忙な中で記入してくれているので、その好意を無駄にしないでほしい。
女性/ 30代	旦那が育児に関して積極的なので、旦那に対して不満はない。だが、多くの友人の話では旦那さんが家事や育児に協力的ではないと聞く。もっと、男性が家事、育児の大変さを理解し、その中で子育てを楽しもうという意識を持つことが大切だと思う。そうするためには男の人が家事や育児に抵抗なく参加できるような環境をつくる必要があると思う。
男性/ 40代	老後が心配な国民がこれ程多い国家はとても先進国とは呼べないと思う。地方自治体の政策に限界があると思うが、逆に地域密着型の独創的かつ有効的な政策を実現できる位置にあると思う。
男性/ 40代	昔の状態から比較すれば、男女雇用機会均等制度の導入により平等な社会にもなっているように感じる。女性の育児は浸透してきていると思われるが、男性の家族事情での理解はまだ浅いことは実感できる。介護のための休暇などは認められるのだろうか不安に思う。
女性/ 40代	子供が小学生になり「児童クラブ」に登録したが、「待機児童が多いため、優先順位を考えると、パート勤務の方は遠慮して欲しい」と一年未満で利用できなくなった。近所で「働きに出たい」と思う人、「働きに出るまではできないが収入が欲しい」と思う人、などいるので、近年の保育サポーター制度をもう少し上手に、気がねなく活用できるように工夫し、広報すれば良いと思う。
女性/ 40代	介護は「嫁が中心にするのが当然」という空気が育児以上に強く、まだ先の話だが精神的負担が大きい。高齢の独り暮らしから施設入居の前段階での「介護サポーター制度」などはあるのか。介護サービスも経済負担が大きいのではないかと不安である。

男性/ 50代	スウェーデンなどは男女共同参画が進んでいるが、日本はあせらずじっくりと男女共同参画の方向へ歩を進めたら良いと思う。男女共同参画を実現するためには、多くの課題をクリアする必要があり、まず時間をかけて議論を深めて行くべきで、結果として多様性のある男女共同参画社会を作りあげて欲しい。
女性/ 50代	結婚して子供ができれば、母親は育児に家事に、父親は仕事をしてもらい、休暇は家族で楽しむということが一番だと思う。女の人には子供を産んで育てる、男の人にはできないことである。どうしても働かなくてはいけない状況でなければ女の方は家を守るべきである。
女性/ 50代	男女共同という事は必要な事かもしれないが、夫婦で夫の仕事で家計が成り立つなら妻はパートで子供が大きくなってからの仕事が理想と思う。やはり子供は母親が小さい時は一緒に、大きくなるにしたがい夫(男親)の子への接し方が重要となる様に思う。子が小さい間は家庭での生活が望ましいと思う。
女性/ 50代	今回このような機会を与えられ、家事と仕事の両立が大変だった事をつくづく思い出した。これから将来は、女性の育児と仕事が両立できるような時代が出来れば良いと思う。
男性/ 60代	推進にあたってはテレビ・ラジオ等公共のものによる啓発も必要かと思う。
男性/ 60代	男性、女性の特性がある事を認めた上での共同参画であってほしいと思う。人間として平等ではあっても、男だからできる事、女にしかできない事があると思う。お互いが補いながら、家庭生活、社会生活を営んで行くのが良いと思う。
女性/ 60代	娘は結婚して仕事を続けている。これから子供を出産して、育てていけるのか、悩んでいるようだ。男性が積極的に家事・育児参加できる社会を望んでいる。
女性/ 60代	家庭での男女共同参画は夫婦の意識、特に夫の意識によって違うと思う。夫の家事参加を高めるには、夫の育ってきた家庭、両親のあり方がかなり影響すると思うので、家庭教育とともに学校教育でも小さいうちから、男女共同参画があたり前という教育をすべきだと思う。
女性/ 60代	この意識調査が、市政により多く反映されることを望む。これからも「エル・パーク」や「エル・ソーラ」などの活動の場をより充実させ、女性が社会生活に参画し、意識を改革、向上していけるように支援や、情報の提供をよりいっそう願っている。そして市民一人ひとりの声を大切に、市政に生かしてほしいと願っている。
女性/ 60代	本当の男女共同参画というのは、1人1人が自由に自分の生き方ができる社会だと思う。収入が多くななくても家に留まりたい人や、どうしても働きたい人や、子育てを終えたあと働きたい人とか、各々の人が自由に自分の望む生き方が出来る社会だと思う。
男性/ 70代以上	社会全体が男女共同参画について意識しないで行動するようになるには、数年、いや10年以上かかるかもしれない。とにかく常にあらゆる機会に意識の向上をはかるプレゼンテーションを実施する必要があると考える。
女性/ 70代以上	これからは男女共同参画が職場でも家庭でも必要不可欠であるが、家庭は良いとしても職場の実態はまだまだ不満が多い。意識の向上をはかりながら、職場の環境を整え、経営者、勤労者一体となって、一步一步向上をはかっていくしかないと思う。

家事や育児等と仕事との両立に関する意識調査

ご協力をお願い

仙台市では、平成21年に策定した「男女共同参画せんだいプラン [2009-2010]」に基づき、男女共同参画に向けた取組みを推進しています。重点課題のひとつである「子育て・介護・地域活動等と仕事との両立の支援」、「労働の分野における男女共同参画の推進」では、その取組みに、男性の家事参加、女性の就業や就業継続支援、ワーク・ライフ・バランスの推進などを掲げています。

本調査は、市民の方々のお考えやご意見をお伺いしながら、これらの施策を進めるための基礎調査として実施するものです。市内にお住まいの20歳以上の方の中から、無作為に選んだ男女2,500名の方を対象にアンケートに協力をお願いすることにいたしました。

お答えいただいた内容については、すべて「このようなご意見が何パーセント」という形で設問ごとに集計し、個人名等が明らかになることはありません。また、調査結果はこの調査の目的以外には一切使用いたしません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成22年2月

仙台市 企画市民局
市民生活部 男女共同参画課

<アンケート調査票のご記入及びご返送にあたって>

- ・本アンケート調査票は、あて名のご本人様がご回答ください。
 - ・ご記入は黒か青のボールペンまたは鉛筆でお願いいたします。
 - ・ご回答は、質問項目によって、あてはまる番号に指定された数だけ、○をつけてお答えいただくものと、記述してお答えいただくものがありますので、お間違えのないようにお願いいたします。
なお、「その他」を選んだ場合には、() 部分に具体的内容をご記入ください。
 - ・ご回答いただきました記入済みの調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）にて、平成22年2月26日（金）までにご投函くださいますよう、お願い申し上げます。
- ※なお、調査票や返信用封筒に住所・氏名をお書きになる必要はありません。

【調査に関するお問い合わせ先】

仙台市 企画市民局 市民生活部 男女共同参画課 企画推進係

〒980-8671 仙台市青葉区国分町三丁目7番1号

TEL (022)214-6143 FAX (022)214-6140

E-mail : sim004180@city.sendai.jp

受付時間 9:00 ~ 17:00まで (土・日・祝日を除きます)

男女共同参画に関する意識についておたずねいたします。

問1. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった考え方について、あなたはごどう思いますか。
(○は1つ)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 賛成 | 3. どちらかと言えば反対 |
| 2. どちらかと言えば賛成 | 4. 反対 |
| | 5. わからない |

問2. あなたは次のような分野で、男女の地位が平等になっていると思いますか。
下記①～⑦の各項目についてそれぞれお答えください。(それぞれ○は1つ)

(それぞれ○は1つ)	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が優遇 されている	平等	どちらかといえば 女性の方が優遇 されている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない
①家庭生活では	1	2	3	4	5	6
②職場では	1	2	3	4	5	6
③学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
④政治の場では	1	2	3	4	5	6
⑤法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
⑥社会通念・慣習・しきたりとしては	1	2	3	4	5	6
⑦町内会やNPO団体など地域活動の場としては	1	2	3	4	5	6

この調査における『家事や育児等』とは、「炊事」、「買い物」、「洗濯」、「掃除」、「子供の世話」、「介護」、「その他の家事」(整理、片付け、銀行・役所に行く等)などを指します。

問3. あなたは、一般的に男性が家事や育児等を行うことについてごどう思いますか。
あなたのお考えに最も近いものを次の中からお選びください。(○は1つ)

- | | | |
|-------------------|---|-----------|
| 1. 積極的に行うべきである | } | 次ページの問3①へ |
| 2. なるべく行うべきである | | |
| 3. あまり行うべきではない | } | 次ページの問4へ |
| 4. 一切行うべきではない | | |
| 5. なんともいえない・わからない | | |

前ページ問3で「1. 積極的に行うべきである」または「2. なるべく行うべきである」とお答えの方
におたずねします。

問3①. “行うべき”と思う理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1. 妻の負担が軽減できるから
2. 一般的に、男性はあまり家事を行っていないと思うから
3. 夫婦や親子で協力して家事をするのは当たり前だから
4. 一人の人間として、基本的な生活技術を習得すべきだから
5. 老後や一人暮らしになった場合などのことを考え、男性も家事をできた方がよいから
6. 家族のきずなが深まるから
7. 子供の世話をすることは、父親にとっても子どもにとってもよいことだから
8. 家事の重要性を実感できるから
9. 家事は楽しいものであるから
10. その他 ()

問4. あなたはご家庭において、家事や育児等を行っていますか。(〇は1つ)

1. 十分行っている
2. 行っているが、十分ではない
3. 行いたいと思っていないが、実際には行っている
4. 行いたいと思っているが、実際には行っていない
5. 行いたいと思っておらず、実際にも行っていない

問5. あなたは、生計、家事や育児等に関し、配偶者との分担の割合をどのように考えていますか。

『理想』と『現実』について、下記の項目ごとにそれぞれお答えください。

- ※1 ①『理想』に関し、配偶者がいない方は、いる場合を想定してお答えください
 ※2 “割合”はあなたと配偶者で合計が10になるようにご記入をお願いいたします
 また下記(記入例)を参考に、小数点を含まない数字でのご記入をお願いいたします
 ※3 ②『現実』については、配偶者がいる方のみお答えください

(記入例) 1. 生計のために収入を得る

あなた	8	配偶者	2
-----	---	-----	---

<p style="text-align: center;">①『理想』</p> <p style="text-align: center;">《全員がお答えください》</p> <p>1. 生計のために収入を得る あなた <input style="width: 40px;" type="text"/> 配偶者 <input style="width: 40px;" type="text"/></p> <p>2. 家事や育児等を行う あなた <input style="width: 40px;" type="text"/> 配偶者 <input style="width: 40px;" type="text"/></p>	<p>配偶者がいる方は こちらをご記入ください</p>	<p style="text-align: center;">②『現実』</p> <p style="text-align: center;">《配偶者がいる方のみお答えください》</p> <p>1. 生計のために収入を得る あなた <input style="width: 40px;" type="text"/> 配偶者 <input style="width: 40px;" type="text"/></p> <p>2. 家事や育児等を行う あなた <input style="width: 40px;" type="text"/> 配偶者 <input style="width: 40px;" type="text"/></p>
---	---------------------------------	---

問10. あなたは「仕事」と「日常生活」(家庭生活、家事や育児等、趣味・娯楽など)の優先度合いについて、普段どのように考えていますか。『理想』と『現実』について、それぞれお答えください。

(それぞれ〇は1つ)	仕事を優先	どちらかという 仕事を優先	仕事と 日常生活を ともに優先	どちらかという 日常生活を優先	日常生活を 優先
①理想 ("こうしたい"と思っている)	1	2	3	4	5
②現実 (実際には"こうしている")	1	2	3	4	5

◀問11は、前ページ問7で「2. (仕事に)就いていない」とお答えの方にだけおたずねします▶

問11. あなたは今後、仕事に就きたいと思いますか。(〇は1つ)

- | | | | |
|-------------------------------------|---------|---|---------|
| 1. すぐにも仕事に就きたい | ⇒ 問11①へ | } | ⇒ 問11②へ |
| 2. すぐに仕事に就きたいとは思わないが、しばらくしたら仕事に就きたい | | | |
| 3. 仕事に就きたいとは思わない | | | |

上記問11で「1. すぐにも仕事に就きたい」とお答えの方におたずねします。

問11①. あなたが仕事に就いていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 賃金・給料が希望とあわないため | 8. 家族が望んでいないため |
| 2. 勤務時間・休日などが希望とあわないため | 9. その他 |
| 3. 求人者の年齢と自分の年齢とがあわないため | () |
| 4. 自分の技術や技能が求人要件に満たないため | |
| 5. 希望する種類・内容の仕事がないため | |
| 6. 条件にこだわらないが仕事がないため | |
| 7. 育児や介護を頼める人や施設がないため | |

上記問11で「2. すぐに仕事に就きたいとは思わないが、しばらくしたら仕事に就きたい」
または「3. 仕事に就きたいとは思わない」とお答えの方におたずねします。

問11②. あなたが現状で仕事に就きたいとは思わない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-----------------------|-------------------------------|
| 1. 経済的に働く必要がないため | 8. 家族が望んでいないため |
| 2. やりたい仕事が見つからないため | 9. 仕事を持たない方が自由だと思うため |
| 3. 就職先を探しているが見つからないため | 10. 現在は就学中のため |
| 4. 家事や育児等に専念したいため | 11. 学校などで資格や技術を身につけたいため |
| 5. 家事や育児等との両立が難しいため | 12. 仕事以外の活動(ボランティア活動等)をしているため |
| 6. 健康や体力に自信がないため | 13. その他 () |
| 7. 高齢のため | 14. 特に理由はない |

《ここからの「ワーク・ライフ・バランス」に関する設問は全員がお答えください》

＜ワーク・ライフ・バランス＞

直訳すると「仕事と生活の調和」。男女がともに、人生の各段階において、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、様々な活動について、自らの希望に沿った形で、バランスをとりながら展開できる状態を実現することをいいます。

問12. あなたはこの「ワーク・ライフ・バランス」という言葉をどの程度知っていますか。(○は1つ)

1. 名前も内容も知っている
2. 名前は聞いたことがあるが、内容は知らない
3. 名前も内容も知らない(今回初めて知った)

問13. あなたは普段、仕事、家事や育児等、趣味・娯楽など、自分が希望する時間の使い方ができていると思いますか。(○は1つ)

1. できていると思う
2. まあできていると思う
3. どちらともいえない・分からない
4. あまりできているとは思わない
5. できているとは思わない

問14. あなたはご自身の「ワーク・ライフ・バランス」の実現のため、何が重要だと思えますか。

下記の2つの項目について、それぞれお答えください。(それぞれ○は3つまで)

※①について、仕事に就いていない方は、一般的な視点でお答えください

①【企業・職場で必要と思う取組み】	(○は3つまで)
1. 経営者・経営層の意識改革	7. 各種休暇・休業を取りやすくする
2. 管理職の意識改革	8. 休日(社休日)の増加
3. 一般社員の意識改革	9. 短時間勤務制度の導入
4. ムダな業務・作業をなくす	10. 在宅勤務制度の導入
5. 一人あたりの業務量を減らす	11. ワークシェアリングの導入
6. 残業を減らす	12. その他 ()
②【政府・自治体で必要と思う取組み】	(○は3つまで)
1. 告知・PR・情報提供の徹底	6. 保育所など子育て支援の拡充
2. 政府・自治体自らが実践する	7. 各種支援制度の充実・導入促進
3. 先進企業の事例紹介	8. 官民一体となった各種運動の展開
4. 先進企業の表彰・顕彰	9. 推進するための法規制の強化
5. 実践企業への助成金の支給	10. その他 ()

問15. 「ワーク・ライフ・バランス」(仕事と生活の調和)の実現のために、あなたが普段実施していること、心がけていることがあれば、ご記入ください。

(記入例) 家事や育児等と仕事のどちらにおいても、優先順位を決めて効率的に行うようにしている	など

女性の就労についておたずねいたします。

問16. 一般的に、女性が職業をもつことについて、あなたはどのように思いますか。
あなたのお考えに最も近いものをお選びください。(○は1つ)

1. 女性は職業をもたない方がよい
2. 結婚するまでは職業をもつ方がよい
3. 子供ができるまでは、職業をもつ方がよい
4. 子供ができたら職業をやめ、子供が大きくなったら再び職業をもつ方がよい
5. 子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい
6. その他 ()
7. わからない

◀ 次の設問は既婚の女性の方が対象です ▶

男性の方、未婚の方は次ページの問18へ

問17. あなたは、結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに勤め先を辞めたことがありますか(休職・出向は除く)。
※勤め先が変わった経験の中には、起業・独立したり、自営の方が事業を変更したようなケースも含まれます
(○は1つ)

- | |
|--|
| 1. 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに勤め先を辞め、1年を超える期間仕事をしなかったことがある |
| 2. 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに勤め先を辞め、1年以内に別の勤め先が変わったことがある |

⇒ 次ページの問17①へ

3. 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけとして勤め先を辞めたことはない ⇒ 次ページの問18へ

前ページ問17で、「1. 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに勤め先を辞め、1年を超える期間仕事をしなかったことがある」
または「2. 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに勤め先を辞め、1年以内に別の勤め先に変わったことがある」
とお答えの方にだけおたずねします。

問17①. あなたが結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに勤め先を辞めたのはなぜですか。
複数回辞めた経験がある方は、最初に辞めたときのことについてお答えください。
(〇はいくつでも)

1. 家事や育児等に時間をとりたかったため
2. 家事や育児等に対して配偶者などまわりの人の支援が得られなかったため
3. 勤め先や仕事の状況から働き続けるのは難しかったため
4. 家事や育児等と両立する努力をしてまで続けたい仕事ではなかったため
5. 配偶者など家族が希望したため
6. 辞めるのが当然だと自分自身で思ったため
7. 体力面で厳しかったため
8. 結婚に伴い転居しなければならなかったため
9. 保育所や放課後児童クラブなどの保育サービスが十分利用できなかったため
- 10.他にやりたいことがあったため
- 11.その他 ()

《この設問は全員がお答えください》

問18. 男女がともに、仕事と家庭を両立していくためには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。
(〇はいくつでも)

1. 昇進・昇給・仕事内容等、職場での男女平等の推進
2. 労働時間の短縮
3. 短時間勤務・在宅勤務・フレックスタイム(時差勤務)の普及促進
4. 配偶者・家族の理解や同意
5. 配偶者や家族の家事や育児等への積極的な参加
6. 保育施設や各種サービス(一時保育・病児保育等)の充実
7. 介護施設や各種サービス(デイサービス・配食サービス等)の充実
8. 育児のための休暇・休業を取りやすい職場環境
9. 介護のための休暇・休業を取りやすい職場環境
- 10.女性自身の仕事に対する意欲・能力を高めること
- 11.男性の意識(「男は仕事、女は家庭」等)を変えること
- 12.女性の意識(「男は仕事、女は家庭」等)を変えること
- 13.結婚・妊娠・出産・育児などによる退職後の再雇用制度の普及
- 14.女性のための能力開発や技術習得のための各種講座・研修会の実施
- 15.女性向け求人・職業情報の積極的な提供
- 16.仕事や職場環境等についての女性向け相談窓口の設置
- 17.女性パートタイム労働者や契約社員・派遣社員等の労働条件の改善
- 18.地域における各種支援(子育て・介護等)の充実
- 19.その他 ()
- 20.わからない

各種休業制度についておたずねいたします。

問19. あなたは次の制度を知っていますか。また、利用したことがありますか。(それぞれ○は1つ)

	利用しており、 知ったことがある	制度を利用する 機会がなかった	知っているが、 利用できなかった	知っているが、 利用しようとは思わなかった	知らなかった
(それぞれ○は1つ)					
①「育児休業制度」	1	2	3	4	5
②「介護休業制度」	1	2	3	4	5

①「育児休業制度」：働く男女が原則として1歳未満の子供を養育するために休業できる制度

②「介護休業制度」：働く男女が家族を介護するために休業できる制度

問20. 「育児休業制度」、「介護休業制度」はともに、女性に比べて男性の利用者が少ないのが現状です。
あなたはその理由は何だと思えますか。(○はいくつでも)

1. 育児や介護は女性の役割であるという認識が強いから
2. 男性が育児や介護に参加することへの周囲の偏見があるから
3. 職場・同僚の理解が得られないから
4. 職場・同僚に迷惑をかけるから
5. 仕事が忙しく、利用する余裕がないから
6. 休業中の収入が心配だから
7. 休業後の待遇面が心配だから
8. 育児や介護に参加することへの男性自身の心理的抵抗があるから
9. その他 ()

最後に、あなた自身のことについておたずねいたします。

F1. あなたの性別をお答えください。(〇は1つ)

1. 男性 2. 女性

F2. あなたの年代をお答えください。(〇は1つ)

1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代
5. 60代 6. 70代以上

F3. 現在同居されている家族の構成をお答えください。(〇は1つ)

1. ひとり暮らし 4. あなたの世代と子供(二世世代世帯)
2. 夫婦ふたり暮らし(一世世代世帯) 5. 親と子供と孫(三世世代世帯)
3. あなたの世代と親(二世世代世帯) 6. その他()

F4. 結婚の有無についてお答えください。(〇は1つ)

※「結婚」は“事実婚”も含みます

1. 結婚している 2. 結婚していない ⇒ F5へ

上記F4で「1. 結婚している」とお答えの方にだけおたずねします。

F4①. 「勤務形態」について、あなたのご家庭ではどのようになっていますか。(〇は1つ)

1. 夫はフルタイムで働き、妻は専業主婦
2. 夫はフルタイムで働き、妻はパートタイム勤務
3. 夫も妻もフルタイムで働く
4. 妻はフルタイムで働き、夫はパートタイム勤務
5. 妻はフルタイムで働き、夫は専業主夫
6. その他()

F5. お子さまの有無についてお答えください。(〇は1つ)

※同居・別居の有無は問いません

1. 子供がいる 2. 子供はいない

上記F5で「1. 子供がいる」とお答えの方にだけおたずねします。

F5①. お子さまの人数をお答えください。(〇は1つ)

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上

F5②. 一番下のお子さまの年代をお答えください。(〇は1つ)

1. 乳幼児(幼稚園以下) 4. 高校生
2. 小学生 5. 高校卒業以上(18歳以上)
3. 中学生

「家事や育児等と仕事との
両立に関する意識調査」報告書

平成 2 2 年 3 月 発行

発 行 仙台市 企画市民局 市民生活部
男女共同参画課 企画推進係

〒980-8671 仙台市青葉区国分町 3 丁目 7 番 1 号

tel 022-214-6143 fax 022-214-6140

URL [http://www.sendai.jp/shimin/danzyo/
danzyo/index.html](http://www.sendai.jp/shimin/danzyo/danzyo/index.html)

E-mail : sim004180@city.sendai.jp